

教育・研究年報

2025年



徳島文理大学短期大学部

令和8年5月1日

短期大学部年報の刊行にあたって

短期大学部長 岡部 千鶴

本年報では短期大学部教員の令和7年度の活動を研究、教育、学外及び学内活動の3つの項目別にまとめている。

開学以来、短期大学部（以下、「本学」）では、「自立協同」の建学精神に基づき、一人ひとりの学生を大切にすきめ細かい指導を行っている。この建学精神のもと、「高度の知識技術を研究教授し、人格の陶冶を図り、文化の創造と発展に貢献する人材の育成」を教育理念に掲げ、それを具現化するため、以下の二つの観点から教育課程を編成している。

その一つは、社会的常識や幅広い教養を身に付け、コミュニケーション能力の豊かな人材を育てること（教養教育の充実）である。もう一つは、専門的職業能力を養い、実社会に必要な資格取得やスキルを修得すること（キャリア教育の実践）である。

修業年限が2年間という限られた期間に学生への教育効果を高め学習成果の獲得を達成するため、本学では様々な取り組みを実践している。

まず入学前教育としてガイダンスを行うとともにe-ラーニングを利用した課題を示し、入学後の学習に対する素地の形成と導入を行っている。入学後の「新入生アンケート」では学生の目的意識等を質問し、「ニーズ」把握を行っている。在学時には「授業調査」「学習状況調査」「個別面談」を実施している。本学は社会での即戦力として活躍できる人材の育成を目指しており、各種調査結果を速やかに教育内容に反映させ改善するべく、教員は日々研鑽を積んでいる。

卒業時は「卒業生に対する満足度調査」を実施し、教育内容の見直しに活用している。さらに就職先企業を対象にした調査を行い、本学の教育内容に関する外部評価を真摯に受け止め、改善につなげている。

本年報は「自己点検・自己評価」として、教育の内部質保証に関わるPDCAサイクル実践に相当する。教育内容がさらに充実し、教員の資質向上に資するものとなることを期待している。

目 次

§ 短期大学部年報の刊行にあたって

頁

* 生活科学科

岡部	千鶴		1
藤本	賀代		3
松村	純子		10
松新	晃子		18
佐居	佳子		24
儀賀	孝子		32
近宝	修幸		38
藤			40

* 保 育 科

児嶋	輝美		45
釘宮	貴子		52
岡部	祐子		67
島田	俊朗		74
山越	明子		77
船本	孝新		81
下内	吾聖		86
木内			88

* 言語コミュニケーション学科

堀口	誠信		96
早雲	洋一		103
小川	陽子		105
金澤	朋紀		108
リチャード	ジャスティン	デッカー	111

* 音 楽 科

原井	俊典		113
熊谷	公博		116
井村	幸子		118
米延	賢治		121

* 商 科

則包	光徳		123
森本	卓治		126
山川	晃里		129
川道	映秀		131
佐尾	武樹		136
岡本			138

* 一般総合科目

青山	佳裕		140
永本	智富		142
金	徑希		145

○ 全学授業アンケート		148
○ 在学生対象・学修状況アンケート		152
○ 卒業予定者対象・大学生生活満足度アンケート		160

氏 名	岡 部 千 鶴 (お か べ ち づ る)			
所属・職の種類	短期大学部生活科学科 教 授 (学部長)			
最終学歴	お茶の水女子大学大学院家政学研究科家庭経営学専攻 (家政学修士)			
着任の年月	令和 3 年 4 月 1 日			
直前の職歴 (学校・企業等)	徳島文理大学人間生活学部人間生活学科			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 該当なし				
科研費採択状況 (過去 2 年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去 2 年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔大学院関係〕 ①前期担当授業科目名等 「家族関係学特論Ⅰ」 人間生活学研究科児童学専攻 1 年生 2 名 ②後期担当授業科目名等 「家族関係学特論Ⅱ」 人間生活学研究科児童学専攻 1 年生 2 名 〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「家庭経営学」(人間生活 1 ～ 4 年、食物栄養 1 年、建築デザイン 1 ～ 4 年、総合政策学部 4 年、留学生等、計 60 名。月曜日 1 講時) ②後期担当授業科目名等 「消費生活論」(人間生活 2 年、食物栄養 1 年、建築 2 ～ 4 年、心理 2 年、総政 4 年、計 46 名。水曜 2 講時) 「家族関係学」(人間生活 3 年、食物栄養 2 年、心理 3 年、計 30 名。木曜 4 講時) 「家庭支援論」(児童 3 ～ 4 年、人間生活 3 年 計 39 名。 金曜 1 講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「生活科学論」(生活科学科生活科学専攻 1 年生。 8 名。金曜 2 講時) 「総合科目 D (スイーツ開発)」(生活科学科生活科学専攻 1 年生。 計 8 名。金曜 5 講時)			

授 業	②後期担当授業科目名 「家庭支援論」（保育2年。11名。水曜4講時） 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期（ 4 ）コマ} \\ \text{後期（ 5 ）コマ} \end{array} \right\}$ 計（ 9 ）コマ 〔その他の指導状況〕 なし 〔大学院等の論文の指導〕 なし
学生指導	1. 単位不足学生への指導 2. レポート作成に関する個別指導 3. 就職に対する助言・指導
活 動	
学外活動	〔公的機関の活動〕 徳島県「徳島地方労働審議会」委員・副会長 徳島県「職業能力開発審議会」委員 徳島県「大規模小売店舗立地審議会」委員 徳島県「消費生活審議会」委員 徳島県「生活環境審議会」委員 徳島県「とくしま消費者政策研究・高等教育機関ネットワーク」会議委員 久留米ユニセフ協会 評議員 〔非常勤〕 八女筑後看護専門学校へ出講。担当科目「文化と生活」 (9～12月、集中講義) 〔全出講回数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期（ 4 ）回} \\ \text{後期（ 4 ）回} \end{array} \right\}$ 計（ 8 ）コマ 〔学会関連〕 日本家政学会家族関係学部会 日本家政学会中国四国支部 日本消費者教育学会 論文査読 〔その他の活動〕
学内活動	①短期大学部学部長 ②認証評価ALO ③各種委員会委員

氏 名	藤 本 和賀代 （ ふじもと わかよ ）			
所属・職の種類	短期大学部生活科学科 教授（学科長）			
最終学歴	奈良女子大学大学院 博士（生活工学）			
着任の年月	平成26年 4 月			
直前の職歴 （学校・企業等）	奈良県立高等技術専門学校 教員			
研 究 （業績：過去 5 年間）				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔論文〕 ① 研究紀要 1 「徳島文理大 学短期大学部にお けるボランティア パスポートの取り 組みについて ―遠隔授業による ボランティア活動 推進の試み―」	共	令和 5 年 3 月	徳島文理大学研究紀 要第105号	本学では2016年から、徳島県及び徳 島大学と連携してボランティアパス ポート制度を導入し、一定の講義と 活動時間の条件を満たすことによっ て「総合科目 A（ボランティア）」 として単位を認定している。しか し、2020年はコロナ禍によって授業 を開講することができず、学生の活 動も停滞した。そこで2021年度は感 染予防対策と学生の受講の利便性を 考慮して、グーグル・クラスルーム とZoomを用いて遠隔授業を行った。 本研究は受講者に対するアンケート 調査によってその成果を検証すると ともに、ボランティアパスポートの 意義や今後の課題について考察する ものである。 児嶋輝美・島田俊朗・藤本和賀代・ 松下純子・則包光徳・堀口誠信
2 「ファッショ ン分野における地 域貢献の取り組み ―サスティナブル ファッションショー 参加より―」	単	令和 5 年 9 月	徳島文理大学研究紀 要第106号	この度、当専攻の総合実習授業にお いても地域貢献活動に取り組んだ。 活動内容としては徳島県が主催する 「とくしまSDGsシンポジウム2022」 において県内の企業や他学校と連携 しサステナブルファッションショー おこなうことである。学生は古着の リメイクを自分達で行いそれらを着 用しサステナブルファッション ショーに出演した。そして多くのこ とを感じたようである。先ず、興味 の無かったサステナブルファッショ ンに興味を持った。リメイクは簡単 では無かったが面白さを学んだ。発 想力・技術力の向上に繋がった。服 を大切に思うようになったなど、ア ンケート調査より確認できた。そし て、地域貢献活動は、学生を学外へ 連れだす絶好の機会となった。また

3 「後期高齢女性の熱中症対策に有効なブラウスデザインの検討」	単	令和6年3月	徳島文理大学研究紀要第107号	多くの制約の中、いままでの被服製作とは異なった視点からファッションについて考えるようになった。 熱中症による死亡率は80代女性が最も多く、また熱中症の発生場所は圧倒的に住居内が多い。そこで、高齢女性が日常的に着用する衣服で多少なりとも改善できないか検討を行った。 夏用衣服の選び方としては通気性などの機能面が最重要であるが、女性にとってデザインなど好みも大切な要素である。そこで機能と嗜好の両面から検討を行った。 結果、機能面では衣服内の湿度が快適性に大きく影響しており、日本など高温多湿の中では袖はより短い方が適している事が分かった。しかし、高齢者がこだわるデザインは、①袖無しを避ける、②襟元は開き過ぎない、③着丈はヒップラインが隠れるなど機能面と嗜好面では相反する結果となった。
4 「寒さ対策に効果的な冬物衣服の着用法について—衣服内気候の計測結果より—」	単	令和6年9月	徳島文理大学研究紀要第108号	高齢者にとって夏の暑さより冬の寒さの方が健康に対するダメージが大きいと言われている。実際、冬はヒートショックによる心臓疾患・脳血管疾患をはじめ、さまざまな病気が増える時期である。そのため高齢者は厚着をする傾向にあるが、ただでさえ筋肉がこわばり動きにくくなる上に、厚着をすれば行動が制限され怪我のリスクを増大させてしまう。冬を快適に暮らすためには、ただ単に厚着をするのではなく効率良く重ね着をすることが重要である。そこで今回、体の一部のみを厚着した時の平均衣服内温度を測定し、どの部分を厚着するのが最も効果的かを調べた。結果、膝下を厚着した時が最も平均衣服内温度が上昇し、保温に効果的であることが分かった。
5 「熱中症対策に適した幼児下着素材の検討」	単	令和7年9月	徳島文理大学研究紀要第110号	年々過酷になる夏の暑さは体力の無い幼児にとって厳しい季節である。そこで、熱中症対策に適した幼児下着素材の検討をおこなった。 まず2歳児、5歳児に設定温度の異なる部屋を移動して過ごしてもらい衣服内温度、湿度を計測した結果、体温調整は5歳児より2歳児の方が未熟であり、衣服内温度が上がってから汗をかくまでに時間が掛かっ

〔発表〕 1 「後期高齢者における夏用ブラウスのデザイン検討」	単	令和3年5月	服飾文化学会第22回大会 (於：杉野服飾大学) オンライン	た。低年齢児ほど熱がこもりやすく熱中症に対する注意が必要であることが分かった。次に、猛暑日を想定し、夏向きの4種類の下着を着用して快適度合いを検討した結果、実験データでは新機能素材（レーヨン56%、ナイロン40%、ポリエステル4%）が一番優れていたが母親は購入するなら、洗濯の強さや経済面も含めて選択し綿（100%）のメッシュ下着を選んだ。 後期高齢者における夏服の快適性には衣服内の湿度が大きく影響する。衣服内湿度が高くなってくると服地の吸湿・放湿作用の限界値（衣服内湿度80%前後）を超え、袖の長い方が急に湿度が上がる。高温・多湿の日本の夏季では袖はより短い方が適していると言える。しかし、日常生活の実証試験では、盛夏の中でも暑い屋外から涼しい屋内への移動場面が多く、袖丈が短いと環境変動の影響をダイレクトに受けることになり夏バテを起こしやすくなる。 藤本和賀代
2 「熱中症対策に有効な後期高齢者向け衣服デザインの検討」	単	令和3年5月	日本家政学会全国大会第73回 (於：神戸女子大学) オンライン	モニター（78歳女性）の日常生活における衣服内温度・湿度を計測し夏服の快適性について調査を行った。高温低湿度では長袖、高温高湿であれば袖はより短い方が適していた。日本では袖はより短い方が適しているが盛夏の日常生活では暑い屋外から涼しい屋内など温度差の大きい場所への移動場面が多く、袖丈が短いと温度差の影響をもろに受け衣服内気候が急激に変動することによる夏バテを起こしやすいことが分かった。 藤本和賀代
3 「寒さ対策に効果的な冬物衣料の着用法について—衣服内気候の計測結果より—」	単	令和3年10月	日本家政学会第67回中国四国支部大会 (於：徳島文理大学) オンライン	重ね着する場合の効果的着用部位の検討を行った。被験者には2歳、30歳代、50歳代、80歳代の世代別で4名である。世代を問わず上半身対下半身では下半身を温める方が体の平均温度が上昇した。続いて肩胸、お腹、腿、膝下の4部位の比較を行った。その結果、肩胸を温めるのが一番効果的であった。また、冷え性の人にはどの部位を温めようと膝下の温度が一番低く、平均温度の上昇も鈍いことが分かった。幼児においては

4 「ファッションビジネス授業に必要なECショップ運営の知識」	単	令和4年10月	日本家政学会中国四国支部大会（於：山口教育大学）	常時胸につけた計測機の温度が飛びぬけて高かった。 藤本和賀代 今回ファッションビジネス授業に「ECショップによるネット販売」の導入を目指して、学生へのアンケート調査と試験的にECショップの運営を試みた。アンケート結果では、ネット購入は日常化している。また、販売にも興味を持ち、学べる機会を期待している学生が半数以上であることが分かった。 試験的に行ったECショップで分かったことはオープンが簡単だが運営においてはかなりの手間が掛かる。（こまめなSNSによる販売促進、商品の写真撮影、商品説明 他）ネット販売の重要点や指導すべきポイントの検討ができた。 藤本和賀代
5 「リメイク授業における地域貢献の取組み ―サステナブルファッションショー―」	単	令和5年5月	服飾文化学会第24回大会（於：相模女子大学・女子美術大学）	この度、当専攻で地域貢献活動に取り組んだ。具体的には「とくしまSDGsシンポジウム2022」において県内の企業や他学校と連携しサステナブルファッションショーを実施することである。学生達は古着を自らリメイクしモデルとしてショーに出場した。サステナブルファッションショーは好評のうちに終えることができた。地域貢献活動は、学生を学外へ連れ出す絶好の機会でありコロナ禍で閉鎖的になりがちな学校生活の中で視野を広げる機会となった。
6 「とくしまSDGsシンポジウム2022サステナブルファッションショーに参加して」	単	令和5年10月	日本家政学会中国四国支部大会（於：岡山県立大学）	ファッションを学ぶ学生達がとくしまSDGsシンポジウム2022サステナブルファッションショーに参加した。古着をリメイクしモデルも務めた。イベント終了後、参加した学生にアンケートを行ったので結果 (1)リメイクに興味を持つようになった。(2)リメイクの面白さを知った。(3)発想力・技術力の向上に繋がった。(4)何より服を大切に思うようになった。他、学生の感想について報告する。
7 「熱中症対策に有効な幼児向け下着素材の検討 ―衣服内気候計測結果より―」	単	令和6年11月	ファッションビジネス学会・2024年全国大会（於：大阪文化服装学院）	年々過酷になる夏の暑さは体力の無い幼児にとって厳しい季節である。幼児は体温調整機能が未熟で熱中症のリスクが高い。そこで、真夏の子供用下着について検討を行った。

8 「真夏に適した幼児用下着素材の検討」	単	令和7年5月	日本家政学会全国大会第77回 (於：横浜国立大学)	まず2歳児、5歳児に設定温度の異なる部屋を移動して過ごしてもらい衣服内温度、湿度を計測した。その結果、体温調整は5歳児より2歳児の方が未熟であり、衣服内温度が上がってから汗をかくまでに時間が掛かった。低年齢児ほど熱がこもりやすく熱中症に対する注意が必要であることが分かった。 次に、猛暑日を想定し、タイプの異なる4種類の下着を着用して快適度合いを検討した。その結果、新機能素材が一番優れていることが分かった。 藤本和賀代
9 「衣服内温度計測による冷え性女性の部位別温め効果の解析」	単	令和7年12月	ファッションビジネス学会全国大会	近年の猛暑で幼児の熱中症が問題となる中、衣服による対策として下着素材を検討した。2歳・5歳児を対象にWBGT25と28の室内で衣服内温湿度を計測した結果、低年齢児ほど熱がこもりやすく注意が必要であった。4種の下着比較では新素材が最も涼しかったが薄く洗濯に弱い欠点があり、母親アンケートでは涼しさと耐久性を兼ねる一般的メッシュ素材が高評価だった。下着選びには涼しさだけでなく品質・強度・価格のバランスが重視されることが分かった。 藤本和賀代
科研費採択状況 (過去2年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去2年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去2年間)	該当なし			

その他の研究活動	
教 育	
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「被服構成学実習」(建築デザイン学科2年2名、 食物栄養学科3年3名 その他1名 月曜日3、4講時) 「被服管理学」(人間生活学科3年13名、留学生1年2名 建築デザイン学科4年1名 木曜日1講時) ②後期担当授業科目名等 「カラーデザイン論」第3クォーター科目 (人間生活学科3、4年3名 木曜日1講時・金曜日1講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「ファッションクリエイション1」(生活科学科1年7名 火曜日2講時) 「ブライダルコーディネート」(生活科学科1年9名 水曜日1講時) 「被服構成学」(生活科学科1年8名 水曜日2講時) 「カラーコーディネート」(生活科学科1年名 木曜日3講時) ②後期担当授業科目名 「ファッショングッズ」(生活科学科2年4名、総合政策学科4年1名 月曜日4講時) 「ブライダルプランニング」(生活科学科1年6名 月曜日5講時) 「総合実習」(生活科学科2年4名 火曜日1・2講時) 「被服構成学実習」(生活科学科1年7名、水曜日1・2講時) 「総合ゼミナール」(生活科学科1年9名 水曜日5講時) 「カラーコーディネート検定対策」第3クォーター (生活科学科1年6名 木曜日1講時・金曜日1講時) 「ファッションクリエイション2」(生活科学科1年7名 月曜日2講時) 「家庭科教育法」(生活科学科1年1名木曜日4講時・集中講義) 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (8) コマ} \\ \text{後期 (10) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (18) コマ 〔その他の指導状況〕
学生指導	①生活科学科生活科学専攻 2年担任 面接や日々のかかわりの中で学業面、生活面で助言、指導を行った。 ②色彩検定対策の直前個別指導。 ③就職・進学を希望する学生に対し複数回の個別面談を実施し、面接前には面接練習の指導を行った。 ④OC、短大ウェルカムデイにおいて、学生による学科説明のためのパワーポイント資料作成およびプレゼンテーション指導を行った。 ⑤保育科イベント「おとぎのくに」2年生ミュージカル衣装製作指導 ⑥家庭科教員2種免許取得を目指す学生に対し、教案のチェックや模擬授業の指導を授業外でも随時行った。

活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 〔公的機関の活動〕 〔非常勤〕 〔各種講演〕 〔その他の活動〕 ①出張講義 〔サステイナブルファッションについて考えてみよう〕 徳島市立高等学校 2年生34名 令和7年8月7日
学内活動	①短大教務委員 学科長 ②短大ホームページ委員 ③短大就職委員 ④総合型選抜委員 ⑤退学者防止委員 ⑥学科ブログ・Instagram配信担当 ⑦Webオープンキャンパス題目「サステイナブルファッション」担当 ⑧短大コミュニティカレッジ講座秋講座「レッスンバックを製作」担当 ⑨短大認証評価ワーキンググループ ⑩学校案内2025年版学科別担当 ⑪大学入学共通テスト試験監督 ⑫卒業制作展開催（徳島市東新町HIRAOKAギャラリー） ⑬短大ウェルカムデイ運営担当

氏 名	松 下 純 子 （ まつした じゅんこ ）			
所属・職の種類	短期大学部生活科学科 教 授			
最終学歴	徳島文理大学家政学部家政学科管理栄養士専攻（ 学士 ）			
着任の年月	昭和54年 4 月			
直前の職歴 （学校・企業等）	な し			
研 究 （業績：過去 5 年間）				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 1 伝え継ぐ 日 本の家庭料理 第 3 期 どんぶり・雑炊・ おこわ	共	令和 3 年12月	農山漁村文化協会 p 95	日本調理科学会 徳島県「赤飯」について執筆 松下純子、坂井真奈美
2 伝え継ぐ 日 本の家庭料理 第 3 期 年取りと正月の料 理	共	令和 3 年12月	農山漁村文化協会 p 36、37	日本調理科学会 徳島県「雑煮」について執筆 坂井真奈美、松下純子
3 伝え継ぐ 日 本の家庭料理 第 3 期 野菜のおかず 春 から夏	共	令和 3 年12月	農山漁村文化協会 p 112、113	日本調理科学会 徳島県「ずきがし」「はすと太刀魚 の酢の物」について執筆 松下純子、坂井真奈美
〔論文〕 1 食生活の現状 と100円朝食利用 が食生活に及ぼす 効果	共	令和 3 年 9 月	徳島文理大学研究紀 要第102号、 p 43-51	食生活状況及び100円朝食について のアンケートを実施した。一人暮らし の学生に加え実家から通っている 学生でも、朝食を自分で用意・購入・ 100円朝食の利用頻度は週 1 回以上 の学生が多く、朝食摂取を中心に生活 習慣を確立する効果が期待できること が明らかとなった。 坂井真奈美、松下純子、長尾久美子、 佐賀啓子、原理沙、田村友莉香
2 徳島文理大学 短期大学部におけ るボランティアパ スポートの取り組 みについて	共	令和 5 年 3 月	徳島文理大学研究紀 要第105号、 p 25-35	2016年から徳島県等と連携、ボラン ティアパスポート制度を導入して、「総 合科目 A（ボランティア）」単位を認 定しているが、2020年はコロナ禍に より授業開講できず、学生の活

—遠隔授業によるボランティア活動推進の試み—				動も停滞した。2021年度は感染予防対策と受講の利便性を考慮し、グループ・クラスルームとZoomを用いて遠隔授業を行った。受講者に対するアンケート調査により成果を検証し、ボランティアパスポートの意義、今後の課題について考察した。児嶋輝美、島田俊朗、藤本和賀代、松下純子、則包光徳、堀口誠信
〔発表〕 1 徳島県の実家庭料理 行事食の特徴 —ひなまつりの楽しい思い出— 遊山箱—	共	令和3年9月	日本調理科学会2021年度大会（実践女子大学）	行事食・儀礼食の認知度が高かったひな祭りについて、徳島で欠かせない遊山箱について報告した。子供の誕生に与えられる引き出し式3段重の遊山箱は、寿司や菓子、おかずなどを詰めてある。子供のころに使ったことがあるのは60歳以上で高い割合を示し、同世代における県民の共通の思い出として残っていることが分かった。 高橋啓子、三木章江、宇野美和子、川端紗也花、後藤月江、長尾久美子、松下純子、近藤美樹、坂井真奈美、金丸芳
2 徳島県の実家庭料理 地域の特徴 —地域で親しまれてきた料理—	共	令和4年9月	日本調理科学会2022年度大会（アクリエひめじ）	かき混ぜ寿司には人参、大根、高野豆腐、椎茸、卵、春は筍や山菜、金時豆の甘煮、里芋は全域で使用されており、地域性も見られ、姿寿司はボウゼ、アジなど、寿司酢には全域で木酢（すだち、ゆず、ゆこう）が使用されていた。県南や県中央部では主菜、副菜、汁物に魚介類や海藻を使用した料理、山間部、吉野川北岸、県西部では主菜に川魚やジビエ肉、副菜には山菜を使用した料理が挙げられた。 三木章江、高橋啓子、後藤月江、川端紗也花、長尾久美子、松下純子、坂井真奈美、近藤美樹、金丸芳
3 中国・四国支部の多様な調理法と家庭料理の伝承調査 —全国調査：学生による家庭料理の喫食状況と調理法の現状について—	共	令和5年9月	日本調理科学会2023年度大会（県立広島大学）	中国・四国支部16の大学・短期大学の学生における家庭料理の調理法および調理器具等に関する調査を行った。自宅群では多くの料理で「家で作る」割合が有意に多く、調理法は、焼き魚に専用器具使用で有意差がみられ、めんつゆなど11種類の使用が有意に多かった。多くの家庭料理は、家庭内調理が残っていたが、手間のかかる料理は外部化しつつある傾向がみられ、調理法は従来からあ

4 中国・四国支部の多様な調理法と家庭料理の伝承調査 ―徳島県出身者の郷土料理の喫食状況と郷土料理に対するイメージ・中四国8県と比較して― 〔雑誌〕 伝え継ぐ日本の家庭料理「野菜のおかず 春から夏」	共	令和6年9月	日本調理科学会2024年度大会（鎌倉女子大学大船キャンパ）	る専用器具の使用に変化がみられた。 次田一代、後藤月江、松下純子、合谷祥一、武田珠美、高橋啓子、岡本洋子、福留奈美 伝統的な家庭料理や郷土料理の家庭での調理や喫食状況について中・四国地域で調査を行った。徳島の郷土料理、金時豆入り寿司、そば米汁は、中四国他県で認知・喫食率が低かった。徳島での喫食経験は、半田そうめん、そば米雑炊、たらいうどんで多かった。郷土料理への継承意識は高く、教育機関での学修、SNSなどIT技術活用の有効性が考えられた。松下純子、後藤月江、三木章江、佐賀啓子、高橋啓子
	共	令和3年3月	農文協 p 112、113	徳島県「ずきがし」「はすと太刀魚の酢の物」について執筆、著作委員を担当した。 松下純子、坂井真奈美
科研費採択状況 （過去2年間）	該当なし			
研究助成金の交付等 （過去2年間）	該当なし			
特許申請状況 （過去2年間）	該当なし			
その他の研究活動	令和3年度 ○エシカルと食品ロスに繋がる研究を進める。 ○日本調理科学会における、「多様な調理法と家庭料理の伝承」について研究を始める。 ○徳島文理大学短期大学部におけるボランティアパスポートの取り組みについて ―遠隔授業によるボランティア活動推進の試み―を分担する。 令和4年度 ○エシカルと食品ロスに繋がる研究を進める。 ○日本調理科学会における、「多様な調理法と家庭料理の伝承」について研究を進める。 ○徳島文理大学短期大学部におけるボランティアパスポートの取り組みについて ―遠隔授業によるボランティア活動推進の試み―をまとめる。 令和5年度 ○エシカルと食品ロスに繋がる研究を進める。 ○日本調理科学会における、「多様な調理法と家庭料理の伝承」について研究を進める。 令和6年度 ○エシカルと食品ロスに繋がる研究を進める。 ○日本調理科学会における、「多様な調理法と家庭料理の伝承」について研究を進める。			

その他の研究活動	令和7年度 ○エシカルと食品ロスに繋がる研究を進める。 ○日本調理科学会における、「多様な調理法と家庭料理の伝承」について研究を進める。
教 育	
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「フードコーディネート論」(人間生活3年、17名、木曜日2講時) ②後期担当授業科目名等 「食品学総論」(心理3年、28(27)名、月曜日4講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「食品学各論」(食物1年、19(18)名、月曜日2講時・水曜日3講時) 「食品学概論Ⅰ」(食物1年、19(18)名、月曜日2講時・水曜日3講時) 「給食運営管理実習(校内)」(食物2年、6名、火曜日1・2講時) 「調理学」(食物1年、19(18)名、木曜日3講時) 「フードコーディネート論」(食物2年、6名、木曜日2講時) 「文理学」(食物1年、19(18)名、木曜日4講時・5講時)分担、 「生活科学論」(生活1年、8名、金曜日2講時)分担 後期担当授業科目名 「食品学概論Ⅱ」(食物1年、18名、金曜日1講時) 「給食計画論」(食物1年、18名、木曜日4講時) 「給食実務論」(食物1年、18名、木曜日4講時) 「調理科学実験」(食物2年、6名、木曜日1・2講時) 「給食運営管理実習(臨地実習)」(食物専攻2年6名 集中講義) ③通年担当授業科目名 「総合ゼミナール」(食物1年、18名、前期 金曜日5講時 後期 水曜日5講時) 分担 「総合科目D(食と健康)」(食物2年、6名、前期 金曜日5講時後期 水曜日5講時) 分担 担任 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (7.0) コマ} \\ \text{後期 (5.0) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (12.0) コマ 〔その他の指導状況〕 ○前期 ①食物専攻2年生 給食運営管理実習 グループでの授業のため、内容を検討する際には、座席を移動し、随時対応した。 ②生活科学科1年生：生活科学論を分担した。食に関わる内容について3回担当した。 ○後期 ①食物専攻2年生対象研修 電化厨房セミナーを、調理科学実験授業の一環として実施した。調理に関わる機器を使用し、よんでん様に来学いただき、キッチンカーで実演していただいた。 ②食物専攻2年生対象補習授業 栄養士実力認定試験受験およびフードスペシャリスト資格受験に対する補講授業を、後期5時間目および学生の空き時間を使用して実施(14コマ)、模擬試験を2回実施し、試験監督と採点処理を行った。 ③食物専攻2年生栄養士実力認定試験 栄養士実力認定試験の実施にあたり、試験監督及び事務処理を担当した。

授 業	○食物専攻1年生および2年生への対応 ①食物専攻1年生：「総合ゼミナール 通年」を開講した。栄養士についての説明、1年生、2年生の共通のフィールドワークに同行、複数回の授業を担当した。 ②食物専攻2年生：「総合科目D（食と健康）通年」を今年度より開講した。担任としての指導をはじめ、臨地校外実習の事前指導および事後指導、報告会など2年生独自の内容を含め、1年生、2年生の共通のフィールドワークに同行、複数回の授業を担当した。 前期及び後期にわたり、質問がある場合は授業時間以外にかかわらず、随時対応した。食物1年講義および食物2年講義教科をはじめ心理学科人間生活学科の授業担当において、単元終了後に複数回確認テストを行い授業の振り返りを実施した。心理学科対象の授業における確認テストは、令和3年度から開始している。 ○食物1年生：総合ゼミナール 食物2年生：総合科目D（食と健康） <学内> 同時時間帯での授業設定を行うことにより、合同での授業展開が可能となっている。また、各学年それぞれの授業内容も設定し、食物専攻での学びにつながる内容であった。 1年生：給食関連授業として、14号館給食経営管理実習室を見学した。 2年生：給食運営管理実習（臨地実習）の事前指導及び事後指導を実施し、報告会に向けた準備を行った。 1年生、2年生合同授業： 1年生と2年生との交流会、臨地校外実習および就職活動状況報告会、共通指導科目を実施した。 <学外での研修> 和食のテーブルマナー研修を、渭水苑で実施した。食物専攻学生と教職員が参加した。 （1年生18名、2年生6名 教職員7名） 食品工場見学を大塚食品工場で実施した。食物専攻学生と教員が参加した。 （1年生18名、2年生4名 教員3名）
学生指導	○担任関連 短期大学部食物専攻2年担任として、学生の動向に注意しながら担任2名で指導に当たった。担任およびチューターとして面接時間を設け、前期および後期に実施した。面接時には、学生の発言に耳を傾け、その学生に応じた授業科目の取り方、資格や進路、就職活動について質問に応じ、指導した。 個人相談のある学生については、個別に個人の希望を活かせるよう対応し、実施した。 ホームルームは、学期始めの時期及び学期終了時、長期休暇の前において時間を設定し、クラス全体に対し注意点や心がける点を話した。授業の取り方についても、随時説明した。 単位取得に関連しては、常に保護者との連絡を取り、学生本人の状況を確認するとともに、指導を行った。 ○進路関連 進路については、1年生からの希望を継続している学生や、希望を変更したもの、就職を希望しないものがあった。 就職活動に関しては、個人面談を含めて、学生個人の希望や進路を話し合い、就職支援部と共同して指導に当たった。進路についての希望が変更になった場合も、就職支援部に学生と一緒に出向き担当先生に相談、本人の希望に沿うよう対応した。 進学を希望している学生については、本人や保護者の希望などを聞き取り、編入を希望する学科への取次ぎを行った。2名が進学を希望し、2名とも食物栄養学科の編入学試験に合格した。

学生指導	○勉学について 担任学生はもとより、授業を担当した学生については、個別の質問に随時対応し、わかりやすい説明を心がけた。授業においては、必要に応じて資料を作成し、指導内容を補完した。講義授業では、授業の項目終了時に「確認テスト」を授業毎に複数回実施し、学生が授業を復習する機会を作成した。給食実習(短大食物2年生)にあたっては、提供実習に関わる計画立案から給食の実施、終了後のまとめに至るまで指導に携わった。 ○給食運営管理実習（臨地実習）、栄養教育実習 臨地校外実習では、博愛記念病院へ巡視に伺った。 次年度の実習予定を実習先に確認し、夏季に実施する日程計画を作成した。学生数が増えたことにより、本年度2か所の実習先に加えて、あらたに3か所の実習先を確保し、令和8年度は合計5か所の実習先で実習を実施することになった。
活 動	
学外活動	〔公的機関の活動〕 ①とくしま災害栄養チーム構成員 徳島県内における大規模な地震、台風等の自然災害等発生時を想定し、災害時災害栄養・食生活支援に関して被災者の栄養状態の悪化を食い止め、健康状態を維持するために必要な栄養・食生活支援体制の充実強化を図る目的である。 令和8年1月14日（水）に令和7年度「とくしま災害栄養チーム」連携会議がアスティとくしまで開催され、Webにより出席した。 ②アグリビジネスアカデミー 6次産業化コース講師 徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校において、農業者又は農業の基礎的分野を習得している方で農業の6次産業化を目指す方を対象に、1年間で具体的なアグリビジネスプランが作成できる実務能力を養成できるプログラムである。7月18日（金）と7月25日（金）に農業大学に出向き、「食の栄養と機能性」について講義した。 〔学外活動〕 ①第20回食育推進全国大会に参加 6月7日、と8日に、アスティとくしまで開催された第20回食育推進全国大会に参加した。6月7日は短大ブースで学生引率およびスタッフとして対応した。6月8日は、栄養士会ブースのスタッフとして、SATシステムを使った栄養診断、診断結果についての栄養指導、アンケートへの声掛けを行った。 ②高校関連活動 板野高等学校：10月22日に出張講義を食物専攻教員2名で実施した。事前に高校と連絡を取り、当日の進行や内容について準備を行った。対象は高校1年生43名であった。 名西高等学校：12月15日に、名西高校で進路ガイダンスを担当した。2回実施し、2名ずつ4名の高校生に説明を行った。 小松島西高等学校：令和8年2月4日に、短大学部長と学校担当先生に同行した。短大ウェルカムデいの紹介と、出席について進学課長先生にお願いする機会をいただいた。 〔学会活動〕 ①日本調理科学会発表 令和7年8月30日、31日に東海学園大学名古屋キャンパスで開催された日本調理科学会で、特別研究「中国・四国支部の多様な調理法と家庭料理の伝承調査 ―家庭料理における調理機器・器具等の使用状況―」についてポスター発表を共同発表として行った。中国四国版アンケート「次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理」についてまとめ、家庭料理で使用する調理機器や器具に関する調査の実施を報告した。

学内活動	〔学内における活動〕 ○臨地校外実習担当 令和7年度臨地校外実習について、臨地校外実習先との連絡および交渉に携り、実習先の巡視等について検討、実施した。 令和8年度臨地校外実習の予定について、実習先と連絡を取り臨地実習計画を立案した。 2月5日（木）に大学内で開催された臨地校外実習打合せ会に短期大学部担当として出席し、懇談会の進行と質問の返答を担当した。 ○進学説明会担当 5月8日に、国際会議場で開催された徳島ブロック進学説明会に大学側として出席した。6月20日に、徳島赤十字病院本学実習支援センターで開催された小松島ブロック進学説明会に、短大として出席した。 ○オープンキャンパス担当 オープンキャンパスにおいては、3月21日に「プチケーキ、お砂糖できれいに飾ってみよう!!」を、7月26日に「パインアップルゼリー、美味しく作ろう!!」の体験授業を担当した。4月27日および9月14日のオープンキャンパス学科説明を担当した。 ○短大フェスタ 10月25日に開催された短大フェスタにおいて実施した、食物専攻学生の指導と当日の来場者に対する説明を行った。 ○栄養士実力認定試験担当 12月6日に栄養士実力認定試験が本学で実施され、試験監督担当及び事務処理を行った。 ○全学研究者倫理教育委員会委員 短期大学部の全学研究者倫理教育委員会委員として、短期大学部教員へAPRINの受講連絡を行い、3月4日に開催された令和6年度全学研究者倫理教育委員会に出席した。 ○ウェルカムデイ担当 2月7日に実施したウェルカムデイについて、2号館1階会場の準備を中心に活動した。 ○アカンサス会 ①アカンサス会本部副会長 令和7年8月2日に大学で開催されたアカンサス会本部役員会において、副会長の犬伏知子氏の補佐を行い、アカンサス会奨学金・支援金について報告した。 ②アカンサス会奨学金担当 令和6年度のアカンサス会奨学金給付に当り、事務担当として申請、審査委員会、給付該当者への連絡文送付等に携わった。令和7年度アカンサス会奨学金審査委員会は、5月31日に審議を行い、奨学金申請者に対し採用の有無について連絡を行った。 ③アカンサス会学園創立130周年記念ホームカミング担当 10月13日にホテルクレメントとくしまで開催された学園創立130周年記念ホームカミングについて、数回開催された準備委員会に出席、実施計画を進めた。開催日当日は、会場内において状況を確認し、進行の補助を担当した。 〔入試担当〕 ○総合型選抜入試面接担当 生活科学科食物専攻の総合型選抜入試の面接担当として、教員2名で面談を担当した。1期面接および4期面接を担当した。
-------------	--

学内活動	○ミライのわたし面接担当 ミライのわたし予約型応援奨学金の先行予約希望者について、一部面接を担当した。総合型選抜入試面接とミライのわたし予約型応援奨学金の面接を5名（うちWeb1名）担当、9月27日に4名、10月4日にWeb1名の面接を実施した。 ○入学前ガイダンス担当 2月21日に実施した入学前ガイダンスでは、進行状況について確認し、学科別の会では、入学予定者に対し質問と発言を促し、高校生からの質問に対しては、随対応、進行の補助を行った。
-------------	--

氏 名	松 村 晃 子 （ まつむら あきこ ）			
所属・職の種類	短期大学部生活科学科 教 授			
最終学歴	徳島大学医学部栄養学科 （ 栄養学士 ）			
着任の年月	令和 6 年 4 月			
直前の職歴 （学校・企業等）	徳島市民病院栄養管理室 栄養指導アドバイザー			
研 究 （業績：過去 5 年間）				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 1 歯科衛生士のための糖尿病指導 マニュアル（第 2 版） 〔論文査読〕 1 Early enteral nutrition with arginine compens ates for negative nitrogen balance in patients under going curative total gastrectomy 〔発表〕 1 高齢者のフレ イル予防における 栄養指導	共	令和 6 年 9 月 令和 5 年 2 月 令和 4 年 8 月	株式会社医歯薬出版 The Journal of Med ical Investigation 第 5 回徳島県地域包 括ケアシステム学会 学術集会	歯科衛生士向けの糖尿病指導教材 愛知学泉大学家政学部管理栄養士学 科教授で元浜松赤十字病院管理栄養 士の岡本康子先生の論文について査 読を担当した。 神山町のサロンにおける高齢者に対 する栄養指導のフレイル予防への効 果について
科研費採択状況 （過去 2 年間）	該当なし			
研究助成金の交付等 （過去 2 年間）	該当なし			
特許申請状況 （過去 2 年間）	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「食生活論」（人間生活 1 年 17 名・建築デザイン 2 年 9 名・短大生活科学専攻 1 年 6 名			

授 業	月曜日 3 講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名等 <table border="0"> <tr> <td>「栄養情報処理」</td><td>(食物専攻 2 年 6 名 月曜日 1 講時)</td></tr> <tr> <td>「食生活論」</td><td>(生活科学専攻 1 年 6 名 月曜日 3 講時)</td></tr> <tr> <td>「栄養学総論」</td><td>(食物専攻 1 年 19 名 火曜日 2 講時)</td></tr> <tr> <td>「栄養指導実習Ⅱ」</td><td>(食物専攻 2 年 6 名 水曜日 3、4 講時)</td></tr> <tr> <td>「文理学」</td><td>(食物専攻 1 年 19 名 木曜日 4 講時)</td></tr> <tr> <td>「1 食生活論」</td><td>(食物専攻 2 年 6 名 木曜日 1 講時)</td></tr> <tr> <td>「総合ゼミナール」</td><td>(食物専攻 1 年 19 名 金曜日 5 講時)</td></tr> <tr> <td>「総合科目 D」</td><td>(食物専攻 2 年 6 名 金曜日 5 講時)</td></tr> </table> ②後期担当授業科目名等 <table border="0"> <tr> <td>「栄養指導実習Ⅰ」</td><td>(食物専攻 1 年 18 名 火曜日 1、2 講時)</td></tr> <tr> <td>「公衆栄養学」</td><td>(食物専攻 2 年 6 名 木曜日 4 講時)</td></tr> <tr> <td>「栄養指導論」</td><td>(食物専攻 1 年 18 名 木曜日 2 講時)</td></tr> <tr> <td>「文理学」</td><td>(食物専攻 1 年 18 名 金曜日 5 講時)</td></tr> <tr> <td>「総合ゼミナール」</td><td>(食物専攻 1 年 19 名 水曜日 5 講時)</td></tr> <tr> <td>「総合科目 D (食と健康)」</td><td>(食物専攻 2 年 6 名 水曜日 5 講時)</td></tr> </table> 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (8.0) コマ} \\ \text{後期 (6.5) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (14.5) コマ 〔その他の指導状況〕 ○栄養士実力認定試験受験用並びにフードスペシャリスト受験用補講を実施 令和 7 年 9 月 29 日～12 月 16 日 「公衆衛生学」「社会福祉概論」「栄養学総論」「公衆栄養学概論」「栄養と健康」 「食品流通論」(食物専攻 2 年 8 名) 講義形式を中心とし、過去問題のプリントを用いて実践しながら解説と質疑応答を取り入れて復習した。 ○第 20 回全国食育推進大会 令和 7 年 6 月 7～8 日、アスティとくしまで開催された第 20 回全国食育推進大会に短期大学部食物専攻としてシカ肉のエシカル消費に関するブースを出展。 事前学習をした上で、6 月 8 日に学生(食物専攻 2 年 2 名)を引率した。 ○隣地実習先へのお礼状の書き方指導 令和 7 年 8 月 25 日、実習先へのお礼状の作成と提出課題等の確認を行った。 (食物専攻 2 年 6 名) ○フードサイエンティスト研修 令和 7 年 9 月 22 日 佐賀准教授と共に四国大学短期大学部で開催された研修に引率した。(食物専攻 2 年 6 名) ○短大フェスタ・ライフステージ別栄養・食事に関する学生の発表 令和 7 年 10 月 22 日 栄養指導用ポスター作成と発表の仕方について個別に指導を行った。(食物専攻 2 年 6 名) ○マナー研修会 令和 7 年 12 月 4 日、渭水苑で実施された和食料理のテーブルマナー研修会に学生(食物専攻 1 年 18 名、2 年 6 名)を引率した。	「栄養情報処理」	(食物専攻 2 年 6 名 月曜日 1 講時)	「食生活論」	(生活科学専攻 1 年 6 名 月曜日 3 講時)	「栄養学総論」	(食物専攻 1 年 19 名 火曜日 2 講時)	「栄養指導実習Ⅱ」	(食物専攻 2 年 6 名 水曜日 3、4 講時)	「文理学」	(食物専攻 1 年 19 名 木曜日 4 講時)	「1 食生活論」	(食物専攻 2 年 6 名 木曜日 1 講時)	「総合ゼミナール」	(食物専攻 1 年 19 名 金曜日 5 講時)	「総合科目 D」	(食物専攻 2 年 6 名 金曜日 5 講時)	「栄養指導実習Ⅰ」	(食物専攻 1 年 18 名 火曜日 1、2 講時)	「公衆栄養学」	(食物専攻 2 年 6 名 木曜日 4 講時)	「栄養指導論」	(食物専攻 1 年 18 名 木曜日 2 講時)	「文理学」	(食物専攻 1 年 18 名 金曜日 5 講時)	「総合ゼミナール」	(食物専攻 1 年 19 名 水曜日 5 講時)	「総合科目 D (食と健康)」	(食物専攻 2 年 6 名 水曜日 5 講時)
「栄養情報処理」	(食物専攻 2 年 6 名 月曜日 1 講時)																												
「食生活論」	(生活科学専攻 1 年 6 名 月曜日 3 講時)																												
「栄養学総論」	(食物専攻 1 年 19 名 火曜日 2 講時)																												
「栄養指導実習Ⅱ」	(食物専攻 2 年 6 名 水曜日 3、4 講時)																												
「文理学」	(食物専攻 1 年 19 名 木曜日 4 講時)																												
「1 食生活論」	(食物専攻 2 年 6 名 木曜日 1 講時)																												
「総合ゼミナール」	(食物専攻 1 年 19 名 金曜日 5 講時)																												
「総合科目 D」	(食物専攻 2 年 6 名 金曜日 5 講時)																												
「栄養指導実習Ⅰ」	(食物専攻 1 年 18 名 火曜日 1、2 講時)																												
「公衆栄養学」	(食物専攻 2 年 6 名 木曜日 4 講時)																												
「栄養指導論」	(食物専攻 1 年 18 名 木曜日 2 講時)																												
「文理学」	(食物専攻 1 年 18 名 金曜日 5 講時)																												
「総合ゼミナール」	(食物専攻 1 年 19 名 水曜日 5 講時)																												
「総合科目 D (食と健康)」	(食物専攻 2 年 6 名 水曜日 5 講時)																												

学生指導	①食物専攻2年生担任・チューターとしての面接を実施 定期面接：前期1回（4月）、後期1回（12月）担当学生の面談を実施。 授業・学習や進路・健康状況・生活面、友人関係などあらかじめ面接票に記入してもらい、詳細に面談を行った。 随時面談：就職に関する相談を受けて、面談を実施し、進路に関する助言・指導を行った。 ②ホームルームでの指導 定期的（4月9日、7月23日、12月19日、1月28日 3月15日）にホームルームを開催し、学生指導した。 ③ポートフォリオ入力指導 前期（7月23日）および後期（1月28日）に入力指導を実施した。また行動の記録は前期に3回、後期に3回、時間を設けて指導した。 ④新入生セミナー・遍路ウォークと大塚美術館見学 令和7年4月19日（土）に実施された新入生セミナー、遍路ウォークと大塚美術館に担任として同行し、指導した。 ⑤臨地・校外実習先への巡回指導 令和7年8月21日、松下教授と共に博愛記念病院の実習巡回指導を行った。（2年生4名） ⑥短大フェスタ 令和7年10月25日、アカンサス1階ロビーにて「ライフステージ別栄養・食事」について展示、発表の指導・監督を行った。（2年生6名） ⑦就職支援 就職支援課佐尾山先生と連携し、履歴書記入時に内容確認等学生指導を行った。（2名） ⑧入学前ガイダンス 令和8年2月20日、前日準備（リハーサル）において参加学生（1年生2名）と打ち合わせを行った。
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 ①一般社団法人日本病態栄養学会 がん専門管理栄養士委員会委員 （平成29年10月～現在に至る） ○委員会 令和7年7月25日 14時～15時 ○がん病態栄養専門管理栄養士 受験申請症例診査 ・令和7年9月26日～10月13日 ・令和8年1月22日～2月8日 ○2025年度がん病態栄養専門管理栄養士 認定更新症例診査 令和8年2月25日～3月16日 〔公的機関の活動〕 ①徳島県医療審議会委員 医療法の規定によりその属させられた権限を調査審議するほか、知事の諮問に応じ徳島県の医療を提供する体制の確保に関する重要事項について調査審議する ○委員会 令和7年11月11日 19時～20時30分 令和8年3月17日 19時～20時30分

学外活動	②徳島県循環器病対策推進協議会委員 健康寿命の延伸を目指し、本県の循環器病の現状を把握し、その予防や知識の普及啓発を図り、保健、医療および福祉に係るサービス提供体制の充実と循環器病の研究を推進する。 ○委員会 令和8年1月26日 19時～20時30分 ③徳島県慢性腎臓病医療連携協議会委員 徳島県の腎臓病対策に取り組む ○委員会 令和7年12月16日 19時～20時30分（欠席） ④徳島県糖尿病協会（JADEC徳島）理事 徳島県の糖尿病対策に取り組み、患療養指導に係る医療スタッフの人材育成および患者への啓発活動等を行う。 ○理事会 令和7年4月14日 18時30分～19時30分 令和7年11月11日 18時～19時 令和8年2月9日 18時～19時 ⑤徳島県糖尿病療養指導士運営委員会 ○委員会 令和7年6月2日 19時30分～21時 ⑥糖尿病フォーラム2025運営会議 ○委員会 令和7年9月8日 18時～19時 ⑦とくしま災害栄養チーム ○連携会議 令和8年1月14日 14時～15時30分 ⑧（公社）日本栄養士会 代議員・委員） ○定時総会（代議員） 令和7年6月21日 13時～16時 令和7年6月22日 9時～12時 ○栄養ケア・ステーション認定委員会委員 令和7年7月1日 18時30分～19時30分 令和8年3月18日 18時30分～19時30分 ⑨（公社）徳島県栄養士会 副会長（令和6年7月～現在に至る） ○定時総会 令和7年6月1日 13時30分～16時30分 ○理事会 令和7年4月17日 18時30分～20時30分 令和7年6月17日 18時30分～20時30分 令和7年8月19日 18時30分～20時30分 令和7年10月21日 18時30分～20時30分 令和7年12月16日 18時30分～20時30分（欠席） 令和8年2月17日 18時30分～20時30分 令和8年3月17日 18時30分～20時30分 ○役員会 令和8年1月15日 19時～20時30分 ⑩一般財団法人 厚仁会 理事（非常勤） ○理事会 令和7年6月20日 17時～18時 令和7年11月17日 16時～18時 令和8年3月6日 16時～18時
------	---

学外活動	⑪大学病院栄養連携推進機構設立準備委員 ○委員会 令和7年7月28日 18時～19時 令和7年10月30日 13時30分～14時 〔各種講演〕 ①令和7年9月15日～11月14日 令和7年度認定歯科衛生士セミナー（於：オンデマンド配信） 「糖尿病予防の栄養指導と管理（多職種連携）」 ②令和7年10月22日 11時30分～13時 徳島県立板野高等学校へ出張講義 松下教授と共に、「対象者別地産地消の栄養バランス献立」への指導を行った ③令和7年10月22日 19時30分～21時 第3回徳島市糖尿病サポーター（TCDS）スキルアップセミナー 「食事療法におけるお困りごと相談」 ④令和7年12月5日～12月14日 第8回徳島市糖尿病サポーター（TCDS）養成研修会（於・YouTube限定配信） 「高齢糖尿病患者の食事の工夫」 ⑤令和8年2月6日 14時～16時 令和7年度在宅食事療養者支援事業研修会並びに令和7年度吉野川保健所管内 集団給食施設協議会管理者研修会 「食」でつなぐ施設と在宅の連携～栄養士・管理栄養士の輪～ 〔その他の活動〕 ①おぎゃっと21 令和7年9月23日 9時～17時 はぐくみ徳島主催の子育て支援イベントに栄養士会ブースに参加した。
学内活動	①広報活動 ○オープンキャンパスの企画・運営 令和7年4月27日 令和7年6月15日 令和7年7月13日 体験授業「まごはやさしい」栄養バランスを考えよう！ 令和7年7月26日 令和7年8月24日 ・体験授業内容理解のために、パワーポイントによる資料を準備 ・学科説明用に学生のプレゼン資料の作成を指導 ・担当した体験授業の記録を大学ホームページに紹介 ○大学・学部・学科紹介パンフレット等の作成 令和7年10月24日 2026大学案内の学生写真撮影に立ち会い。 令和8年2月26日～3月16日 短大パンフレットの校正 令和8年3月12日 食物専攻チラシの校正と印刷発注。 ○職業説明会 令和8年2月16日 徳島県立阿南光高等学校（I年生）に「栄養士の仕事紹介」を行った。 ②学内の委員会 ○令和7年度 短期大学部教員再任用調査委員会 令和7年9月2日 10時～10時30分

学内活動	○短大実習担当委員 松下教授と共に生活科学科食物専攻２年生の臨地実習に関する助言・指導を行った、特に健康管理や衛生管理に留意することや学外における接遇の重要性について指導した。 令和８年２月５日 隣地・校外実習打ち合わせ会 ○入学前ガイダンス運営委員会委員 令和８年２月21日に開催する「短期大学部入学前ガイダンス」について委員会に出席し、学科・専攻ごとに入学前教育のプログラムを見直し選定した。また入学生に向けたアンケートの作成および当日のプログラムの内容およびスケジュールについて検討した。 令和７年10月21日 15時30分～16時30分 令和７年11月18日 15時30分～16時30分 令和８年１月16日 15時30分～16時30分 ③チャレンジメッセ2025 令和７年10月９日～10日 アスティとくしまで開催の徳島ビジネスチャレンジメッセ2025に短期大学部より出展。10日10時～13時にブースを担当 ④短大フェスタ 令和７年10月25日に開催し、食物専攻２年生が担当した「ライフステージ別栄養と食事」パワーポイント資料作成と発表の指導を行った。 ⑤総合選抜型入試オンライン面接（令和７年10月４日） 令和８年度大学入学共通テスト 令和８年１月18日 試験予備監督
------	---

氏 名	新 居 佳 孝 （ に い よ し た か ）			
所属・職の種類	短期大学部生活科学科 教 授			
最終学歴	徳島大学大学院栄養学研究科博士前期課程修了（博士（栄養学））			
着任の年月	令和 5 年 4 月			
直前の職歴 （学校・企業等）	徳島県立工業技術センター 課長			
研 究 （業績：過去 5 年間）				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔論文〕 Sudachi peel extr act powder includ ing the olymetho xylated flavone sudachitin improv es visceral fat con tent in individuals at risk for develo ping diabetes.	共	令和 3 年 6 月	F o o d S c i e n c e & Nutrition 第 9 巻第 8 号	メタボリックシンドロームの境界型 （BMI： 23kg/m ² 以上）に分類され る被験者を対象に、スダチ果皮エキ ス末を二重盲検法により12週間継続 摂取させたところ、1日あたり 5mgのスダチチンの摂取で、内臓 脂肪量の改善効果がみられた。 掲載頁：pp. 4076-4084 共著者：Yasuhiro Shikishima, Rie Tsutsumi, Ayuka Kawakami, Hiroyuki Miura, <u>Yoshitaka Nii</u> , Hiroshi Sakaue
甘酒製造過程にお けるポリフェノー ル量の推移	共	令和 4 年 1 月	徳島県立工業技術セ ンター研究報告 第30巻	近年、発酵食品の機能性が多く報告 されているが、その機能性の多くは 麴由来の酵素により生成されるポリ フェノールが大きく関与している。 ポリフェノールは、生活習慣病の発 症抑制との関連が指摘されている食 品の抗酸化活性と密接に関連してい る。そこで、米麴を用いて甘酒を作 製し、ポリフェノール及びフェルラ 酸を原料麴と比較した。その結果、 甘酒を作製することにより、ポリ フェノール量は白麴菌、黄麴菌とも に原料麴に比べて3倍近く増加し た。また、遊離フェルラ酸が原料麴 に比べて大きく謳歌することが明ら かとなった。これらは麴菌のもつ酵 素の影響であると示唆された。 掲載頁：pp. 7-9 共著者：新居佳孝、岡久修己、西岡 浩貴、戸田昌宏、門脇昌史、河田守、 金丸芳
阿波晩茶の浸出条	共	令和 4 年 1 月	徳島県立工業技術セ	浸出温度や時間が阿波晩茶浸出液の

件が抗酸化活性とカテキン類含量に及ぼす影響			ンター研究報告 第30巻	機能性に及ぼす影響について調べるため、酸素ラジカル吸収能力(ORAC)法による抗酸化活性の測定やカテキン類含量等の分析を行った。その結果、阿波晩茶浸出液の抗酸化活性は浸出条件によって変化し、沸騰水で浸出した場合が最も高かった。カテキン類についてはエステル型カテキンよりも遊離型カテキンの方が多く含まれていたが、カテキン類の組成は浸出条件によって異なっていた。 掲載頁：pp. 11-14 共著者：池田絵梨、 <u>新居佳孝</u>
徳島県産レンコンの産地および加工方法の違いによる抗酸化性比較	共	令和4年1月	徳島県立工業技術センター研究報告 第30巻	徳島県内で栽培されたレンコンの抗酸化活性について、酸素ラジカル吸収能力(ORAC)法を用いて測定し、加工方法や産地による違いについて検討した。その結果、レンコン可食部では加工方法に関わらず皮付きの方が高い傾向を示した。一方、生の状態では産地による違いが認められ、栽培条件の差が総ポリフェノール量に影響している可能性が示唆された。また未利用部であるレンコンの節は、高い抗酸化活性を示した。 掲載頁：pp. 17-19 共著者：池田絵梨、 <u>新居佳孝</u>
柑橘果皮を原料とした新規高機能素材の開発	共	令和4年12月	徳島県立工業技術センター研究報告 第31巻	柑橘果皮のさらなる有効利用のため、柑橘果皮からセルロースファイバー(CF)シートを調製し、その特性を評価した。同じ前処理、解繊条件でもスタチ及びユズCFの表面構造は異なっていたことから、同じ柑橘類果皮でも、種類によって解繊のしやすさが異なることが示唆された。CFシートの引張強度は約40～60MPaであり、ミカン果皮由来CNFシートよりも低い値であり、CFシートの引張強度を向上させるためには、均一にナノレベルまで解繊することが重要であると考えられた。熱重量分析の結果、CFシートは、ミカン果皮由来CNFと同様のDTGピークが得られたことから、部分的にしか解繊されていないCFでも、CNFと同程度の耐熱性があることが示唆された。 掲載頁：pp. 31-32 共著者：横山直人、 <u>新居佳孝</u> 、 <u>鎌倉駿</u>

Effects of poly-ethoxyflavonoids on T helper 17 cell differentiation <i>in vitro</i> and <i>in vivo</i> .	共	令和 5 年 2 月	The Journal of Medical Investigation 第70巻第 1-2 号	培養細胞および実験動物を用いてヘルパー T (Th) 17細胞の分化に対するポリメトキシフラボノイド (PMF) の影響を検討した。ノビレチン (NOB)、スダキチン (SUD)、デメトキシスダキチン、ヘプタメトキシフラボン、ナツダイダインを含む5つの異なるPMFを用いて、Th17応答に対するこれらのフラボノイドの影響を調べた。NOB、ヘプタメトキシフラボンは増殖反応を有意に抑制したが、SUD、デメトキシスダキチン、ナツダイダインは増殖反応を抑制しなかった。実験的に自己免疫性脳脊髄炎を誘発したマウスを、生体内Th17分化モデルとして使用し、NOBとSUDが及ぼす影響を検討した。その結果、NOBはTh17細胞の増殖とサイトカイン応答を有意に抑制したが、SUDは増殖応答のみ減少させた。これらの結果から、生体内でのTh17応答に対するNOBの抑制効果はSUDの抑制効果よりも強いことが示唆された。 掲載頁：pp. 166-170 共著者：Akiko Nakamoto, Yuwa Hirabayashi, Chieri Anzaki, Mariko Nakamoto, Emi Shuto, <u>Yoshitaka Nii</u>, Tohru Sakai
The polymethoxy-flavone sudachitin modulates the circadian clock to enhance energy metabolism and remodel liver physiology.	共	令和 5 年 3 月	Molecular Nutrition & Food Research 第67巻第 9 号	サーカディアンリズム評価用培養細胞にスダチチンを添加すると、<i>Bmal1</i> 遺伝子の転写リズムの振幅と周期を調節した。このことから、スダチチンは細胞レベルで概日リズムを調整する活性を有していることが分かった。次に、食事誘導性肥満マウスにスダチチンを長期投与したところ、肝臓の概日リズムを調節し、肝臓の中性脂肪の蓄積を抑制することが分かった。特に、肝臓の線維化と炎症を低減することも明らかとなった。 掲載頁：e2200270 共著者：Kazuaki Mawatari, Nobuya Koike, Kazuanri Nohara, Marvin Wirianto, Takashi Uebanso, Takaaki Shimohata, Yasuhiro Shikishima, Hiroyuki Miura, <u>Yoshitaka Nii</u>, Mark J. Burish, Kazuhiro Yagita, Akira Takahashi, Seung-Hee Yoo, Zheng Chen

〔発表〕 柑橘類スダチ果皮抽出液によるEGFR-ERK経路を介した表皮角化細胞の増殖・分化の制御	共	令和3年6月	日本農芸化学会中四国支部第59回講演会（オンライン）	スダチ果皮抽出液の表皮角化細胞に対する影響を検証するとともに、その作用機序についても検討した。その結果、スダチ果皮抽出液は、EGFR-ERK経路の抑制を介して細胞増殖を抑制し、さらにカルシウム誘発性表皮角化細胞分化を増強することが示唆された。 共同発表者：安部庄剛、下田穂絵、金岡大樹、<u>新居佳孝</u>、山崎博子、湯浅恵造
スダチ由来ポリメトキシフラボン・スダチチンの概日リズム調節作用と肝脂質代謝改善作用	共	令和5年5月	第77回日本栄養・食糧学会大会（於：札幌コンベンションセンター）	スダチチン投与が培養細胞および実験動物の概日リズムへ及ぼす影響を検討した。ヒト由来U2OS細胞にスダチチンを処置すると時計遺伝子<i>Bmal1</i>や<i>Per2</i>の発現リズムの振幅が有意に上昇した。そこで、高脂肪食投与マウスにスダチチンを長期間経口投与し、自発行動リズムと肝臓への影響を評価した。その結果、暗暗サイクル下においてスダチチン投与群で自発行動が高くなった。肝臓のトランスクリプトーム解析やメタボローム解析でもスダチチン投与により脂質代謝関連遺伝子や代謝産物の変動がみられた。スダチチン投与は概日リズムの調節に加えて、肝臓に作用して脂質代謝を調整する可能性が示唆された。 共同発表者：馬渡一論、小池宣也、野原一成、敷島康普、三浦宏之、<u>新居佳孝</u>、上番増喬、下畑隆明、八木田和弘、高橋章、Yoo Seung-Hee、Chen Zheng
スダチ特有ポリメトキシフラボン類の概日リズム調整活性の比較と作用メカニズムの解明	共	令和6年5月	第78回日本栄養・食糧学会大会（於：中村学園大学）	スダチに含まれるポリメトキシフラボン類の概日リズム調整活性の比較と作用メカニズムについて検討した。マウス線維化細胞を用いて時計遺伝子PER2のタンパク質発現リズムを測定すると、スダチチンとデメトキシスダチチンはリズム振幅を顕著に大きくする作用がみられた。次に、時計遺伝子<i>arntl</i>の転写調節リズムの転写制御領域RORE (retinoid-related orphan receptor-response element) への関与を評価した。その結果、スダチチンとデメトキシスダチチンは野生型ROREを介した転写調節活性を上昇したが、変異型

			ROREではこれが顕著に抑制された。また、siRNAによりRORaまたはRORgをノックダウンすると、スダチチンとデメトキシスダチチンによるarntlの転写が顕著に抑制された。以上の結果より、スダチチンとデメトキシスダチチンはROREを介したarntl遺伝子の転写によって概日リズムを調整している可能性が示唆された。 共同発表者：馬渡一諭、戸田沙慧、殿脇壺成、平野希美、山口ももか、上番増喬、高橋 章、敷島康普、三浦宏之、 <u>新居佳孝</u> 、Seung-Hee Yoo, Zheng Chen
科研費採択状況 (過去2年間)	該当なし		
研究助成金の交付等 (過去2年間)	該当なし		
特許申請状況 (過去2年間)	該当なし		
その他の研究活動	①シカ肉ソーセージの新商品開発 令和5年度から「食品加工学実習Ⅰ」(食物専攻2年)において「シカ肉ソーセージ」の試作に取り組み、地元食品製造企業の協力のもと商品化された。令和7年度も引き続き、シカ肉ソーセージの新商品開発を行った。 ②スダチチン研究 スダチ果皮に含まれるスダチチンの研究に地元医薬品製造企業とともに取り組んだ。 ③日本農業新聞のオピニオン面(現場からの農村学教室)に研究紹介「スダチ果皮で抗肥満」を執筆し、令和6年9月8日に掲載された。 ④城南高校との共同研究(探究学習) (令和7年度)普通科2年生3名とともに、さつまいもの未利用部位である茎(つる)の有効利用に取り組んだ。乳酸発酵したペーストに茎を加え、廃棄物の有効活用だけでなく、健康機能も有するドレッシングを開発した。利用方法の検討を行うとともに、試料の乳酸発酵やポリフェノール分析についても指導した。研究成果は最終発表会にてポスター発表した(令和8年2月24日)。 ⑤健康科学研究所(研究員) 高速細胞分析分取装置を担当した。		
教 育			
授 業	〔学部関係〕 ①後期担当授業科目名 「食品加工貯蔵学」(生活2年22名、3年3名、4年1名、食栄3年1名。 金曜日3講時)		

授 業	〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「食品の安全性」(食物1年19名。月曜日1講時) 「食品学実験」(食物1年19名。金曜日3、4講時) 「食品加工学実習Ⅰ」(食物2年6名。月曜日3、4講時) 「食品加工学Ⅱ」(食物2年6名。火曜日3講時) 「文理学」(食物1年19名。木曜日4講時) 分担 「総合ゼミナール」(食物1年19名。金曜日5講時) 分担 ②後期担当授業科目名 「食品衛生学」(食物1年18名。火曜日3講時) 「食品加工学Ⅰ」(食物1年18名。金曜日2講時) 「食品加工学実習Ⅱ」(食物2年6名。月曜日1、2講時) 「食生活特論」(食物2年6名。火曜日2講時) 「総合ゼミナール」(食物1年18名。水曜日5講時) 分担 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (8) コマ} \\ \text{後期 (7) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (15) コマ 〔その他の指導状況〕 ①栄養士実力認定試験、フードスペシャリスト資格認定試験受験用補講 「食品衛生学」「食品学各論」「生化学」「食品の安全性」「食物学」 (食物専攻2年6名) ②臨地・校外実習 令和7年8月19日 臨地・校外実習先巡視(病院) ③テーブルマナー講習会(総合ゼミナール) 令和7年12月4日 渭水苑で実施した和食テーブルマナー研修会に学生を引率した。(食物専攻1年18名、2年6名) ④フィールドワーク(総合ゼミナール) 令和7年12月12日 総合ゼミナールにおけるフィールドワークの一環として、大塚食品(株)徳島工場に学生を引率した。(食物専攻1年18名、2年6名)
学生指導	①面接の実施 食物専攻1年の担任・チューターとして前期(4月)、後期(10～11月)に担当学生と個人面接を行った。授業・学習や進路、健康状況、生活面、友人関係などあらかじめ面接票に記入してもらった上で、詳細に面接を行った。 ②ホームルームでの指導 定期的にホームルームを行い、学生の指導を行った。 ③学習ポートフォリオの入力指導 前期および後期に自己評価および目標計画の入力指導を行った。 ④新入生セミナー 令和7年4月19日 新入生セミナー(遍路ウォーク、大塚国際美術館)において学生を引率した。 ⑤教育懇談会 令和7年8月23日 保護者との個別面談に対応した。

学生指導	⑥学生と企業等との交流会 令和8年1月31日 参加した学生の指導および企業の採用担当者との情報交換を行った。 ⑦合理的配慮 合理的配慮を希望する学生からの相談に随時対応するとともに、面談、合意書作成等を行った。
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 ①日本栄養・食糧学会（正会員、参与） ②日本農芸化学会（一般会員） ③日本調理科学会（正会員） ④日本栄養改善学会（正会員） 〔公的機関の活動〕 ①野菜摂取量アップ専門部会（部会長）（徳島県保健福祉部健康寿命推進課） 令和7年8月30日 「とくしま野菜週間」における街頭啓発（フジグラン北島） 令和8年3月25日 第1回野菜摂取量アップ専門部会（徳島県庁） 〔各種講演〕 ①令和7年6月7日「すだちの皮からサブリ！～スタチチンの機能性を探る～」 第20回食育推進全国大会セミナー（於・アスティとくしま） ②令和7年6月25日「スタチチンの機能性を探る～最新情報と今後の課題～」 徳島県職員労働組合研究職員評議会シンポジウム（於・徳島県職員会館） 〔その他の活動〕 ①令和7年10月4日 シカ肉解体体験フィールドワーク学生引率（那賀町木沢シカ肉等加工施設）（食物専攻1年5名、2年1名参加） ②令和7年10月11日 ビジネスチャレンジメッセTOKUSHIMA展示説明（アスティとくしま）
学内活動	①研究紀要編集委員会（委員） 令和7年5月15日 第1回研究紀要編集委員会（オンライン開催） ・研究紀要第110号に投稿された論文について形式審査を行い、すべて掲載可とした。 ・研究紀要の印刷部数について検討した。 令和7年11月20日 第2回研究紀要編集委員会（オンライン開催） ・研究紀要第111号に投稿された論文について形式審査を行い、すべて掲載可とした。 ・研究紀要の発行回数について検討した。 ②学内各種委員会 ・大学入試共通テスト入試委員 令和8年1月17日～18日 問題・答案担当 ・短大自己点検・評価実施委員会委員 令和7年9月18日 実施委員会（オンライン開催） ・短大総合型選抜入試運営委員 ・短大新入生セミナー運営委員 ③コミュニティカレッジ講座 令和7年11月22日 「県産農産物の機能性を探る！」担当 スタチ果皮に含まれるスタチチンに関する最新の研究成果の紹介およびサツマイ

学内活動	モ、阿波晩茶などの抗酸化活性について解説した。 ④オープンキャンパス 令和7年4月27日 模擬授業「～アニメから学ぼう～蜂蜜は「栄養」？それとも「毒」？」担当 令和7年6月15日 学科説明、入試説明 令和7年7月26日 学科特別プログラム対応 令和7年8月24日 学科説明、入試説明 令和7年9月14日 模擬授業「阿波晩茶の味の違いを探ってみよう～ポリフェノールの測定～」担当 令和8年3月21日 学科特別プログラム対応 ⑤広報活動 大学案内（食物専攻担当）および学科紹介パンフレットの作成を行った。 ⑥総合型選抜入試、ミライのわたし予約型応援奨学金、奨学金面接 令和7年7月13日 ミライのわたし予約型応援奨学金（先行申込）面接 令和7年9月8日、14日、18日、19日、20日、22日 総合型選抜入試Ⅰ期面接 令和7年9月27日、28日 総合型選抜入試Ⅰ期、ミライのわたし予約型応援奨学金面接 令和7年12月15日 総合型選抜入試Ⅳ期面接 令和8年1月13日～27日 ミライのわたし予約型応援奨学金継続審査面接（11名） ⑦進学説明会 令和7年5月8日 徳島県進学説明会に参加。 令和7年6月24日 徳島ブロック進学説明会に参加。 ⑧フードスペシャリスト資格認定試験 フードスペシャリスト養成機関の教育責任者として学生の指導、試験監督等を担当。 ⑨短大フェスタ 「ベジチェックで野菜摂取量をチェック」を指導（食物専攻1年）。 測定機器の借受、食品衛生責任者として営業許可申請を担当。
------	---

氏 名	佐 賀 啓 子 （ さ が け い こ ）			
所属・職の種類	短期大学部生活科学科 准教授			
最終学歴	高知県立大学大学院人間生活科学研究科博士後期課程修了 博士（生活科学）			
着任の年月	平成31年（2019年） 4 月			
直前の職歴 （学校・企業等）	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター 栄養局 科長（管理栄養士）			
研 究 （業績：過去 5 年間）				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 なし				
〔論文〕 研究報告 「食生活の現状と 100円朝食利用が 食生活に及ぼす効 果」（査読付）	共	令和 3 年 9 月 （2021年）	徳島文理大学研研究 紀要 第102号 pp.43-51	学生の食生活の現状を本学学生に対して、アンケート調査を実施し、明らかにするとともに、100円朝食の活用効果を検証した。 朝食を自分で用意・購入・100円朝食を利用する割合は高い。100円朝食の利用頻度は週 1 回以上の学生が多く、朝食摂取を中心に生活習慣を確立する効果が期待できることが明らかとなった。 共著者：坂井真奈美、松下純子、 長尾久美子、佐賀啓子、 原 里沙、田村友莉香
〔発表〕 「多様な調理法と 家庭料理の伝承： 中国・四国支部の 多様な調理法と家 庭料理の伝承調 査」—家庭料理に おける調理機器・ 器具等の使用状況 —」（示説）	共	令和 7 年 8 月29 ～ 31日	一般社団法人日本調 理科学会2025年度大 会（於：名古屋）	簡単・簡便な調理法の志向や調理済み品を購入する等、食生活が変化している。様々な調理機器・器具が利用されている中で、住居形態別（自宅生と自宅外生）で区分して、各料理の家庭での調理頻度に焦点をあて調理機器・器具の使用状況を、調理の家庭内での調理頻度について「おもに家で作る（G1）」、「家で作ることが多いが調理済み品を購入したり外食することもある（G2）」、「家で作るとは少なく調理済み品を購入したり外食することが多い（G3）」の3つカテゴリー別に明らかにした。調査対象は令和 5 年 9 月報告と同様。家庭内調理の減少が従来の調理器具等の使用低減に繋がっていることが示唆された。 共著者：三木章江、後藤月江、 佐賀啓子、松下純子、 高橋恵子

「中国・四国支部の多様な調理法と仮定料理の伝承調査 ―徳島県出身者の郷土料理の喫食状況と郷土料理に対するイメージ・中四国8県と比較して―」（示説）	共	令和6年9月	一般社団法人日本調理科学会2024年度大会（於：鎌倉）	伝統的な家庭料理や郷土料理の調理や喫食状況などを明らかにすることを目的に中国・四国地域8県を対象にアンケート調査を行い、徳島県の郷土料理を中心に調理、喫食状況について検討した。調査対象は令和5年9月報告と同様。徳島の郷土料理の喫食経験は、半田そうめん、そば米雑炊、たらいうどんで60%以上であった。郷土料理を後世に伝えていくのは大切だと80.7%が回答し継承意識は高いが、郷土料理を知るきっかけが、調理学実習で60%、次いで祖母44%、母41.3%、SNS29%であり継承手段として教育機関での修学の有効性が高い。 共著者：松下純子、後藤月江、三木章江、<u>佐賀啓子</u>、高橋恵子
「中国・四国支部の多様な調理法と家庭料理の伝承調査」―全国調査：住居形態別および調理学実習における調理器具の使用経験の違い―」（示説）	共	令和5年9月	一般社団法人日本調理科学会2023年度大会（於：広島）	急速に変化している家庭料理の現状を把握し、家庭料理の伝承のための方策を検討することを目的に家庭料理の調理法および器具等に関する調査し、本発表では調理器具の使用経験について報告した。対象：中国・四国に在住する学生。有効回答数：1,062名（1,902名に依頼、有効回答率55.8%）。家族と過ごす自宅と一人暮らしとによる調理道具の種類や使用頻度の違い、また食に関わる調理学実習等の経験の有無により、昔ながらの調理道具や大人数の調理に適した道具などの使用経験に寄与していることが推察された。 共同発表：高橋啓子、板倉一恵、<u>佐賀啓子</u>、松井佳津子、岡本洋子、福留奈美
科研費採択状況（過去2年間）	該当なし			
研究助成金の交付等（過去2年間）	該当なし			
特許申請状況（過去2年間）	該当なし			
その他の研究活動	栄養士養成課程の学修における課題 ジビエ（徳島県におけるシカ肉）の普及推進について 多様な調理法と家庭料理の伝承について（日本調理科学会） 災害食について（日本調理科学会） 急性期医療における管理栄養士の役割について			

教 育

授 業

〔短大関係〕

①前期担当授業科目名

「栄養カウンセリング論」	木曜 1 講時	生活科学科食物専攻 2 年 6 名
「栄養学各論Ⅰ」	水曜 5 講時	生活科学科食物専攻 2 年 6 名
「臨床栄養学Ⅱ」	木曜 3 講時	生活科学科食物専攻 1 年 6 名
「臨床栄養学実習」	木曜 3・4 講時	生活科学科食物専攻 2 年 6 名
「栄養カウンセリング実習」	金曜 3・4 講時	生活科学科食物専攻 2 年 6 名

②後期担当授業科目名

「栄養学各論Ⅱ」	火曜 3 講時	生活科学科食物専攻 2 年 6 名
「栄養学各論実習」	水曜 3・4 講時	生活科学科食物専攻 2 年 6 名
「臨床栄養学Ⅰ」	木曜 3 講時	生活科学科食物専攻 1 年 18 名

③通年科目

「文理学」	木曜 5 講時	生活科学科食物専攻 1 年 18 名
「総合科目 D（食と健康）」	金曜 5 講時	生活科学科食物専攻 2 年 6 名
「総合ゼミナール」	金曜 5 講時	生活科学科食物専攻 1 年 18 名

〔大学関係〕

①後期担当授業科目名

「栄養学Ⅱ」	月曜 1 講時	人間生活学部人間生活学科 2 年 12 名、3 年 1 名 総合政策学部総合政策学科 2 年 1 名
「栄養学概論」	月曜 3 講時	人間生活学部心理学科 3 年 43 名、4 年 5 名

$$〔全コマ数〕 \left\{ \begin{array}{l} \text{前期} (7) \text{ コマ} \\ \text{後期} (5) \text{ コマ} \\ \text{通年} (3) \text{ コマ} \end{array} \right\} \text{計} (15) \text{ コマ}$$

〔その他の指導状況〕

- ・新入生セミナー、遍路ウォーク 令和 7 年 4 月 19 日（土）に実施 1 年生 18 名
- ・エシカル消費自主宣言について
講義・実習担当 令和 7 年 5 月 27 日（火）4 講時 1 年生 18 名
- ・「栄養の力でつながるプロジェクト 2025」ゼスプリタイアップ
栄養士会（日本栄養実践科学戦略機構）
講義担当令和 7 年 7 月 18 日（金）4 講時 1 年・2 年合同 24 名
- ・栄養士実力認定試験受験対策（補講）：9 月～12 月の 5 講時（合計 14 回）
担当科目：臨床栄養学（3 回）、解剖生理学（3 回）、栄養指導論（3 回）
栄養学各論（3 回）、総合力問題（2 回）
- ・短大フェスタ
令和 7 年 10 月 25 日（土）食物専攻のブース運営（ベジチェック操作、対応）
1 年生 18 名への事前指導・当日指導
- ・「栄養の力でつながるプロジェクト 2025」ヤクルトタイアップ
栄養士会（日本栄養実践科学戦略機構）
講義を担当 令和 8 年 1 月 13 日（火）14 日（水）15 日（木）
この間に、担当する栄養学関連の科目である栄養学Ⅱ、栄養学概論、栄養学各論Ⅱ
臨床栄養学Ⅰを履修する、学生合計 96 名の学生に対して食と健康についての講義を実施。

学生指導	①担任・チューター（生活科学科食物専攻1年生） ・個別面談：前期4月実施、後期10月実施 ・随時の個別指導：単位取得状況や授業出席状況が懸念される学生への指導 就職（進路）に対する助言、相談、指導を実施 ・夏期および冬期、春期休暇前のホームルーム指導 ほか ②第20回食育推進全国大会 in とくしま（アスティーとくしま） ブース出展（パネル展示） 前日準備 令和7年6月6日（金） 大会開催 令和7年6月7日（土）～8日（日） ジビエの特色ある学びをととしたシカ肉の料理考案および普及活動について事前準備と2年生6名の指導・引率。 ③上板町包括連携事業「stop！フレイル予防 with 徳島文理大学」 令和7年9月15日（月・祝） SATシステムのレンタルにより、食事バランスチェックの後のアドバイスを栄養相談コーナーとして、上板町役場の栄養士と共同して実施。 1年1名と2年1名への事前準備・指導・引率対応。 ④フードサイエンティスト認定研修会（食品科学教育協議会） 令和7年9月22日（月）15：00～16：30 四国大学短期大学部 資格取得希望者 2年生5名の引率および実施後の学生指導。 ⑤徳島ビジネスチャレンジメッセへの出展・販売（アスティーとくしま） 令和7年10月9日（木）～11日（土） 10月11日（土）のみ商品化したタコライス（レトルトパウチ）を販売。 2年2名と1年3名の参加に対して、事前準備・指導・引率対応。 ⑥校外臨地実習（事後指導）：2年生による後輩への伝達報告会 令和7年11月12日（水）1年生への引率指導 ⑦シカ肉ソーセージのジビエドッグ（あおさシャンテリーヌ添え）の学内販売 徳島キャンパス内カフェ・ロティにて限定30食を2年生が販売するにあたり事前準備・指導・引率対応。 実施日：令和7年7月8日（火）、9月30日（火）、11月11日（火）の計3回実施 ⑧シカ肉料理 学生考案レシピをTFTランチ提供日に合せて販売 学食パウゼ 販売にあたり2年生学生の事前準備・指導・引率対応。 いずれもTFTへの募金に繋げて計4回実施。 実施日：令和7年7月15日（火）シカ肉のタコライスほか 30食 10月28日（火）シカ肉のタコライスほか 30食 12月16日（火）シカ肉丼、シカ肉ロールキャベツほか 50食 令和8年1月20日（火）シカ肉生姜焼きうどん、シカ肉入りもずく酢50食 ⑨鹿の解体体験（フィールドワーク） 令和7年10月4日（土） 那賀町木沢 指導者：ファガスの森 平井滋様 ほか シカ肉の環境問題解決に対する教育の一環で鹿の解体体験を実施。 2年生1名、1年生5名の参加に対し、企画準備・事前指導・準備・引率対応。 ⑩「なかまと減塩フェス」出展・販売（那賀町主催） 令和7年11月1日（土）シカ肉の料理開発と普及活動の展示と商品化したタコライスの販売を実施。1年生の学生1名の指導・引率対応。
-------------	--

学生指導	⑪「Happy栄養コンテスト」(主催：全国栄養士養成施設協会) 行事食にまつわるエピソード写真にエピソード文章を添えて2026年1月7日締切りに1年生3名が応募するにあたり指導。1名が全国応募の中から1名が入選に輝く。
活 動	
学外活動	〔所属学会等(資格)〕 ・日本栄養士会会員 ・日本栄養改善学会会員 ・日本家政学会会員 ・日本調理科学会会員 ・日本臨床栄養代謝学会会員 (元：栄養サポートチーム療法指導士) (日本栄養代謝専門療法士認定(専門領域)周術期・救急集中治療専門療法士) ・日本病態栄養学会会員 (元：病態栄養認定管理栄養士) (元：がん病態栄養専門管理栄養士) ・日本糖尿病療養指導士認定機構認定(元：日本糖尿病療養指導士) ・日本腎臓病協会認定(元：腎臓病療養指導士) 〔学会関連の活動〕 ・日本調理科学会 中国・四国支部役員(令和4年4月～)2回/年 ・日本調理科学会 中国・四国支部特別研究チーム委員(令和4年度～7年度) ・日本調理科学会 中国・四国支部災害食検討委員(令和6年度～) 〔公的機関の活動〕 ・徳島県栄養士会 災害検討運営委員会 委員(令和4年6月～)12回/年 ・徳島県「とくしま災害栄養チーム」構成委員(令和5年2月～)2回/年 ・徳島県「阿波地美栄」魅力発信・食育推進業務委託業者審査委員会 委員(令和5年度～)1回/年 〔その他の活動〕 ・食品科学教育協議会(フードサイエンティスト認定)大学担当(令和4年4月～)会議2回/年 ・進路ガイダンス 開催日：令和7年10月31日(金)小豆島中央高等学校2年生 栄養士について
学内活動	①短期大学部 ・ホームページ委員 食物専攻内の広報担当としてホームページとInstagram運営管理 ・オープンキャンパス運営委員 令和7年4月27日(日)全体補助 6月15日(日)体験授業 7月13日(日)学科説明・入試説明 7月26日(土)全体補助 8月24日(日)体験授業 令和8年3月21日(土)学科説明・入試説明 その他 短大ウェルカム・デイ事前準備から当日運営を担当。 令和8年2月7日(土)卒業生1名と1年生2名の事前指導対応。 ②入試関連 - 総合型選抜入試 令和7年9月28日(日)面接3名担当 - 奨学金「ミライのわたし」選考面接 令和7年9月28日(日)面接3名担当 - 共通テスト：令和8年1月17日(土)試験監督

学内活動	③あおさのりスイーツ会議 1回/年 ④ジビエ商品開発・販売に関する会議 百十四銀行同席 3回/年 ⑤生活科学科食物専攻会議（議事録担当）4回/年 ⑥アカンサス会徳島県支部 幹事 ⑦アカンサス会沖縄県支部 事務担当
------	--

氏 名	儀 宝 修 (ギほう おさむ)			
所属・職の種類	短期大学部生活科学科 准教授			
最終学歴	徳島大学大学院工学研究科機械工学専攻修士課程修了 (工学修士)			
着任の年月	令和 4 年 4 月 1 日 (2022年)			
直前の職歴 (学校・企業等)	徳島県立徳島科学技術高等学校 校長			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 〔論文〕 〔発表〕		なし	なし	なし
科研費採択状況 (過去 2 年間)	なし			
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	なし			
特許申請状況 (過去 2 年間)	なし			
その他の研究活動	なし			
教 育				
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「総合科目 A (ボランティア)」 (生活：16名。食栄：27名。児童：22名。心理：18名。メディア：3名。 建築：3名。福祉：11名。理学：1名。総政：30名。水曜日 5 講時) 「総合科目 D (教育法規)」 (音楽 4 年：5 名。心理 4 年：17名。月曜日 1 講時) 「社会教育特講」 (児童 3 年：1 名。金曜日 2 講時) ②後期担当授業科目名等 「事前・事後指導」 (児童 3 年：1 名。総政 3 年：1 名。金曜日 4 講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名等 「総合科目 A (ボランティア)」 (生活 1 年：6 名。食物 1 年：12名。保育 1 年：9 名。言語 1 年：2 名。 金曜日 3 講時)			

授 業	②後期担当授業科目名等 「事前・事後指導」 (生活1年：1名。金曜日4講時) 「キャリアプランニングⅡ」 (商科1年：14名。音楽1年：2名。留学生：2名。火曜日2講時) 「生涯学習概論」 (言語1年：1名。商科1年：1名。水曜日2講時) 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (3) コマ} \\ \text{後期 (3) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (6) コマ 〔その他の指導状況〕 ①教員・幼保養成対策講座（面接講座） 前期（心理4年：6名。児童4年：9名。火曜日1講時） 後期（心理3年：11名。児童3年：1名。水曜日3講時） 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (1) コマ} \\ \text{後期 (1) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (2) コマ
論文等指導	なし
学生指導	〔全学共通教育センター 学習支援アドバイザー〕 ①教員・幼保採用試験レベルアップ講座（面接・教育法規）（各90分） ②教員採用審査直前講座面接指導（3回×90分） ③教員採用審査受験者に対する個別指導（38回×90分）
活 動	
学外活動	〔学生部業務〕 ①学生部副部長 兼 学生支援課長 ②人権教育推進委員会 ③学生指導支援協議会 ④学生生活に関する学長との懇談会 ⑤障害のある学生の実態調査関係 ⑥救急救命・熱中症対策講座関係 ⑦全学地域清掃ボランティア活動関係 ⑧ユニバス（大学スポーツ協会）関係 〔委員会活動〕 ①合同教授会 ②短期大学部教授会 ③教員・保育士養成対策委員会 ④広報担当者会 〔入試業務〕 ①地方試験の運営・監督（神戸試験場）
学内活動	〔公的機関の活動〕 ①徳島県退職高等学校長会事務局（事務局長） ②徳島県退職校長会（理事） 〔その他の活動〕 ①県内高校巡回（徳島科学技術高校、吉野川高校） ②県内ブロック進学説明会（徳島ブロック、吉野川ブロック） ③保護者会支部会（和歌山支部）

氏 名	近 藤 幸 (こんどう みゆき)			
所属・職の種類	短期大学部生活科学科 講 師			
最終学歴	鳴門教育大学大学院学校教育研究科教科・領域教育専攻 修了 (教育学修士)			
着任の年月	令和 5 年 4 月			
直前の職歴 (学校・企業等)	徳島市富田中学校 教員			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔発表〕 1 ゲストと歩く ギャラリートーク 「一原有徳・版の ワンダーランド」 展示解説	共	令和 3 年 5 月	「一原有徳・版のワ ンダーランド」(徳 島県立近代美術館)	徳島県立近代美術館企画展「一原有 徳・版のワンダーランド」におい て、一般約10名を対象に美術館上 学芸員竹内利夫の進行で自作と一 原有徳の関わりや作品解説等のギャ ラリートークを行った。
2 「彫らない技 法で作る版画～シ リコンプレート版 画～」 ワ ー ク ショップ	単	令和 6 年10月	アワガミ国際ミニ プリント受賞作品展 (阿波和紙伝統産業 会館)	アワガミ国際ミニプリント10年間 の受賞作品展イベントとしてシリ コンプレートによるモノタイプ(平 版技法)の解説と制作ワークショップ (定員一般10名)を行った。
〔作品発表〕 1 「明け行く」 「裏遊び」木版画	単	令和 3 年10月	日本版画協会 第86回日本版画協会 展 (東京都美術館)	「明け行く」水性多色木版 10版11 度刷り 45×60.5 (cm) 「裏遊び」 水性多色木版 10版11度刷り 91× 45 (cm)
2 「Forgotten Places ～忘れゆ く場所～」 「夜さ りのころ」木版画	単	令和 4 年 9 月	日本版画協会 第89回日本版画協会 展 (東京都美術館)	「Forgotten Places ～忘れゆく場所 ～」 水性多色木版 9 版10度刷り 60.5×91 (cm) 「夜さりのころ」 水性多色木版 9 版10度刷り 45×30 (cm)
3 「よるになっ て」木版画	単	令和 5 年 9 月	アワガミ国際ミニ プリント展2023 (阿波 和紙伝統産業会館)	吉野川市長賞 受賞 水性多色木版 8 版10度刷り 16× 24 (cm) 会場にて受賞者ギャラリートークに よる作品解説と審査員による講評会 を公開で行った。
4 「浮生(fusei)」 「泰運(taiun)」木 版画	単	令和 5 年10月	日本版画協会 第90回日本版画協会 展 (東京都美術館)	「浮生 (fusei)」 水性多色木版 8 版 9 度刷り 43×60 (cm) 「泰運 (taiun)」 水性多色木版 8 版 9 度刷り 60×91 (cm)

5 「春萌すほとり」「めぐりゆくもの」木版画	単	令和6年10月	日本版画協会 第91回日本版画協会 展（東京都美術館）	「春萌すほとり」水性多色木版8版 10度刷り 60×91（cm） 「めぐりゆくもの」水性多色木版8 版11度刷り45×91（cm）
6 「たゆたう蒼に」「蒼のほとり」 木版画	単	令和7年10月	日本版画協会 第92回日本版画協会 展（東京都美術館）	「たゆたう蒼に」水性多色木版8版10 度刷り 60×91（cm） 「蒼のほとり」水性多色木版8版11度 刷り45×60.5（cm）
〔個展・その他〕 個展「一瞬の静寂 近藤幸木版画展」	単	令和3年3月	ワイアートギャラ リー（大阪）	「空と森」他木版画15点、水彩画10 点の発表
個展「近藤幸展」	単	令和3年10月	アートギャラリー GRACE（徳島）	「風光る」他木版画25点、水彩画10 点、立体「雲の子（くろ）」他10点 の発表
個展「近藤幸展— 木版画・その他—」	単	令和3年11月	ギャラリー ACS （名古屋）	「明けゆく」他木版画16点、水彩画 7点、立体15点の発表
個展「近藤幸 木 版画・立体展」	単	令和4年9月	十一月画廊（東京）	「forgotten place ～忘れ行く場所 ～」他木版画11点、立体11点、陶立 体2点の発表
個展「漂泊の風景 を描きたい」	単	令和4年11月	ワイアートギャラ リー（大阪）	「夜さりのころ」他木版画15点、パ ステル・水彩画10点の発表 *会場にて版木の展示解説、彫りの 実演
個展「阿波を彫る 近藤幸木版画 展」	単	令和5年2月	松山三越美術ギャラ リー	「月映」他木版画29点の発表 *時津画廊より出品
「風景がうたう木 版画 近藤幸 渡 辺裕司展」	共	令和5年4月	ワイアートギャラ リー（大阪）	「旅の窓シリーズ」他木版画15点の 発表
個展「近藤幸展 —木版画・他—」	単	令和5年6月	ギャラリー ACS （名古屋）	「in blue」他木版画12点、パステル 画9点、「水の庭シリーズ」アクリ ル立体6点の発表 *「朝日新聞」（6月7日朝刊）掲 載
個展「近藤幸展」	単	令和5年7月	ITONAギャラリー /ナガイレーベン （東京）	「夏日暮」他木版画24点、パステル 画5点、「水の庭シリーズ」アクリ ル立体6点の発表

個展「第19回徳島版画GRACE賞受賞記念 近藤幸展」	単	令和5年11月	ギャラリー喫茶GRACE（徳島）	「よるになって」他木版画18点、パステル・水彩画8点、アクリル立体6点の発表
個展「近藤幸木版画展 ～flow of time～」	単	令和6年1月	アートデアート・ビュー（高槻）	「浮生（fusei）」他木版画22点、ドローイング13点、アクリル立体6点の発表
個展「近藤幸展 Luce e Ombra 木版画・ドローイング」	単	令和6年9月	眉峰ギャラリー（徳島）	「wayside A」他ドローイング（パステル・水彩）19点、木版画8点、アクリル立体2点の発表
個展「近藤幸展 “Slowly and gentry”」	単	令和6年9月	十一月画廊（東京）	「春萌すほとり」他木版画12点、パステル・水彩画16点の発表
グループ展「第21回徳島版画展」	共	令和6年10月	阿波銀プラザ（徳島）	木版画3点「めぐりゆくもの」「春萌すほとり」徳島百景「返照」の発表 *「返照」が観客賞を受賞
個展「近藤幸 木版画展」（第20回徳島版画展阿波和紙会館受賞記念）	単	令和6年11月	阿波和紙伝統産業会館（徳島）	「約束の丘」「夢守り」等過去の受賞作を含む木版画48点を発表
個展「近藤幸 木版画展 Serene days ～穏やかな日々～」	単	令和7年3月	ワイアートギャラリー（大阪）	「泰運（taiun）」他木版画17点、パステル画11点、アクリル立体4点の発表 *会場に於いて水性木版摺りの実演
近藤 幸展 ―木版画・ドローイング―	単	令和7年6月	ギャラリー ACS（名古屋）	「めぐりゆくもの」他木版画13点、パステル画12点の発表
HANGA 2025 現代版画展【近藤幸特集】	共	令和7年6月	高松三越美術画廊	「返照」他10点の発表 *阿波の木版作家として特集展示
W O M E N ' S N T E M P O R A R Y P R I N T ' S 100	共	令和7年10月	松坂屋名古屋店 A R T H U B N A G O Y A	「在るべき姿」他数点の発表（時津画廊企画）
グループ展「第22回徳島版画展」	共	令和7年10月	阿波銀プラザ（徳島）	木版画3点「たゆたう蒼に」「蒼のほとり」「夕まではまだ」 *会場にて版画実演会「ジェルプリ

平木美鶴&その仲間たち展	共	令和7年12月	阿波銀プラザ（徳島）	ント」ゼラチンを固めたプレートで刷る版画を開催 「旅の名残Ⅱ」の発表 ＊会場に於いて「ギャラリートーク」「メディウム剥がし刷り版画」ワークショップ補助
科研費採択状況（過去2年間）	該当なし			
研究助成金の交付等（過去2年間）	該当なし			
特許申請状況（過去2年間）	該当なし			
その他の研究活動	・徳島県リカレント教育推進事業採択（令和6年度）「アート&クラフトで美術教育スキルアップ講座～専門的な技法や用具の扱いを体験から学ぶ～」 ・版画普及のためのジェルプリント、ヘクトグラフ等の平版技法と水性木版摺りについて研究。資料作成や試作を行い一般向け版画講座に取り組んだ。			
教 育				
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「色彩・造形論」（建築デザイン1年22名。月曜日2講時） 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「デッサンⅠ」（生活科学専攻1年。7名。木曜日1・2講時） 「絵画Ⅰ」（生活科学専攻2年。1名。金曜日3・4講時） 「グラフィックデザインⅡ」（生活科学専攻2年。2名。水曜日3・4講時） 「デザイン・造形論」（生活科学専攻2年。2名。火曜日2講時） 「文理学」（生活科学専攻1年。8名。木曜日5講時） ②後期担当授業科目名 「グラフィックデザインⅠ」（生活科学専攻1年。8名。月曜日3・4講時） 「デッサンⅡ」（生活科学専攻1年。5名。木曜日3・4講時） 「絵画Ⅱ」（生活科学専攻2年。1名。水曜日1・2講時） 「卒業制作（絵画）」（生活科学専攻2年。1名。金曜日3・4講時） 「総合実習」（生活科学専攻2年。1名。火曜日1・2講時） 「総合ゼミナール」（生活科学専攻1年。8名。水曜日5講時） 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期（ 9 ）コマ} \\ \text{後期（ 11 ）コマ} \end{array} \right\}$ 計（ 20 ）コマ			
学生指導	①生活科学専攻1年生担任 ・前期・後期の授業履修や進路・就職活動等について、個々の特性や目標を把握しながら面談による指導を行った。 ・欠課の多い学生や課題提出が困難な学生に対して個別指導を行った。			

学生指導	②短大フェスタ ・ワークショップの企画、準備や運営を学生たちで行えるよう指導し、自信を持って多くの人と関わり、ものづくりの楽しさを実感させることができた。 ②卒業制作展の準備・展示指導 ・DMやキャプション作成、展示・搬出などの指導を通して、自分たちで展覧会を成功させる喜びや達成感を得る経験にすることができた。
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 ・版画学会会員 ・日本版画協会会員（審査員） ・徳島版画会員（事務局・実行委員） 〔公開講座〕 ・徳島版画展「ジェルプリント」版画実演会とワークショップ 11月1日実施 〔その他の活動〕 ①徳島県立近代美術館資料集委員 第47回徳島県立近代美術館資料収集委員会（1月14日） ②第22回徳島版画展（10月30日～11月3日） 事務局として企画・運営、目録作成等を行う
学内活動	①入試関連 ・総合型選抜入試 面接（ミライのわたし採用面接含む） 9月8日 9月14日 ・総合型選抜入試 面接 10月6日 ・大学入学共通テスト監督補助 1月17日 ②オープンキャンパス等 ・学科説明、模擬授業担当 4月27日 7月26日 9月14日 ・学科特別プログラム担当 7月13日 8月24日 ・琴平高等学校大学見学体験授業 10月22日 ③短大コミュニティ・カレッジ ・「即興版画！ジェルプリント講座」8月24日（定員10名） ・「アート講座 水性木版画を楽しもう」 2月7日 2月14日 2月21日（定員7名） ・「クラフト講座 シルバーリングを作ろう」2月11日（定員10名） ③生活科学専攻広報資料制作 ・生活科学専攻フライヤーデザインと印刷 ・短大スタイルブック担当 ・卒業制作展DM・チラシ、看板等のデザインと印刷 ④短大フェスタ 10月25日 ・生活科学科ワークショップ「クリスタルチャームをつくろう」の準備と運営

氏 名	児 嶋 輝 美 （ こじま てるみ ）			
所属・職の種類	短期大学部保育科 教 授 （ 学科長 ）			
最終学歴	国立音楽大学大学院音楽研究科 修了 （ 芸術学修士 ）			
着任の年月	昭和62年 4 月			
直前の職歴 （学校・企業等）	徳島文理大学短期大学部非常勤講師			
研 究 （業績：過去 5 年間）				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔論文〕 1. インターネッ トで配信される創 作手遊び歌の変化 について —保育教材として の検討—	単	令和 3 年 9 月	徳島文理大学研究紀 要第102号	インターネットで配信されている創作手遊びの中から、再生回数の多い 6 曲を取り上げ分析した結果、全般に音域が狭まり平坦な旋律になっていることやリズムが単純化していることなどの特徴が明らかになった。結果として子どもにとって歌いやすい曲になっていることから、手遊び歌が遊びの中で変化することは自然であるという見解を示した。一方で、子どもとのやりとりを経ずに動画の拡散によって変化したものが多いことを問題点として指摘。保育教材として音楽と遊びの両面を大切に伝えていくことの大切さを述べた。pp.53-66
2. 保育者養成校 が行う子育て支援 の取り組みについ て —本学のペンギン クラブ子育て支援 イベントの成果と 課題—	共	令和 4 年 3 月	徳島文理大学研究紀 要第103号	全国の大学が行う子育て支援の取り組みについて運営の形態や実施の状況を明らかにするとともに、本学保育科が行ってきた子育て支援イベントを振り返り、成果と課題を検証することを目的として取り組んだ。全国の102校の取り組みを調べた結果、約 5 割が自治体やNPOとの連携や委託によるものであることや多くの大学が授業や実習指導と関連付けていることなどが明らかになった。また、本学の取り組みについては利用者へのアンケートや学生の感想などから、保護者から好評価を得ていることや一定の教育効果をあげていることが確認できた。今後の課題は、継続可能な仕組みを整えること、ICTの活用、活動の評価方法の検討である。pp.37-48 ＜共同研究者＞森万里子（徳島文理

3. 保育現場における手遊び歌の伝承とその意味 —作者不詳の作品にみる手遊び歌の変遷—	共	令和4年9月	徳島文理大学研究紀要第104号	大学短期大学部)、勢井香菜子(徳島文理大学学生) 手遊び歌は広まっていく過程で変化する傾向がある。その変化の中に保育現場での手遊び歌の用いられ方や好まれる要因があるのではないかと考え、作者不詳の手遊び歌について旋律やリズム、歌詞の分析を行った。その結果、旋律が平坦化しリズムが単純化する音楽面での傾向が見られた。また、保育者の工夫や子どもとの相互的なやり取りの中で変化したと考えられるものがあり、手遊び歌が応用性の高い保育教材であることが確認できた。pp.43-54 ＜共同研究者＞釘宮貴子(徳島文理大学非常勤講師)
4. 徳島文理大学短期大学部におけるボランティアパスポートの取り組みについて —遠隔授業によるボランティア活動推進の試み—	共	令和5年3月	徳島文理大学研究紀要第105号	短期大学部「総合科目A(ボランティア)」では30時間のボランティア活動の他に、5回の講義の受講を単位認定の条件とし、令和3年度から講義を遠隔で行っている。本研究はその報告と成果の検証である。受講者を対象としたアンケート調査の結果、遠隔授業は好意的に受け止められており、授業の内容にはほとんどの学生が満足していることが明らかになった。一方で、実際に活動に参加した学生は少なかった。ボランティアへの興味・関心を行動に繋げていくための授業内容や働きかけが今後の課題である。pp.25-35 ＜共同研究者＞ 島田俊朗、則包光徳、藤本和賀代、堀口誠信、松下純子(徳島文理大学短期大学部)
5. 保育内容「領域」に求められる授業内容の検討 —卒業生へのアンケート調査に基づく課題と改善—	共	令和5年9月	徳島文理大学研究紀要第106号	教育職員免許法等改正に伴い、令和5年度から「領域に関する専門的事項」に関する科目が新設された。そのことを機に、これまでの領域に関する授業内容を見直し改善を図ることを目的として、卒業生に対するアンケート調査を行ったものである。その結果、保育者としての経験年数や担当クラスの年齢によって必要と感じる技術や知識が異なること、特に経験年数が短い保育者は技術的な面での必要度が高いことなどが明ら

6. 保育学生の「保育における不適切なかかわり」に関する意識について	共	令和6年9月	徳島文理大学研究紀要第108号	かになった。結果を踏まえ、各自の授業での今後の課題について述べた。pp.39-49 <共同研究者> 石井信子、下内新吾、船本孝子、森万里子（徳島文理大学短期大学部） 金子紗枝子、古本奈奈代（徳島文理大学）
〔研究発表〕 1. 保育内容「領域」に求められる授業内容の検討—卒業生へのアンケートから—	共	令和5年5月	日本保育学会第76回大会	保育現場における子どもへの不適切なかかわりの報道が相次ぐ状況を懸念し、実習指導や授業に役立てることを目的とし、学生の意識を知るためにアンケート調査を行った。全国保育士会が作成した「人権擁護のためのセルフチェックリスト」について不適切と感じる度合いを問うものである。その結果、実習経験の有無によって不適切と感じる度合いに違いが見られ、項目によっては実習経験のある学生の方が不適切と判断しにくいと感じていることが明らかになった。結果を踏まえて、今後の実習指導や授業の在り方について考察を述べた。pp.41-50 <共同研究者> 船本孝子、森万里子（徳島文理大学短期大学部） 古本奈奈代（徳島文理大学）
2. 保育者がとらえる保育内容とし	共	令和7年5月	日本保育学会第78回大会	領域に関する授業内容を見直し改善を図ることを目的として、卒業生に対するアンケート調査を行ったものである。その結果、保育者としての経験年数や担当クラスの年齢によって必要と感じる技術や知識が異なることが明らかになった。自由記述からは、保護者への対応、指導計画や書類の作成、年齢に応じた手遊びや活動などを必要としていることが明らかになり、卒業後教育の必要性が課題として浮かび上がった。 <共同研究者> 石井信子、下内新吾、船本孝子、森万里子（徳島文理大学短期大学部） 金子紗枝子、古本奈奈代（徳島文理大学人間生活学部）

ての手遊び歌の意味				繰り返される活動である。本研究は、手遊び歌で育つものは何かを明らかにするため、保育者へのアンケートとインタビューを実施し分析した。その結果、遊び歌は保育者や友だちとの関係を深め、子どもが安心感を与え、数や言葉に関心をもつきっかけになり、表現への意欲や技術を高めるとともに身体的な発達を促し、さらには主体的に表現活動や遊びにつながる体験になることが示唆された。保育者は子どもとのやりとりを楽しむことを大切にしており、保育内容としてとらえる視点をもって実践していることも明らかになった。 <共同研究者> 河内奈穂（松山東雲短期大学）
3. 子どもも保育者も「楽しい」保育を目指して—保育者の気づきと変化がもたらした子どもの輝き—	共	令和7年8月	第16回幼児教育実践学会	T県内S幼稚園が保育実践の向上に向けた取り組みにおける実践事例とその考察である。教員間での対話と園内研修を通じてこれまでの保育を振り返り、子どもの主体性を高めるための取り組みを行った。発表では、具体的な実践事例とともに保育者の意識の変容とその過程で直面した課題へどのように向きあったかを明らかにし、「楽しい保育」の在り方を考察した。 <共同研究者> 仲根百合、高田真美子、祖地玲羅（鳴門聖母幼稚園）
4. 保育者養成教育における手遊び歌の指導について—「音楽」と「遊び」の両面から—	単	令和7年9月	令和7年度全国大学音楽教育学会中・四国地区学会	手遊び歌は実習で求められることが多い実技であるが、保育内容としての意味や指導方法を深く学ぶ機会は少ない。本発表では、手遊び歌を「音楽」と「遊び」の両面から保育教材として再考し、養成校での指導の在り方を検討した。一斉的活動でありながらも、保育者と子どもが応答し合い一体感を育む中で、情緒の安定や社会性の育ちを支える。養成校では、その文化的価値と多面的意義を踏まえた指導が求められると結論付けた。
〔その他〕 1. 絵本から広がる音楽表現	単	令和4年5月	幼児音楽研究第71号	幼児は絵本の文章を、リズムをつけて口ずさんだり、印象に残った場面

2. 自主シンポジウム「保育における子どもと音楽を考える」	共	令和7年5月	日本保育学会第78回大会	をぐっこ遊びで再現したりすることがある。絵本は表現活動のきっかけになることに注目して、音楽表現の視点からこれまで行った保育実践を紹介するとともに、絵本を題材にした音や音楽の楽しみ方についての提案を行った。pp.16-19 自主シンポジウムに話題提供者として登壇。『『遊び』としての音楽を考える』と題して、日常の保育の中で、音楽はどのようにして「遊び」になりうるか事例を通して話した。特に、音楽的な面の美しさや正確さより、子どもの「楽しい」という実感が重要であること、その楽しさの積み重ねが、音楽そのものの楽しさに繋がっていく可能性を持つことを延べた。 ＜共同研究者＞ 水崎誠（東京学芸大学）、西海聡子（東京家政大学）平井恭子（京都教育大学）、當銀玲子（淑徳大学）
研究助成金の交付等	令和6年度 中・四国保育士養成協議会教職員研究費助成 「保育実践の向上に繋がる手遊び歌の指導について」（共）共同研究者：河内奈穂（松山東雲短期大学）			
教 育				
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「保育内容（表現）A」（児童学科2年。15名。3年1名。金曜1講時） 「幼児と表現」（児童学科3年。36名。月曜1講時） ②後期担当授業科目名等 「保育内容総論」（児童学科1年。25名。2年1名。3年3名。火曜3講時） 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「保育内容総論」（保育科2年。12名。月曜2講時） 「幼児と表現」（保育科1年。11名。保育科2年1名金曜2講時） 「子育て支援」（保育科2年12名。児童学科4年1名。水曜3講時） 「児童文化①」（保育科1年。11名。木曜1講時） 「音楽Ⅲ①」（保育科2年。12名。火曜1講時） 「総合科目A（ボランティア）」（短期大学部1年19名、水曜5講時） ②後期担当授業科目名 「保育内容（表現）A」（保育科1年。11名。火曜2講時） 「音楽Ⅲ②」（保育科2年。11名。金曜1講時） 「総合科目B」（保育科2年。11名。木曜2・3講時） 「児童文化②」（保育科1年。11名。木曜1講時）			

授 業	「保育・教職実践演習（幼）」（保育科2年。11名。金曜3講時） 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期（ 8 ）コマ} \\ \text{後期（ 6 ）コマ} \end{array} \right\}$ 計（ 14 ）コマ
学生指導	①「第42回おとぎのくに」の指導 保育科の1・2年生が、保育所・幼稚園の幼児を招待してミュージカルやブラックシアター等を上演する行事「おとぎのくに」の責任者として学生の指導を行っている。第42回は11月26日・27日の2日にわたってむらさきホールにおいて開催し、約1000人の幼児や引率の保育者等を招待した。その演目（ミュージカル、ハンドベル、合唱、ダンス）と、運営全般について責任者として指導を行った。特に、1年2年のミュージカルについてはテーマの設定から台本作りまで、学生が意見を出し合っ てまとめていく過程をサポートした。保育科の全学生が協力して取り組んだこと によって、学生の学科への帰属意識や一体感を高めることに結びついたとともに各自 が達成感や自己肯定感を味わう経験になったと思われる。 ②第66回中・四国保育学生研究大会における研究発表 11月に行った「おとぎのくに」での発表をもとに「ミュージカル『オオカミ君のパン屋さん～創作を通して学んだこと～』」をテーマに研究発表を指導した。作品の一部を動画で紹介しながら、他者に対する寛容さや多面的な見方の大切さを述べた。 ③子育て支援イベント「ペンギンクラブ」 未就園の乳幼児と保護者を対象とした子育て支援イベントである。「親子の運動遊び」「リズム遊び」「歯の健康」などのテーマで8回開催し、のべ126組282人の親子が参加した。学生に事前指導を行ったうえで手遊びや絵本の読み聞かせなどを担当させている。人前に出ること自信がなかった学生も、経験を重ねると堂々と発表できるようになっており、保護者に話しかけたり子どもの相手をしたりするなど臨機黄変に対応できるようになっている。子育て支援について実践的に学ぶ機会になっている。 ④Bunri ハンドベルクワイアの指導 部員11名からなるハンドベルサークルの指導を行い、国府支援学校、ファミリーサポートセンタークリスマス会、ペンギンクラブクリスマスコンサートでの演奏活動を行った。
活 動	
学外活動	〔学会等活動〕 ・幼児音楽研究会常任理事 ・日本保育学会会員 ・日本音楽教育学会会員 ・全国大学音楽教育学会会員 ・日本ハンドベル連盟会員 〔公的機関の活動〕 ・社会福祉法人ローガン記念徳島栄光福祉会第三者委員 ・社会福祉法人喜久伸会評議委員 ・特定非営利活動法人美千会第三者委員 〔各種講演・その他〕 ・令和7年6月 鳴門聖母幼稚園職員研修講師 ・令和7年6月 徳島県立鳴門高等学校出張講義

学外活動	・ 令和 7 年 7 月 徳島県立阿波西高等学校出張講義 ・ 令和 7 年 8 月 「高校生の読み聞かせボランティア養成講座」講師 ・ 令和 7 年 8 月 わかば認定こども園職員研修講師 ・ 令和 7 年10月 徳島県保育事業連合会主催保育士等キャリアアップ研修講師 ・ 令和 7 年12月 徳島市シルバー人材センター 研修会講師 ・ 令和 8 年 1 月 城南こども園職員研修講師 ・ 令和 8 年 1 月 徳島市立多家良保育所子育て教室 ・ 令和 8 年 1 月 徳島県立池田高等学校出張講義 ・ 令和 8 年 2 月 保育魅力アップセミナー講師
学内活動	・ 全学教務委員 ・ 自己点検・評価実施委員 ・ 教員・保育士養成対策委員会委員 ・ 短大認証評価ワーキンググループ ・ 短期大学部オープンキャンパス運営委員 ・ 短期大学部「短大スタイルブック」編集作業 ・ Bunri ハンドベルクワイア顧問 ・ 第21回保育セミナーの企画・運営 ・ ブロック別進学説明会（徳島）

氏 名	釘 宮 貴 子 （ くぎみや たかこ ）			
所属・職の種類	短期大学部保育科 教 授			
最終学歴	名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士後期課程（博士・学術）			
着任の年月	令和5年4月1日			
直前の職歴 （学校・企業等）	徳島文理大学音楽学部非常勤講師			
研 究 （業績：過去5年間）				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 1 『ウィルヘルム・キーンツル 4つの日本の歌 Op.47』	単	令和6年4月	カワイ出版	オーストリアの作曲家ウィルヘルム・キーンツルは、カール・フローレンツによる和歌の翻訳『東の国からの詩の挨拶』（1894）から選んだ4つの詩に曲を付け1895年に歌曲集『4つの日本の歌 Op.47』を出版した。本書は作曲の背景、作曲者、原詩、翻訳者、翻訳詩、楽曲分析についての研究成果を解説として掲載し、楽譜を新たに構成して日本語版として出版したものである。
2 「二十世紀初期ウィーンにおけるジャポニズムの音楽劇」『オペラ音楽劇の最前線―共鳴する人と社会』115-140頁。	共	令和8年1月	水声社	早稲田大学総合研究機構 オペラ／音楽劇研究所研究員による共著。これまでにまだ研究されていない、二十世紀初期ウィーンにおけるジャポニズムの音楽劇、『日本の王女』（1904）、《ポート・アーサー》（1904）、《3人娘》（1908）について、時代背景、成立過程、台本と音楽を中心に考察し、二十世紀初期のウィーンにおける日本表象の詳細を明らかにした。
〔論文〕 ②研究紀要 1 「保育現場における手遊び歌の伝承とその意味―作者不詳の作品にみる手遊び歌の変遷―」	共	令和4年9月	徳島文理大学研究紀要第104号	手遊び歌は広まっていく過程で変化する傾向がある。その変化の中に保育現場での手遊び歌の用いられ方や好みといった要因があるのではないかと考え、作者不詳の手遊び歌について旋律やリズム、歌詞の分析を行った。その結果、旋律が平坦化しリズムが単純化する音楽面での傾向が見られた。また、保育者の工夫や子どもとの相互的なやり取りの中で変化したと考えられるものがあり、手遊び歌が応用性の高い保育教材であることが確認できた。 ○児嶋輝美、釘宮貴子

2 「カール・フロレンツの『東の国からの詩の挨拶 Dichtergrüsse aus dem Osten』(1894) とジャポニズムの歌曲」	単	令和6年3月	徳島文理大学研究紀要第107号	19世紀末から20世紀にかけて、ドイツ・オーストリアでは和歌のドイツ語訳を歌詞とした歌曲集が出版されている。本論文では東京帝国大学のお雇い教師、カール・フロレンツの『東の国からの詩の挨拶』(1894)に掲載された翻訳詩を歌詞とした5つの歌曲集(全28曲)と2つの歌曲を取り上げ、その特徴を明らかにした。キーンツル、グルーベの歌曲には日本の音階や日本風の旋律は引用されておらず、後期ロマン派から近代のドイツ歌曲の様相である。マルクスの歌曲は印象主義の手法が取り入れられ、ゲルンスハイムの歌曲は中世の教会旋法が使用されている。19世紀末から20世紀にかけて西洋音楽は常に新しい素材を求めている。本論文で取り上げた歌曲は、日本文化が西洋音楽に影響を及ぼした初期の例として歴史的意義を持つ作品群である。
〔学会発表〕 ①国際学会発表 1 The Spiritual Nature of Japan Depicted in Opera—Die Dorfschule (1919) by Felix Weingartner—	単	令和3年12月	The Society for the Study of Japonisme International Symposium 2021 Japonisme and Eastern Thoughts (Religion, Philosophy, Aesthetics) (Virtual Symposium)	The Japanese spirituality depicted in the opera “Dorfschule” (1919), based on the Kabuki play “Terakoya”, composed by Felix Weingartner, was discussed. The Kabuki play “Terakoya” tells the story of a man who sacrifices his own child for the sake of loyalty to a former lord. Weingartner has adapted the opera around the idea of 'vassal loyalty', which is common to both the West and Japan. Musically, Weingartner used Oriental parallel chords to express the Confucian loyalty of the warriors, and the Romantic method in the Christian expressions and the singing of the knightly spirit. In Vienna at the time, the image of 'Japan = geisha' had been formed, but the opera The School in the Village overturned this image.
2 The transformation of Japonisme opera in Germany and Austria: The Japanese depicted in Theodor Szántó's opera Typhoon (1924)”	単	令和5年11月	International symposium 2023 “Performative Japonisme” (Musashino Art University Ichigaya Campus)	Opera “Typhoon” (1924) by Theodor Szántó is the fourth German-Austrian Japonisme opera. The opera features the emerging nation of Japan, which was gaining power and rising to prominence in the West. Based on the Yellow Peril theory, which was the social trend at the time, the opera focuses on the

②国内シンポジウム 講演 1 ウィーンで上演されたジャポニスムのオペラ・オペレッタに描かれた〈芸者〉	共	令和4年11月	20世紀初期の音楽・舞踊におけるジャポニスム・オリエンタリズム ―女性の表象と身体― (名古屋大学)	difference between the Japanese and Western way of thinking, although there are also expressions of wariness towards Japan and the superiority of the West. The Japanese are portrayed as a people who place the highest priority on their duty to the state, contrasted with Westerners who place the highest value on personal affection. Japanese songs such as “Kimigayo” and “Chushingura” are quoted in the opera to express the patriotism and loyalty of the Japanese people. The opera “Typhoon” shows how the West viewed the Japanese in the early 20th century. 名古屋大学において、音楽・舞踊のジャポニスム・オリエンタリズムについてシンポジウムを企画した。登壇者は名古屋大学の教員と博士研究員である。自身の発表では、19世紀末から20世紀にかけてウィーンで上演された芸者を主人公とした4つの音楽劇《芸者》《蝶々夫人》《3人娘》《ユシは踊る》を取り上げ、それぞれの作品に描かれた芸者について考察した。共通点として日本に寄港した西洋の男性と芸者の物語であることが挙げられるが、芸者のキャラクターは金銭的契約から恋愛に発展する者と、一定期間だけの仕事と割り切っている者に分けられる。芸者の身分や仕事内容は西洋では明確に知られていないが、西洋の男性に支配される日本女性というオリエンタリズム的視点が随所に見られることが判明した。 ○釘宮貴子、山口庸子、李二
2 ドイツ・オーストリアの音楽のジャポニスム	共	令和7年10月	ジャポニスムの諸相 (愛媛大学)	四国在住の研究者4名によるシンポジウム。美術、庭園、文学、音楽の角度からジャポニスムの新たな実像に迫ることを目的とした。釘宮は音楽の分野から発表を行った。日本が誇る文化である和歌がドイツ文学に受容され、そこからジャポニスムの歌曲が創作された流れについて概説し、東京帝大のお雇い教師であったカール・フローレンツの和歌の翻訳にまつわるジャポニスムの歌曲について分析考察を行った。結果として

3 和歌の翻訳とドイツ歌曲	共	令和8年3月	ジャポニズムの諸相 (鳴門市ドイツ館)	それらの楽曲が歴史的価値を有していることを明らかにした。 ○野村優子、釘宮貴子、松本裕美、依岡隆児 四国在住の研究者4名によるシンポジウム。音楽、文学、庭園、美術の角度から再度ジャポニズムの新たな実像に迫ることを目的とした。釘宮は最初にレクチャーコンサートによる発表を行った。同じ和歌の翻訳に作曲されたウィルヘルム・キーンツルの〈限りない愛〉(1985)とヨーゼフ・マルクスの〈日本の雨の歌〉(1909)、そしてマルクスの弟子であったマリア・バッハの〈花々との別れ〉(1930)、ルドルフ・ベテルカの〈歓喜〉(1919)について、元の和歌と翻訳詩の比較と楽曲の分析を行い、演奏で研究内容を裏付けた。 ○釘宮貴子、依岡隆児、野村優子、松本裕美
③国内学会発表 1 20世紀初頭のウィーンで作曲された日本を題材としたオペラ・オペレッタに見る日本人像	単	令和3年5月	早稲田大学総合研究機構オペラ／音楽劇研究所第194回オペラ研究会 (オンライン)	20世紀初期にウィーンで上演された、日本を題材にした音楽劇において、日本人はどのように表象されていたのかを考察した。ウィーンでは1904年から1920年の間に日本を題材と3つのオペレッタ、1つのオペラが上演されている。1907年以降に何度も上演されたプッチーニのオペラ《蝶々夫人》の影響により、芸者を主人公としたオペレッタはウィーンで人気を博していた。娯楽的要素の濃いオペレッタでは芸者は悲劇的には描かれていないが、オリエンタリズム的な描き方は随所に見られる。オペラでは日本と西洋に共通する精神性が描かれ、ウィーンの聴衆の共感を呼んでいたことが明らかとなった。
2 19世紀末のドイツにおけるジャポニズム・オペラ フランツ・クルティ《リリ・ツェー》(1896)	単	令和3年11月	日本音楽学会 第72回全国研究大会 (信州大学)	フランツ・クルティのオペラ《リリ・ツェー》は、19世紀にドイツ・オーストリアで作曲された唯一のジャポニズム・オペラである。オペラの舞台は人里離れた日本の手仕事職人たちが住む村で、日本を旅行中の英国人女性が落とした鏡をめぐる日本人の反応をユーモラスに描いたものである。ストーリーは日本の昔話『松山鏡』に基づいており、1894年にイギリスの雑誌『ストランド・マガジン』に掲載された日本の物語

3 黄禍論とジャポニズムのオペラ —テオドル・サントー 《タイフーン》 (1924)	単	令和4年11月	日本音楽学会 第73 回全国大会 (西南学院大学)	「鏡」が直接の土台となっていることが判明した。1885年にミュンヘンで開催され人気を博していた「日本人村」もこのオペラの創作に影響を与えたと考えられる。
4 19世紀末から20世紀初頭のドイツ・オーストリアで作曲されたジャポニズムの歌曲 —日本詩歌の翻訳から得たインスピレーション—	単	令和5年6月	音楽表現学会第21回 (平安) 大会 (京都女子大学)	メルヒオール・レンジェルの戯曲『タイフーン』(1900)を元にしたテオドル・サントーのオペラ《タイフーン》(1924)を取り上げ、日清戦争や日露戦争の勝利などにより急速に西洋に台頭した日本に対するイメージの変化がどのようにオペラに反映されたのかを中心に考察した。「黄禍論」が広がっていた時代の作品であるが、レンジェルの戯曲、サントーのオペラではストーリーの中心は西洋人と日本人の考え方の差であることが明らかとなった。西洋人は愛を最も尊重するが、日本人は国家への義務を最も尊重すると描かれている。
5 日本の物語を題材としたドイツのジャポニズム・オペラ	単	令和5年10月	第64回愛知音楽研究会 (名古屋市東生涯学習センター)	ウィルヘルム・キーンツルの歌曲集《4つの日本の歌》(1895)、グスタフ・グルーベの歌曲集《7つの日本の歌》(1904)を中心に取り上げ、研究発表と演奏デモンストレーションを行った。この2つの歌曲集はカール・フローレンツの和歌の翻訳『東方よりの表敬』(1894)にインスピレーションを得て作曲されたものである。フローレンツの翻訳は元の日本詩歌にほぼ忠実であるが、詩の心情や情景を西洋人が理解しやすいように説明的な語句が付け加えられている。それによりキーンツルとグルーベは鮮明な印象を得ることができた。これらの歌曲集は和歌の翻訳と錦絵風の挿絵に想像力を得たドイツ歌曲として注目される。
				日本の物語を原作としてドイツで作曲された2つのオペラについて考察した。フランツ・クルティのオペラ《リリ・ツェー》(1896)は、日本の昔話『松山鏡』をベースとしている。全曲は7場から成り、明快な調性で書かれている。日本風の旋律や音階は見られないが、異国情緒を醸し出すために「ズンベラ」などの日本語が用いられている。マンフレート・グルリットのオペラ《聖女》(1920)は『平家物語』第一巻の「祇王」を

6 平家物語を題材としたオペラ—マンフレート・グルリット《聖女》(1920)	単	令和5年11月	日本音楽学会 第74回全国大会 (聖徳大学)	原作としている。グルリットは、このオペラを「音楽的聖譚」と名付けている。宗教的題材による初のジャポニスム・オペラである。 マンフレート・グルリットのオペラ《聖女》(1920)について考察した。これは『平家物語』第一巻「祇王」を元にしたオペラである。台本はカール・ハウプトマンが1909年に出版した『Panspiele』に収録された「ある日本の短篇による3幕の詩作」であることが判明した。また、研究によりハウプトマンはフランソワ・トゥレティーニのフランス語抄訳『平家物語：12世紀の日本の歴史物語』を元に脚色を加え「3幕の詩作」を書いたことをつきとめた。オペラ《聖女》は『平家物語』の根底にある栄枯盛衰の概念をキリスト教的に解釈した作品であることを明らかにした。
7 日本詩歌のドイツ語訳とジャポニスムの歌曲—グレーテ・フォン・ツィーリッツ《日本の歌》(1919)	単	令和6年6月	音楽表現学会第22回 (バッカスの宴)大会 (山梨大学)	パウル・エンダリンクの『日本の小説と詩』(1905)に掲載された翻訳詩に想像力を得て作曲されたグレーテ・フォン・ツィーリッツの《日本の歌》(全10曲)を取り上げ、和歌と歌曲との関連性について考察を行った。先行研究ではツィーリッツの作曲技法の特徴として、一曲ごとに手法を変え、自由な調性、不協和音、半音列、四分音符を用いた簡素な構造など様々な技法を用いたことが指摘されているが、初期の代表作《日本の歌》に、すでにその傾向があらわれていることを解明した。
8 19世紀末から20世紀初期のドイツ・オーストリアにおける音楽のジャポニスム	単	令和6年11月	日欧学フォーラム2024 (神戸学生青年センタ)	音楽のジャポニスムは「日本音楽・日本文学からヒントを得て、作曲のさまざまなレベルにおいて、新しい聴覚表現を追求したもの」と言える。本発表では、ドイツ・オーストリアにおける音楽のジャポニスムが初期段階ではお雇い外国人教師を仲介としていたことに焦点をあて、1880年代から1900年代のドイツ・オーストリアの音楽作品から、日本の旋律と詩歌に関連する楽曲を取り上げ、音楽のジャポニスムとして西洋音楽史に位置付けた。
9 歌舞伎「寺子屋」に基づく2つ	単	令和6年11月	日本音楽学会 第75回全国大会	カール・オルフとフェリックス・ワインガルトナーは、1910年代に歌舞

のオペラ —C.オルフ《犠牲》(1913)とF.ワインガルトナー《村の学校》(1919)			(静岡文化芸術大学)	伎「寺子屋」に基づくオペラを作曲している。2つのオペラの土台となったのはカール・フロレンツの歌舞伎底本の翻訳『寺子屋と朝顔』(1900)である。「寺子屋」はかつての主君への忠義のために我が子を犠牲にする物語で、オルフとワインガルトナーは自ら台本も手掛けている。音楽的手法は異なるが、2つのオペラに共通するのは日本人の精神性への関心と理解であることを明らかにした。
10 和歌の翻訳から生まれたドイツ歌曲 —フェリックス・ワインガルトナー《日本の細密画》(1930) —	単	令和7年6月	音楽表現学会第23回(社の都一楽興の時)大会(宮城教育大学)	フェリックス・ワインガルトナーの《日本の細密画》(1930)を中心に、彼の《日本の歌》(1908)と比較しながら、元の和歌がどのように翻訳され楽曲に反映されたのかを考察した。《日本の細密画》はハンス・ベートゲの和歌の翻訳を歌詞としている。ベートゲは言葉を付け加えて詩の主人公の心情を強く表現しており、ワインガルトナーはオペラ的ともいえるドラマ性を持って全11曲を作曲していることが明らかとなった。ワインガルトナーは《日本の歌》では日本を表現するために独自の音階を考案して作曲していたが、《日本の細密画》は西洋の近代和声で作曲されており作曲技法に変化が認められる。
11 和歌・俳句と音楽の出会い —レクチャーコンサート実践に基づくフランス・ドイツ語圏のジャポニスム考察—	共	令和7年6月	第74回愛知音楽研究会(名古屋市東生涯学習センター)	和歌や俳句を題材とした西洋歌曲の受容と創造的展開について、演奏実践を通して検証したレクチャーコンサート「音楽のジャポニスム—和歌と俳句の美の調べ—」(2025年3月23日、愛知県立芸術劇場小ホール)を事例として、その企画構成および選曲意図を報告し、あわせて来場者アンケート(回答49名来場者180名)の分析結果を踏まえて考察した。釘宮貴子、白石朝子
その他の研究活動 ①レクチャーコンサート 1 明治音楽会～西洋音楽がやってきた!～	共	令和4年4月	J.S.バッハ文化センター	明治期の西洋音楽移入と西洋音楽教育の発展について解説し、明治期の西洋音楽による演奏会の再現演奏を行った。 ○釘宮貴子、井上ゆかり、戸邊祐子、森基之、栗田美佐、釘宮冴月、新田恭子

2 明治音楽会～ 続・西洋音楽が やってきた！～	共	令和4年9月	藍住町総合文化ホー ル大ホール	令和4年4月のレクチャーコンサ ートの続編として、東京音楽学校にお ける西洋音楽教育の発展について解 説し、当時の演奏会プログラムの再 現演奏を行った。 ○釘宮貴子、井上ゆかり、戸邊祐子、 森基之、栗田美佐、釘宮冴月、田中 潤、新田恭子、木田寿味、上川忠昭、 野村侑加、松本由里子
3 19世紀末から 20世紀初期の西洋 に響いた日本の音 楽	共	令和5年3月	文化の森総合公園21 世紀館	19世紀末から20世紀にかけて日本の 文化や音楽がどのように西洋に伝え られたかについて解説し、当時西洋 で演奏されていた日本に関連する楽 曲の演奏を行った。 ○釘宮貴子、遠藤綾子、鈴江早都子
4 響き合う日本 と西洋	共	令和6年5月	文化の森総合公園21 世紀館	和歌のドイツ語訳を歌詞とした歌曲 集、明治から大正期に西洋で学んだ 日本人作曲家の歌曲集、西洋のオペ ラに描かれた日本女性という3つの 視点から西洋における音楽のジャポ ニズムを考察し、該当曲の演奏を 行った。 ○釘宮貴子、井上ゆかり、釘宮冴月
5 和歌の翻訳か ら生まれたドイツ 歌曲	共	令和6年8月	名古屋市立大学音響 デザイン室	ウィルヘルム・キーンツル《4つの 日本の歌》(1895)とフェリックス・ ワインガルトナー《日本の歌》 (1908)を中心に和歌の翻訳を歌詞 としたドイツ歌曲の流れを考察し、 演奏で裏付けた。 ○釘宮貴子、井上ゆかり、釘宮冴月
6 音楽のジャポ ニズム ―和歌と 俳句の美の調べ	共	令和7年3月	愛知県芸術劇場小 ホール	19世紀後半から20世紀にかけてヨー ロッパに起こったジャポニズムをド イツ・オーストリア音楽とフランス 音楽の視点から捉え、研究成果を発 表するとともに、演奏で研究成果を 裏付けた。愛知淑徳大学の白石朝子 氏がフランス音楽の視点から、釘宮 がドイツ・オーストリア音楽の視点 から発表と演奏を行った。和歌の翻 訳はフランス語とドイツ語で手法に 差異が認められ、その差異が歌曲の 書法に反映されていることが明らか となった。 ○釘宮貴子、○白石朝子、相可佐代 子、本田美香、東原由貴
7 ドイツ歌曲と 日本	共	令和7年5月	文化の森総合公園21 世紀館	18世紀以降のドイツ歌曲の大きな潮 流の中に日本に関連する歌曲が存在

8 歌は世界をめぐる ―西洋から日本へ、日本から西洋へ	共	令和7年8月	徳島文理大学5号館 オーケストラ室	している。これまであまり知られることのなかったジャポニズムの歌曲をドイツ歌曲史の中に位置づけることを目的として研究発表と研究演奏を行った。シューベルト、シューマン、R.シュトラウス、マーラー、ヴォルフ、シェーンベルク、ウェーベルンのドイツ歌曲を作曲年代順に取り上げ、その中にR.ペテルカ、山田耕筰、J.マルクス、F.ワインガルトナーのジャポニズムのドイツ歌曲を組み込み各曲の特徴を考察した。ロマン派から近代へ西洋音楽の作曲技法が変遷する過程の中に、ジャポニズムの歌曲も新しいジャンルとして確かに存在していることを明示することができた。 ○釘宮貴子、井上ゆかり、釘宮冴月
9 オペラ・オペレッタに描かれた芸者 ―19世紀末から20世紀初期のウィーンにおける上演	共	令和7年9月	名古屋市中村文化小 劇場ホール	短期大学部主催の地域貢献プログラム「コミュニティ・カレッジ講座」の第1回として、よく知られた愛唱歌の意外なルーツと、西洋のオペラ・オペレッタに表現された日本についてレクチャーコンサートを行った。前半では明治時代に西洋音楽が移入され、どのように西洋音楽が普及していったのかを概説し、愛唱歌〈むすんでひらいて〉や〈ちょうちょう〉のルーツとなった外国曲を紹介した。後半では19世紀末のオペレッタ《ミカド》と20世紀初期のオペラ《蝶々夫人》に表現された日本人の姿を検証した。解説と演奏により世界をめぐった歌を実例をあげてわかりやすく紹介した。 ○釘宮貴子、山本綾子 愛知音楽研究会創立10周年記念レクチャーコンサート&シンポジウム「日本と音楽」に登壇し、レクチャーコンサートを行った。19世紀末から20世紀初期のウィーンで上演されたジャポニズムの音楽劇において主人公の芸者がどのように描かれたのかを検証した。オペレッタ《芸者》、オペレッタ《3人娘》オペレッタ《ユシは踊る》では、芸者は美しく歌や踊りに秀でた存在として描かれ、悲劇的結末が訪れることはない。しかしオペラ《蝶々夫人》では元芸者の主人公は武士の娘としての誇りを守るため自害する。これら4つの音楽劇の芸者のアリアに表現された内容の考察と演奏により描かれた芸者の

10 響きあう日本とヨーロッパ—和歌がつなぐ音楽の世界	共	令和8年3月	愛知県芸術劇場小ホール	悲哀が鮮明に浮かび上がった。 ○釘宮貴子、濱野織 昨年3月に開催したレクチャーコンサート「音楽のジャポニスム—和歌と俳句の美の調べ」の第2回として、19世紀後半から20世紀にかけてヨーロッパに起こったジャポニスムをドイツ・オーストリア音楽とフランス音楽の視点から捉え、研究成果を発表するとともに、演奏で研究成果を裏付けた。今回は最初と最後に日本人作曲家による和歌歌曲を配し、作曲年代順に日本、ドイツ・オーストリア、フランスの和歌に基づく歌曲について考察した。日本人作曲家は和歌の心を十分にとらえた歌曲を作曲している。一方、ドイツ語とフランス語に翻訳された和歌は、元の和歌とニュアンスが微妙に異なる部分もあるが、それぞれの作曲家の語法で魅力ある近代歌曲に生まれ変わっており、好評であった。 ○釘宮貴子、○白石朝子、相可佐代子、本田美香、釘宮冴月
②演奏活動 1 Summer Concert	共	令和3年8月	ギャラリー花杏豆	声楽、ヴィオラ、ピアノの三重奏：シューベルト「岩の上の羊飼ひ」声楽、ヴァイオリン、ヴィオラ、ピアノの四重奏：シューベルト「鱒」ピアノ伴奏：シューマン「アダージョとアレグロ」Op.70、スカルラッティ「堇」、別宮貞雄「さくら横丁」、成田為三「浜辺の歌」、大中寅二「椰子の実」、山田耕作「あわて床屋」 ピアノ：釘宮貴子、ヴァイオリン：猪子奈津子、ヴィオラ：市川沙紀、ソプラノ：釘宮冴月
2 四国二期会オータムコンサート2021	共	令和3年9月	徳島市さくらホール	ピアノ伴奏：武満徹「小さな空」「翼」、カッチーニ「アヴェ・マリア」、ヘンデル「私を泣かせてください」、スカルラッティ「陽はすでにガンジス川から」、ストラデッラ「もし幸せの中に」、トスティ「夢」「そうなってほしい!」、ロッシーニ「アヴェ・マリア」、グノー『ファウスト』より「宝石のうた」 ソプラノ：疋田弘子、市川千恵
3 ソプラノリサ	共	令和3年12月	名古屋市メニコン	ピアノ伴奏：ヘンデル「私を泣かせ

イタル			A N N E X / HITOMIホール	てください」、ドナウディ「どうか吹いておくれ」、ロッシーニ「フィレンツェの花売り娘」、J.S.バッハ「あなたがそばにいてくだされば」、シュトラウス「セレナーデ」Op.17-2、ニュートン「アメージング・グレイス」、ヘッド「私を外へと誘った甘美な偶然」、クイルター「愛の哲学」、グノー『ファウスト』より「宝石の歌」 ソプラノ：釘宮冴月
4 歌とピアノのコンサート	共	令和4年2月	認定こども園「さら」	ピアノ伴奏：本居長世「七つの子」、山田耕筰「赤とんぼ」、岡野貞一「故郷」、弘田龍太郎「靴が鳴る」、芥川也寸志「小鳥のうた」、團伊玖磨「おつかい蟻さん」「ぞうさん」、中田喜直「めだかの学校」、梁田貞「どんぐりころころ」、大中恩「犬のおまわりさん」、納所弁次郎「兎と亀」、越部信義「おもちゃのチャチャチャ」、飯沼信義編曲「夕やけこやけ」、デンツァ「フニクリフニクラ」 ソプラノ：井上ゆかり
5 ソプラノリサイタル	共	令和4年3月	徳島市アスティとくしまときわホール	ピアノ伴奏：ヘンデル「私を泣かせてください」、ロッシーニ「約束」「誘い」「アルプスの羊飼いの娘」「フィレンツェの花売り娘」、ヘッド「私を外へと誘った甘美な偶然」、クイルター「愛の哲学」「今、深紅の花びらは眠り」、シューマン『ミルテの花』より「献呈」「くるみの木」「ズライカの歌」、ベッリーニ『カプレーティ家とモンテッキ家』より「ああ、幾たびか」、ベッリーニ『イル・トロヴァトーレ』より「穏やかな夜」 ソプラノ：釘宮冴月
6 サウンドハウスホールコンサート	共	令和4年7月	小松島市サウンドハウスホール	ピアノ連弾：スメタナ「モルダウ」、ビゼー「カルメン」 ピアノ伴奏：カッチーニ「アヴェ・マリア」、ドヴォルジャーク「我が母の教え給いし歌」、小林秀雄「落葉松」、滝廉太郎「花」、中田喜直「夏の思い出」 ソプラノ：井上ゆかり、アルト：戸邊祐子、ピアノ：栗田美佐、サクソ：新田恭子
7 ことのはロビーコンサート		令和5年7月	徳島県立文学書道館	ピアノ伴奏：トスティ「夢」、ドナウディ「ああ愛する人の」、モーツァ

8 ミュージアム コンサート	共	令和5年5月	相生森林美術館	ルト『フィガロの結婚』より「恋とはどんなものかしら」、ロッシーニ「誘い」「踊り」「フィレンツェの花売り娘」、成田為三「浜辺の歌」、中田喜直「夏の思い出」、大中寅二「椰子の実」、キルター「愛の哲学」「今、深紅の花びらは眠り」、ガーシュウィン『ボーギーとベス』より「サマータイム」、グノー『ロミオとジュリエット』より「私は夢にいたい」ソプラノ：釘宮冴月 チェロとピアノの二重奏：ショパン「序奏と華麗なポロネーズ」Op.3、カッチーニ「アヴェ・マリア」、ラフマニノフ「ヴォカリーズ」他 チェロ：田上和子、ピアノ：釘宮貴子
9 サウンドハウス コンサート	共	令和5年9月	小松島市サウンドハウスホール	ピアノ三重奏：ショパン「ピアノ三重奏曲 Op.8 第1楽章」、エルガー「愛の挨拶」、サン＝サーンス「白鳥」、ピアソラ「ブエノスアイレスの四季」「リベルタンゴ」 ヴァイオリン：綾野幸恵、チェロ：田上和子、ピアノ：釘宮貴子
10 こまつしま市民人権のつどい コンサート	共	令和5年12月	小松島市サウンドハウスホール	声楽とクラリネットとピアノの三重奏：カリヴォダ「故郷の歌」Op.117、シューベルト「岩の上の羊飼い」、ガーシュウィン『ボーギーとベス』より「サマータイム」、ロジャーズ『サウンド・オブ・ミュージック』より「サウンド・オブ・ミュージック」「ドレミの歌」「ひとりぼっちの羊飼い」「エーデルワイス」 ソプラノ：山本綾子、クラリネット：相原志保、ピアノ：釘宮貴子
11 ミュージック プラスコンサート	共	令和6年5月	アカンサスホール	フルート、クラリネット、ピアノの三重奏：サン＝サーンス「タランテラ」Op.6 フルート：鈴江早都子、クラリネット：相原志保、ピアノ：釘宮貴子
12 クリスマス コンサート	共	令和6年12月	認定こども園「さら」	お話とピアノ三重奏による「モーツァルト物語」、ピアノ三重奏：クリスマスメドレー、チャイコフスキー「花のワルツ」、「あわてんぼうのサンタクロース」 ヴァイオリン：綾野幸恵、チェロ：田上和子、ピアノ：釘宮貴子

13 トリオコンサート	共	令和6年12月	阿南支援学校	ピアノ三重奏：クリスマスメドレー、チャイコフスキー「花のワルツ」、「あわてんぼうのサンタクロース」 ヴァイオリン：綾野幸恵、チェロ：田上和子、ピアノ：釘宮貴子
14 ミュージックプラスコンサート	共	令和7年5月	アカンサスホール	フルート、クラリネット、ピアノの三重奏：M.ウェブスター「カルメン・ラブソディー」（ビゼー「カルメン」の主題による） フルート：鈴江早都子、クラリネット：相原志保、ピアノ：釘宮貴子
15 トリオの楽しみ	共	令和7年9月	相生森林美術館	フルート、クラリネット、ピアノの三重奏：エルガー「愛の挨拶」、モーツァルト「恋とはどんなものかしら」「パパパの二重唱」、サティ「ジュ・トゥ・ヴ」、シュミット「フルート、クラリネット、ピアノのための三重奏曲」、ロジャーズ「ドレミの歌」「ひとりぼっちの羊飼ひ」他 フルート：鈴江早都子、クラリネット：相原志保、ピアノ：釘宮貴子
16 トリオコンサート	共	令和7年12月	阿南支援学校	ピアノ三重奏：シューベルト「アヴェ・マリア」、アンダーソン「シンコペーティド・クロック」、クリスマスメドレー ヴァイオリン：綾野幸恵、チェロ：田上和子、ピアノ：釘宮貴子
17 お話しコンサート	共	令和7年12月	認定こども園「さら」	ピアノ三重奏によるお話しコンサート：サン＝サーンス「動物の謝肉祭」 ヴァイオリン：綾野幸恵、チェロ：田上和子、ピアノ：釘宮貴子
18 避難訓練コンサート	共	令和8年2月	小松島市サウンドハウスホール	歌とピアノのコンサート：弘田龍太郎「春よこい」、湯山昭「二月 春はもう」、中田喜直「こだまでしょうか」「わらい」、山田耕筰「ペチカ」「待ちぼうけ」、「ポストマニ I」、ビショップ「埴生の宿」、伊福部昭「ゴジラのテーマ」「ギリヤーク族の古き吟誦歌 I, IV」、村松崇継「いのちの歌」、千原英樹「寂庵の祈り」 ソプラノ：井上ゆかり、ピアノ：釘宮貴子
19 子どものための話し歌コン	共	令和8年2月	阿南市夢ホール視聴覚室	歌とピアノのコンサート：本居長世／岩河智子「汽車ポッポ」、納所弁

サート				次郎「うさぎとかめ」、作曲不詳「浦島太郎」、山田耕筰「待ちぼうけ」、「ポストマニ」よりⅠ. 綺麗な綺麗なちび鼠、Ⅲ. 今は御殿で女王さま ソプラノ：井上ゆかり、ピアノ：釘宮貴子、ペープサート：西崎ひなた
③解説記事、雑誌記事 1 ドイツ・オーストリアの音楽のジャポニスム	単	令和5年10月	公益財団法人ドイツ語学文学振興会『ひろの』63号	ドイツの音楽家ゲオルク・カペレンが編曲した「君が代」(1904)、ドイツの音楽家グスタフ・グルーベの歌曲「春の予感」(1904)、オーストリアの指揮者・作曲家フェリックス・ワインガルトナーの歌舞伎を題材にしたオペラ「村の学校」(1919)について解説。
2 アルフレッド・ローラーによるオペラ《蝶々夫人》の舞台セットデザイン	単	令和6年3月	『ジャポニスム研究』第43号	1907年10月のオペラ《蝶々夫人》ウィーン公演のために準備されたアルフレッド・ローラーの舞台デザインについて解説。
科研費採択状況 (過去2年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去2年間)	JSPS科研費若手研究24K15934 (令和6～令和8年度) 「1870年代から1930年代のドイツ・オーストリアにおける音楽のジャポニスム」			
特許申請状況 (過去2年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「ソルフェージュⅠ～Ⅳ」(音楽学部1～3年 9名 月曜日2講時) ②後期担当授業科目名等 「ソルフェージュⅠ～Ⅳ」(音楽学部1～3年 8名 月曜日2講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「音楽Ⅰ①」 (保育科1年6名 月曜日1講時) 「音楽Ⅱ②」 (保育科2年6名 火曜日2講時) 「音楽Ⅲ①」 (保育科2年11名木曜日3講時) 「児童文化①」 (保育科1年11名木曜日1講時) 「音楽基礎」 (保育科1年11名金曜日2講時)			

授 業	②後期担当授業科目名 「音楽Ⅰ②」 (保育科1年6名 火曜日1講時) 「音楽Ⅱ①」 (保育科1年11名月曜日3講時) 「音楽Ⅲ②」 (保育科2年11名金曜日3講時) 「児童文化②」 (保育科1年11名木曜日1講時) 「総合科目B」 (保育科2年11名木曜日2講時、3講時) 「保育・教育実践演習」 (保育科2年11名金曜日3講時) 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (6) コマ} \\ \text{後期 (8) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (14) コマ
学生指導	・保育科2年生副担任として、授業や大学生活等について担当学生の面接を行い、よりよい学生生活ができるよう支援した。 ・ピアノ実技指導者として「おとぎの国」、「ペンギンクラブ」のピアノ伴奏や、弾き歌いグレード試験のために授業時間外指導を行った。 ・ピアノ実技初心者のための教材を作成した。
活 動	
学外活動	①学外の委員会等の役職 ・小松島市サウンドハウスホール運営委員長 ②国家試験等の採点委員 ・令和7年度保育士試験 実技試験採点委員 ③学会活動 ・早稲田大学総合研究機構オペラ／音楽劇研究所運営委員 ・ジャポニズム学会理事 ・愛知音楽研究会運営委員
学内活動	①広報活動 ・保育科紹介フライヤー作成 ②学内の委員会 ・短期大学部ホームページ委員 ・徳島音楽コンクール ピアノ部門審査員 ・FD委員 ③学内でのコンサート ・ミュージックプラスコンサート ・ペンギンクラブ絵本コンサート ・ペンギンクラブクリスマスコンサート

氏 名	岡 部 祐 子 （ お か べ ゆ う こ ）			
所属・職の種類	短期大学部保育科 教 授			
最終学歴	日本社会事業大学大学院 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 博士後期課程単位取得後退学（ 教育学修士 鳴門教育大学 ）			
着任の年月	令和 7 年 年 4 月 1 日			
直前の職歴 （学校・企業等）	松山東雲女子大学人文学部心理子ども学科子ども専攻 准教授			
研 究 （業績：過去 5 年間）				
著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 ①哲学的な考えを活かす新・保育原理「1・2歳児の保育を考える」	共著	令和 6 年 2 月	教育情報出版	保育士養成課程における基幹科目のひとつ「保育原理」のテキストである。分担執筆箇所として、1・2歳児の保育の実際について記述した。同時期の子どもを発達学的な観点から分析するとともに、未満児と呼ばれる子どもの能力や可能性について述べた。安心して過ごす為の養護面の配慮や、試行錯誤しながら育つ環境の重要性について記載した。 B 5 版 全173頁 担当：「1・2歳児の保育を考える」pp.119-125 編者：伊藤 潔 共著者：伊藤 潔・五十嵐裕子・岡部祐子他21名
②保育実習指導ⅠⅡⅢ	共著	令和 5 年 4 月	東雲出版	保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのテキストである。主に実習記録の目的や具体的な記載法について、例を提示し図解するなど詳細に記した。 A 4 版 全170頁 担当：「実習記録の書き方と目的について」「時系列の記録の書き方」「エピソード記録の書き方」52-62頁 編者：高橋圭三・岡田恵 共著者：吉村真理子・高橋圭三・児嶋雅典・岡部祐子他 6 名
〔論文〕 査読論文 ①絵本の読み聞かせにおける読み手の有無の影響：乳	共著	令和 6 年 9 月	日本子ども学会誌 チャイルドサイエンス28号	絵本における読み手の存在に着目し、読み手の有無が、聞き手である乳幼児の行動に与える影響について

幼児の「よそ見」行動の分析				検討した。読み手ありと読み手なしの動画を0～5歳児・11名に提示し視聴中のよそ見時間の違いについて動画間で比較した。その結果、読み手あり動画と比較して、読みてなし動画視聴中のよそ見時間が有意に長いことが示され、読み手の存在は、聞き手の絵本の読み聞かせに対する注目を促す役割があることが明らかになった。 掲載頁pp53-58 本人担当部分：設計された実験の実施・記録映像の分析・論文加筆修正・推敲 共著者：鏡原崇史・増本達彦・岡部祐子
②新型コロナウイルス感染症の発生に伴う学内実習の取り組み（保育所実習編）	共著	令和3年3月	札幌国際大学 教師・教育実践研究,第4号	新型コロナウイルス感染拡大に伴い養成校の所在地・札幌市は全国に先駆けて緊急事態宣言が発出され実習先の確保が困難となった。代替えとして、筆者が主担当として授業デザイン・実施計画・教材準備・実践・評価を見通した学内実習を実施した。結果として資格取得を目指す学生全員の実習を終えることができた。これら実践記録を整理するとともに分析・考察をした。 掲載頁：pp61-67 担当：本研究対象の授業計画と実施・報告書執筆 共著者：岡部祐子・高橋由美子・林二士・山内太郎
③新型コロナウイルス感染症の発生に伴う学内実習の取り組み（施設実習編）	共著	令和3年3月	札幌国際大学 教師・教育実践研究,第4号	上②と同様に学内実習（施設）の実践について記した。加えて、施設実習の法的枠組み、指定養成校における保育実習の在り方等についても検討した。 掲載頁：pp68-77 担当：図表作成および資料提供 共著者：山内太郎子・林二士・高橋由美子・岡部祐子
〔発表〕 ①保育者養成校における実習生の指導と励ましと実習に行かない学生のモチベーション向上について	共発	令和7年12月	日本乳幼児教育学会第35回大会 自主シンポジウム	話題提供者として「実効ある実習準備にむけた授業の展開」について発表した。指導案作成の困難についての先行研究を整理したうえで、遊び体験から指導案を書きおこす手法や季節の遊びをウェブ（クモの巣状）

②令和7年度入学の保育学生（4年生大学・短期大学・保育系専門学校）における面接を通じた進路指導	共発	令和7年12月	日本乳幼児教育学会第35回	に可視化する手法の他に、使用教材、模擬保育、個別指導など保育実習指導Ⅱで実践した指導内容を詳報した。 就職支援における実践を紹介し学生を中心とした支援について検討した。その結果、話しやすい雰囲気と関係構築（環境整備）、学生の特性を見極めたマッチング（個の尊重）、保育観・学習観の問い直し（観の転換）、憧れを仕事にする多面的支援（現実化）の重要性が示唆された。 担当部分：勤務校での支援は、着任間もないことから、これまでに関わった就職支援についての事例を紹介した。多様な学生の「今」と「可能性」をみとることで可能となり得る、学生一人ひとりの生涯のWell-beingを最優先する支援について述べた。 共著者：田中 卓也・岡部 祐子・戸田 大樹・山梨 有子
③保育実践充実にむけた包括的支援— 企業主導型施設での予備的調査—	単発	令和7年3月	日本保育者養成教育学会第9回研究大会	同一法人の2つの保育施設を対象に、インタビュー調査及び支援者支援項目を用いた調査を行った。その結果、課題を抱えていると感じるものの多い職場では「ユーモア」の項目が低く働きやすさや保育実践への関連が示唆された。 掲載：PB14
④保育をプロパーとしない教員からみる保育者養成	共著	令和7年3月	日本保育者養成教育学会	指定保育者養成校に勤務する保育を専門としない教員（看護を専門とする）の視点から、保育者養成の教育内容について検討した。その結果、看護師の養成・成長においては、クリニカル・ラダーが機能していることが分かった。 掲載：PA2 担当：研究デザインおよび原稿校正 共発者：熊倉 楓・海津 雅彦・田中 浩之・川村 高弘・岡部 祐子・市野 繁子・田中 路・土井 美紗緒・山本 麻美・田中 卓也
⑤熟達保育者の経験知を活用した保育者育成教材の検討	単発	令和5年5月	日本保育学会第76回大会	科研費研究（基盤研究C19K02607）の成果発表の一つとして行った。保育士・保育教諭（卒後1年）・保育教諭（新任～中堅）らに対して熟達

				保育者の実践と中心概念を映す語りを視聴してもらったところいずれの群も共感性をもって視聴しテキストでは学ばないような対象保育者独自の中心概念に迫る記述が見られた。その一方で、さらなる疑問の項目ではノウハウ的な質問も多くみられ実践知の転移が容易ではないことが示唆された。
⑥ 0、1、2 歳児の「やってみたい」を支える環境構成—育ちの見とりと見通しの往還から—	共発	令和 5 年 5 月	日本保育学会第76回大会	幼保連携型認定こども園の保育者との共同研究である。0 歳児から試行錯誤できる環境を整えること、1 歳児は 2 歳児をモデルとして過ごせる環境と時間配分等が重要であるとして環境構成を行ってきたが、記録から保育者同士の連携がそれらを支えていることが示された。 担当：実践への助言・抄録執筆・校正 共著者：長谷川景子・岡部祐子
⑦ 0 歳児の試行錯誤を見出し育てる記録の検討①	共発	令和 4 年 5 月	日本保育学会第75回大会	円形のカーペットで繰り広げられる遊びや生活を定点的に捉えた。0 歳児が自己発揮しながらあそぶ環境、試行錯誤し探求する様子について記録をもとに環境構成や遊びの援助をした実践記録を報告した。 担当：実践への助言・抄録執筆 共著者：長谷川景子・岡部祐子
⑧ 認定こども園における 0・1 歳児の主体的な遊びを誘う環境構成—教育課程を見通す実践の取り組み—	共発	令和 3 年 5 月	日本保育学会第74回大会	幼稚園から移行したこども園として 5 歳児の育ち・教育課程を見通して 0・1 歳児に必要な経験とは何かを検討した。2 歳児の保育での経験を活かし創造的な保育を 0－1 歳で実践したところ、主体的に過ごす子どもの様子がうかがえた。保育者による実践記録の報告である。 担当：実践への助言・抄録執筆 共著者：長谷川景子・岡部祐子
⑨ 保育者養成における熟達保育者の実践知を適用した学習法の検討—Video Interaction Guidance に向けた試行から—	単発	令和 3 年 5 月	日本保育学会第74回大会	科研費研究（基盤研究C19K02607）の成果発表の一つとして行った。熟達保育者の実践記録映像を学生らに視聴させ感想やメモの記録を分析した。1 回視聴では気づかないことが 2 回視聴で見いだされた。さらに対話や熟達保育者の解説を聞くことで熟達保育者の実践知が一部転移できる可能性が示された。

科研費採択状況 (過去2年間)	該当なし
研究助成金の交付等 (過去2年間)	令和6年度 中・四国保育士養成協議会教職員研究費助成 「Active Learningで展開する保育実習指導Ⅰの授業開発」 増本達彦 鏡原崇史 岡部祐子
特許申請状況 (過去2年間)	該当なし
その他の研究活動	該当なし
教 育	
授 業	〔大学院関係〕 ①前期担当授業科目名等 該当なし ②後期担当授業科目名等 該当なし 〔専攻科関係〕 ①前期担当授業科目名等 該当なし ②後期担当授業科目名等 該当なし 〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「保育原理」(児童1年。30名。火2曜日講時) ②後期担当授業科目名等 該当なし 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「保育原理」(保育1年。11名。火曜日2講時) 「子どもと家庭支援の心理学」(保育2年。1名。金曜日2講時他) *編入生：秋卒業学生対象に開講 「保育内容(言葉)A」(保育1年。11名。水曜日3講時) 「総合科目(ボランティア)」(保育1年。11名。水曜日5講時) 「児童文化①」(保育1年。11名。木曜日1講時) 「文理学」(保育1年。11名。木曜日4・5講時) 「保育実習指導Ⅱ」(保育2年。11名。金曜日3講時) ②後期担当授業科目名 「幼児理解」(保育2年。11名。月曜日3講時) 「子どもと家庭支援の心理学」(保育2年。11名。火曜日1講時) 「児童文化①」(保育1年。11名。木曜日1講時) 「児童文化②」(保育1年。11名。木曜日2講時) 「保育内容(環境)A」(保育1年。11名。木曜日4講時) 「保育・教職実践演習」(保育2年。10名。金曜日3講時)

授 業	〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (7) コマ} \\ \text{後期 (6) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (13) コマ 〔その他の指導状況〕 該当なし 〔大学院等の論文等の指導〕 該当なし
学生指導	〔学習・活動支援（実習を含む）〕 ・前期「児童文化①」では、「おとぎのくに」招待状作りの支援を自主グループに対して授業外に行った。 ・「保育実習指導Ⅱ」では、ほとんどの受講生に対し、指導案作成および実践の予行と準備等について、個別指導を授業外に行った。 ・後期「児童文化①」「児童文化②」では、衣装づくりのパターン作成、技術指導を授業外に行った。 ・後期：「子どもと家庭支援の心理学」では、プレゼンテーション資料の作成の個別指導を授業外に行った。 ・「保育・教職実践演習」では、プレゼンテーション資料の作成への個別指導、模擬実践の予行と準備支援を授業外に行った。 〔相談支援〕 ・学習継続が難しい、保育職への適正、就職先の選定、人間関係での悩み等について個別に相談を行い、休退学の予防や学習意欲の増進、関係調整等を図った。 〔面談〕 ・担任する学生との定期の個別面談および「ミライのわたし」継続審査に係る面談等を行った。
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 該当なし 〔公的機関の活動〕 ①松山市社会福祉審議会委員（令和7年5月まで） ②松山市社会福祉施設整備審査会委員（令和7年5月まで） 〔非常勤〕 該当なし 〔各種講演〕 ①令和7年8月21日「ステップアップ研修」（於・松山東雲女子大学） ②令和8年1月29日「いなほの保育と自分らしさを引き上げる保育」（於・学校法人星置学園 認定こども園星の子幼稚園いなほガーデン） ③令和8年1月30日「ほしおきの保育と自分らしさを引き上げる保育」（於・学校法人星置学園 認定こども園星の子幼稚園ほしおきガーデン） ④令和8年2月28日「保育魅力アップセミナー（気になる子どもと保護者の支援）」（徳島県保育士・保育所支援センター主催 於・徳島文理大学） 〔その他の活動〕 ①令和7年11月26日「令和7年度高校と大学の教育内容接続のための情報交換会」（於・徳島県立総合教育センター）

学外活動	②令和８年１月15日「高校生のための研究シーズ説明会」 「子どもを科学する多角的な視点」 （於・徳島県立城南高等学校）
学内活動	①学科行事「保育セミナー」 プログラムの作成・参加者名簿の作成 ②学科行事「ペンギンクラブ」 参加受付・名簿の作成 保育・子育て支援（遊びのモデル・アドバイス）・学生指導 ③学生募集「委託訓練生募集」 説明資料の校正 説明会への参加 ④高大接続「高校生のための研究シーズ」 学科内取りまとめ

氏 名	島 田 俊 朗 (し ま だ と し ろ う)			
所属・職の種類	短期大学部保育科 准教授			
最終学歴	広島大学大学院教育学研究科博士課程後期 単位取得後退学 (教育学修士)			
着任の年月	平成 5 年 4 月 1 日			
直前の職歴 (学校・企業等)	広島大学教育学部教育学科事務補佐員			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
徳島文理大学短期 大学部におけるボ ランティアパス ポートの取組み について —遠隔授業による ボランティア活動 推進の試み—	共著	2023年 3 月	徳島文理大学研究紀 要	本学ではボランティアパスポート制 度を利用し「総合科目 A (ボラン ティア活動)」として単位認定を行っ てきた。2021年度はコロナの影響で 一部授業を遠隔講義として行った。 アンケート調査によってその成果を 検討し、意義と課題を検討した。
保育者養成課程に おける栽培活動の 実践報告 —「障 害児保育」の授業 における試み—	共著	2024年 3 月	徳島文理大学研究紀 要	保育科 2 年の授業「障害児教育」の 中で行った栽培活動の実践報告であ る。栽培活動を行う課程で学生の気 付きや感想をとして、保育者養成課 程における栽培活動の教育的効果や 意義を検討した。
科研費採択状況 (過去 2 年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去 2 年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「教育原理」(保育 1 年 11 名 水曜日 1 講時) 「保育教育課程論」(保育 2 年 11 名 木曜日 3 講時) 「児童文化①」(保育 1 年 11 名 木曜日 1 講時) 「総合科目 A (ボランティア)」(短期大学部 2 年 水曜日 5 講時)			

授 業	②後期担当授業科目名 「児童文化②」(保育1年 11名 木曜日1・2 講時) 「教師論」(保育1年 11名 木曜日3 講時) 「保育教職実践演習」(保育2年 11名 金曜日3 講時) 〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「教育社会学」(心理3年・音楽学部3年他 77名 月曜日3 講時) 「保育課程論」(児童2年 17名 月曜日1 講時) 「保育者論」(児童2年 16名 水曜日4 講時) ②後期担当授業科目名等 「教育学B (教育と人間)」(総合政策1年 16名 水曜日4 講時) 「教職実践演習(栄養教諭)」(食物栄養学科4年2名第3クォーター火曜日1・2 講時) 「教育社会学」(総合政策他 56名 金曜日2 講時) 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (7) コマ} \\ \text{後期 (6) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (13) コマ
論文等指導	なし
学生指導	保育科2年生主担任を務める。担任の恒例として、年4回定例の面接を行っただけでなく、実習前の面接や、欠席が目立つ学生に対する注意や些細なことでも話を聞き、小さなアドバイスを行った。2年生の担任は例年同様進路に関する相談に応じることが大切な仕事となる。県外に出たいが保護者は歩いて行ける範囲の就職を望んでいる学生や、就職か進学か迷う学生など、それぞれ話を聞き、本人の考えがまとまるようなアドバイスを心がけた。 SNS等を利用したコミュニケーションに慣れている学生が増えてきた。一方で、大学から全体に向けたメールは全く見ないという場合も多い。学生一人一人とのコミュニケーションには実際に顔を合わせた会話が必要だと感じるが多かった。よく言われることだが、便利な道具に頼り過ぎないことを心がけようと思う。
活 動	
学内活動	①入学試験 公募制推薦入試 面接 (高知試験場) ②短期大学部総合型入試検討委員会委員 面接のあり方の検討、入学前教育の検討等を行った。 保育科を希望する高校生についてはほぼすべて面談した。 ③クラブ顧問 ・軽音楽部、陸上部、日本拳法部、人形浄瑠璃部 顧問 ④保育科ホームページ担当 ⑤保育科キャンパスガイド担当 ⑥保育科私立幼稚園フェア担当 ⑦保育科卒業生と在学生との交流会担当

学内活動	⑧新入生セミナー・遍路ウォーク担当 ⑨短期大学部 総合科目A（ボランティア）担当 ⑩徳島県中央テクノスクール施設外職業訓練事業担当 （委託訓練生の毎月の出欠状況報告書作成、事業委託のための資料作成）
------	--

氏 名	山 越 明 (やまこし あきら)			
所属・職の種類	短期大学部保育科 准教授			
最終学歴	徳島大学教育学部養護学校教員養成課程 (教育学士)			
着任の年月	令和 2 年 4 月			
直前の職歴 (学校・企業等)	平成30年度 美馬市立岩倉小学校長 令和 2 年度 徳島文理大学非常勤講師			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
〔論文〕 1. 保育者養成課程における栽培活動の実践報告 ―「障害児保育」の授業における試み―	共著	令和 6 年 3 月	徳島文理大学研究紀要第 107 号	保育科 2 年次履修科目「障害児保育」の授業の一環として取り組んだ栽培活動について、学生の気付きや感想をとおして栽培活動の教育的効果や意義を考察すると共に、保育との繋がりについて言及し報告としてまとめたものである。
科研費採択状況 (過去 2 年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去 2 年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名 「障害児保育①」(児童 3 年41名。月曜 4 講時) 「特別支援教育論」(人間生活、食物栄養、メディア、建築、人間福祉、看護。計42名。木曜日 5 講時) 「特別支援教育論」(児童 2 年21名、児童 4 年 3 名。計24名。水曜日 2 講時) ②後期担当授業科目名 「障害者福祉論」(音楽 4 年。 3 名。火曜日 2 講時) 「障害児保育②」(児童 3 年38名。火曜日 1 講時) 「特別支援教育論」(日本 2 年 3 名、文化財 2 年 5 名、英語 2 年 3 名、ナノ物質 2 年 1 名、機械創造 2 年 3 名、計15名。月曜日 5 講時) 「特別支援教育論」(心理 2 年23名、音楽 2 年 3 名、計27名。金曜日 1 講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名			

授 業	「障害児保育Ⅰ」（保育２年11名。木曜日２講時） 「特別支援教育論」（保育１年11名。水曜日２講時） 「教育相談（カウンセリングを含む）」（保育２年11名。月曜日１講時） 「児童文化①」（保育１年。11名。木曜日１講時） 「総合科目A（ボランティア）」（保育１年11名。水曜日５講時） 「文理学」（保育１年11名。木曜日４講時） ②後期担当授業科目名 「障害児保育Ⅱ」（保育２年11名。木曜日４講時） 「特別支援教育論」（短大音楽２名、短大食物２名、短大生活１名、留学生２名。 計７名。金曜日１講時） 「児童文化②」（保育１年。11名。木曜日１講時） 「保育教職実践演習（幼）」（保育２年。10名。金曜日３講時） 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期（ 8 ）コマ} \\ \text{後期（ 7 ）コマ} \end{array} \right\}$ 計（ 15 ）コマ 〔その他の指導状況〕 ・徳島キャンパスにおける介護等体験実習（小学校・中学校教諭免許取得希望者47名）においては、特別支援学校に関しては、事前訪問打合せ、事前指導で伝達講習。実習初日の引率を実施し、実習日誌の記載により評価を行った。社会福祉施設に関しては、事前訪問打合せ、事前指導で伝達講習を行い、実習先訪問は各学生の所属学部教員が担い、評価は実習日誌により行った。 ・香川キャンパスにおける介護等体験実習（15名）では、集中講義により事前指導を行った。評価は実習日誌の記載内容等で行った。 ・教員採用試験に係る講座（特別支援教育）及び面接指導を行った。 ・音楽学部音楽療法コースの学生の卒業研究への支援として、障害のある児童への関わりや自閉症児の行動に関して理解の仕方や関わり方について助言を行った。
学生指導	【保育科教員として】 ・保育科１年副担任として、学生の各種悩み事に対して相談を行った。 【特別支援教育担当として】 ・学部生、短大生併せて約10名の学生に対して、実習やバイト先等における特性のある人に対する理解や支援の仕方について、個別相談を行った（計20回程度）。 ・学部生３名、短大生１名の心理的に不安定な学生の悩み事相談に関して、心理的不安の軽減に係るサポート活動を継続的に行った（計30回程度）。 ・その他、特性のあると思われる友人に対しての関わりについての相談を適宜行った。 ・児童学科４年１名の児童発達支援施設への就職の橋渡しを行った。
活 動	
学外活動	〔公的機関の活動〕 ①徳島市障害児保育指導委員会委員（徳島市子ども保育課）：２回 ②鳴門教育大学附属幼稚園関係者評価委員（鳴門教育大学）：４回 ③美馬市民生委員児童委員（美馬市生活福祉課）：８回 ④「子供の力・育み・プロジェクト」保育所等巡回相談員（県社協主催）：２回 ⑤愛育会評議員（社会福祉法人愛育会）：２回 ⑥徳島市医療的ケア運営協議会委員（徳島市子ども保育課）：１回 ⑦社会福祉法人アンドーラ関係者（第三者）評価委員：１回 ⑧徳島県発達障がい者地域支援マネージャー（徳島県発達障がい者総合支援センター）：10回 ⑨「職」の魅力向上人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業協議会委員（鳴門教育大学）：２回

学外活動	⑩徳島市巡回相談員（徳島市教育委員会）：3回 ⑪美馬市福祉行動計画策定委員会委員（美馬市社会福祉協議会）：5回 ⑫美馬市子ども子育て会議会長（美馬市健康福祉部）：4回 〔非常勤〕 ①徳島大学総合科学部非常勤講師。担当科目「特別支援教育概論」 （集中講義として夏期休業期間に遠隔授業で実施。全15回） 〔全出講回数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期（ 15 ）コマ} \\ \text{後期（ ）コマ} \end{array} \right\}$ 計（ 15 ）コマ 〔機関紙への寄稿〕 『私保連とくしま』第44号、第45号 〔講演・研修会講師〕 ①6月10日「子どもの成長に大切なこと」（池田第一保育所） ②6月14日「行動分析～強化と罰」（加茂南小学校） ③6月24日「発達障がいへの特性理解」（美馬市民生委員児童委員研修） ④7月4日「ABC分析～気になる子どもへの対応」（わかば認定こども園） ⑤8月4日「気になる子どもの行動理解と支援」（県教委幼稚園研修） ⑥8月20日「発達障がい幼児児童生徒への理解と対応～感覚統合の視点から～」 （つるぎ町特別支援連携協議会） ⑦9月10日「気になる子どもへの具体的な支援」（阿波市・吉野川市子ども部会） ⑧10月8日「自閉症児の行動理解と支援」（児童発達支援ワンハート） ⑨10月11日「遊びの変化による経験の違い」（美馬地区退職校長会） ⑩10月29日「気になる子どもの行動理解と対応」（美馬市子ども子育て支援会議） ⑪11月12日「自閉症児の特性と対応」（わかば認定こども園） ⑫12月1日「発達障がい児と自己理解」（徳島県発達障がい者総合支援センター） ⑬12月21日「自分探しの旅をしよう」（徳島県発達障がい者総合支援センター） ⑭1月7日「気になる子どもの行動理解と支援」（岩倉認定こども園） ⑮2月3日「子どもの成長に大切なこと」（美馬認定こども園） ⑯2月19日「強度行動障害への対応」（美馬市・つるぎ町自立支援協議会） 〔気になる子の訪問相談〕 ・幼稚園・保育所・認定こども園：6園（計16回） ・児童発達支援事業所：5事業所（計8回） ・放課後児童クラブ：2事業所（計4回） ・小学校：3校（計3回） ・中学校：1校（計2回） ・障害者支援施設：3事業所（4回） 〔その他の活動〕 ・5月22日 小松島西高等学校勝浦校大学見学『ビジョントレーニング』5名参加 ・7月9日 阿波西高等学校大学見学『感覚統合』4名参加 ・11月6日 ヒューマンキャンパス高等学校高知学習センター進学説明会 『ビジョントレーニング』3名参加 ・11月11日池田高等学校辻校大学見学『ビジョントレーニング』
学内活動	①広報活動 ・オープンキャンパス 保育科の一員として、本年度開催されたすべての短期大学部オープンキャンパスに参加した。模擬授業、補助的役割を行った。 ・テクノスクール委託事業に係るパンフレットを三好・美馬のハローワークに出向

学内活動	き、担当者に説明をすると共に来場者へパンフレット配布を行った。 ②人権教育推進委員会 ・ 9 月 8 日（委員会開催）
-------------	---

氏 名	船 本 孝 子 （ ふなもと たかこ ）			
所属・職の種類	短期大学部保育科 准教授			
最終学歴	鳴門教育大学大学院 学校教育研究科 学校教育専攻 （ 修 士 ）			
着任の年月	令和 4 年 4 月 1 日			
直前の職歴 （学校・企業等）	徳島市立保育所（内町保育所長）			
研 究 （業績：過去 5 年間）				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 「資質・能力を育 む保育内容 領域 人間関係 ―こ どもにとっての人 間関係とは―」	共	令和 5 年 3 月	教育情報出版	「資質・能力を育む保育内容 領域 人間関係―こどもにとっての人間 関係とは―」 保育内容 領域「人間関係」につい て保育の初学者を対象とした教科 書。 ＜執筆担当部分＞ 11章 巻頭 保育者が大切にしたい 領域「人間関係」での援助とは 11章 2 子どもの育ちと保育者の 役割 13章 巻頭 多文化保育から人間関 係をとらえよう 13章 3 異文化に触れる保育の実 際 編著：斎藤崇（淑徳大学） 著：福澤惇也（中国短期大学）、友 澤加代（東京福祉大学）他13名
〔論文〕 「保育内容領域に 求められる授業内 容について ―卒 業生へのアンケート 調査に基づく課 題と改善―」	共	令和 5 年 9 月	徳島文理大学研究紀 要第106号	新課程導入（令和 5 年度入学生よ り）を期に保育科におけるこれま での保育内容領域に関する授業内 容を見直すことを目的に、保育科 卒業生を対象とし領域に関する授 業内容についてアンケート調査を 行った。保育者の立場での必要度 として、領域「人間関係」におい ては、保護者との関係構築や子ど も同士の葛藤場面での関りにつ いて高い必要度を示した。授業内 容や学生の体験や活動の検討・充 実につなげることができた。 本人担当部分：(2)保育内容「人 間関係」（pp.44-45） 共著者：児嶋輝美、石井信子、 下内新吾、森万里子、金子紗枝 子、古本奈奈代

保育学生の「保育における不適切なかかわり」に関する意識について	共	令和6年9月	徳島文理大学研究紀要第108号	保育所等における保育士による子どもへの不適切なかかわりを保育者養成教育の課題でもあると捉え、授業や実習指導に役立てることを目的に、保育者を目指す学生が不適切なかかわりについてどのような意識を持っているかを知るためのアンケート調査を行った。実習経験の有無により不適切と感じる度合いに差が見られたという結果を踏まえ、実習指導や授業改善を図った。 本人担当部分：4. (2)短期大学部における指導について（pp.48） 共著者：児嶋輝美、森万里子、古本奈奈代
〔発表〕 「保育内容領域に求められる授業内容について ―卒業生へのアンケート調査から―」	共	令和5年5月	日本保育学会第76回大会	保育内容領域に求められる授業内容について、卒業生によるアンケート調査により保育者の立場での必要度を明らかにするため授業担当者と共同研究を実施した。 領域「人間関係」においては、保護者との関係構築や子ども同士の葛藤場面での関りについて高い必要度を示し、授業内容や学生の体験や活動の検討・充実につなげることができた。 共著者：児嶋輝美、石井信子、下内新吾、森万里子、金子紗枝子、古本奈奈代
科研費採択状況 （過去2年間）	該当なし			
研究助成金の交付等 （過去2年間）	該当なし			
特許申請状況 （過去2年間）	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「保育の心理学Ⅰ」（児童学科3、4年 42名） ②後期担当授業科目名等 「保育学」（人間生活3年 30名・人間食物4年 4名 人間建築1、4年 7名・科目履修生 1名 月曜日2講時） 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「保育の心理学Ⅰ」（保育2年 11名 月曜日2講時）			

授 業	「保育実習指導Ⅰ①」 (保育1年 11名 火曜日1講時) 「子育て支援」 (保育2年 12名 水曜日3講時) 「事前・事後指導」 (保育2年 11名 水曜日4講時) 「総合科目Aボランティア」 (保育2年 11名 水曜日5講時) 「児童文化①」 (保育1年 11名 木曜日1講時) 「文理学」 (保育2年 11名 木曜日4・5講時) ②後期担当授業科目名 「保育実習指導Ⅰ②」 (保育1年 11名 月曜日4講時) 「保育の心理学Ⅱ」 (保育2年 11名 火曜日3講時) 「保育内容(人間関係)A」 (保育2年 11名 水曜日3講時) 「幼児と人間関係」 (保育1年 11名 水曜日4講時) 「児童文化②」 (保育1年 11名 木曜日1・2講時) 「保育教育実践演習」 (保育2年 11名 金曜日3講時) 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (8) コマ} \\ \text{後期 (7) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (15) コマ 〔その他の指導状況〕 ○令和7年度全学共通教育センター 学習支援アドバイザー 直前面接講座(個人面接) 6月18日5講時、6月26日5講時、7月1日5講時 幼保採用試験レベルアップ講座 2月9日2講時
学生指導	①保育科1年生担任 ○オリエンテーション計画作成及び指導 ○面談・教職履修カルテ・学習ポートフォリオ等への入力への指示・確認を行う。 ○個別対応(学生生活への不安等)が必要な学生への対応 ②実習関係 ○実習前の準備の確認…抗体検査や細菌検査等の結果を確実に受検し実習初日に実習先に提出できるよう確認。学生が見た目の印象で不利益を受けないよう身だしなみのチェックや実習期間中の生活態度についての直前指導。 ○実習中の訪問指導・実習中断者や体調不良等欠勤対応…実習の継続や中止についての対応。実習を中断した学生に対する、実習再開時の体調確認・学生の実習に対するモチベーションの維持等。 ○実習準備や実習中の態度等が懸念される学生への対応…学生への指導及び実習先への対応。 ○実習後の対応…実習終了後、実習日誌の提出や受け取り・お礼状の送付等についての連絡・指示及び学生からの質問への対応。 ③子育て支援イベント「ペンギンクラブ」 今年度8回実施。イベントに参加した親子への配慮や関わり方、イベントでの表現や製作物の準備や作り方について学生が主体となって担当できるよう指導を行い、学生の実践力の向上を図った。 ④おとぎのくに ブラックシアターでは、少人数の学生による活動であったため学生の心身の負担感を軽減するため、製作や当日の上演の補助を行った。全体に対しては、準備中の学生を労い、自信をもって上演できるよう承認の声掛け等行う。 ⑤就職活動 就職支援部や保育士保育所相談センター(徳島県社会福祉協議会)と連携し、キャリアコンサルタントによる相談を必要な学生が利用できるよう体制を整えた。

学生指導	・「保育学生就職何でも相談室」の実施 10月31日（金）、12月19日（金） エントリーシートや履歴書での適切な文章表現等の助言指導、面接での想定質問や回答例、模擬面接等を希望する学生に行った。
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 日本保育学会会員 〔公的機関の活動〕 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 徳島県保育士・保育所支援センター 保育アドバイザー委託 5月16日（金）さくら認定こども園（石井町） 9月13日（土）大泉保育園（池田町） 〔各種講演〕 ①徳島市立児童館ブロック研修 6月23日（月）「子どもと保護者の心に寄り添う支援とは」 （於・昭和コミュニティーセンター） ②阿波市保育事業協議会保育・教育内容（2、3歳児）研修会 8月20日（水）「2、3歳児の心の育ちと保育者のかかわり」 （於・久勝かもめこども園） 〔その他の活動〕 ①保育・教育分野FDプログラムの開発に向けた取組 SPODフォーラムWS試行会 5月22日（木）今治明德短期大学 SPODフォーラム2025参加 8月28日（木）徳島大学 ②徳島市立丈六保育所在宅育児家庭相談室ボランティアスタッフ派遣 及び子育て支援講座 日時：10月8日/22日（水）、12月10日（水）、1月14日（水） 保育科1・2年生を引率
学内活動	①実習連絡協議会（保育所・施設）・保育所実習後意見交換会の開催 保育所実習連絡協議会 6月9日（月）アカンサススタジオ・ZOOM 保育所実習後意見交換会 9月17日（水）25号館4階スタジオ型会議室・ZOOM 施設実習連絡協議会 12月8日（月）アカンサススタジオ・ZOOM ②保育所実習事前指導（児童学科との顔合わせ）・令和7年度実習依頼説明会の開催 保育所実習事前指導（顔合わせ） 5月30日（金）9303教室 令和7年度実習依頼説明会 6月27日（金）9303教室 施設実習事前指導（顔合わせ） 12月15日（月）9701教室 ③ハラスメント防止委員会 短期大学部のハラスメント防止委員会の相談員 「ハラスメント防止委員・相談員合同研修会」（8月5日開催） ④全学教職課程委員会 短期大学部委員 「令和7年度 全学教職課程委員会」（12月18日開催） ⑤短大オープンキャンパス運営委員並びに各オープンキャンパスでの担当 模擬授業担当：3/20

学内活動	学科説明・入試説明担当：4/27、5/21（WEB）、7/26 ⑥入試関連 ・ミライのわたし、総合型選抜入試 面接 9月14日（日）、10月4日（土） ・総合型選抜入試Ⅳ期面接 12月13日（土） ・一般入試監督 2月2日（月） ⑦短期大学部 新任教員研究報告会参加 9月9日（火）14：00～ ⑧研究授業への参加 ・幼児と健康 7月4日（金）4講時 ・幼児と環境 1月22日（木）4講時 ⑨保育士資格取得手続き説明及び教員免許申請に係る学生への事前説明
-------------	---

氏 名	下 内 新 吾 (しもうち しんご)			
所属・職の種類	短期大学部保育科 准教授			
最終学歴	徳島大学教育学部中学校教員養成課程（美術）（ 教育学士 ）			
着任の年月	平成31年 4 月 1 日			
直前の職歴 (学校・企業等)	徳島市大松小学校教諭			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔論文〕 1. 保育内容「領域」に求められる 授業内容の検討 —卒業生へのアンケート調査に基づ く課題と改善—	共	令和 5 年 9 月	徳島文理大学研究紀 要第106号	領域に関する授業内容を見直し改善 を図ることを目的として、卒業生に 対するアンケート調査を行ったもの である。結果をもとに、造形表現に 関する授業の改善点について述べた。 ＜共同研究者＞ 児嶋輝美、石井信子、下内新吾、船 本孝子、森万里子（徳島文理大学短 期大学部）、金子紗枝子、古本奈奈 代（徳島文理大学）
〔発表〕 1. 保育内容「領域」に求められる 授業内容の検討 —卒業生へのアンケートから—	共	令和 5 年 5 月	日本保育学会第76回 大会	領域に関する授業内容を見直し改善 を図ることを目的として、卒業生に 対するアンケート調査の結果、保育 者としての経験年数や担当クラスの 年齢によって必要と感じる技術や知 識が異なることが明らかになった。 ＜共同研究者＞ 児嶋輝美、石井信子、下内新吾、船 本孝子、森万里子（徳島文理大学短 期大学部）、金子紗枝子、古本奈奈 代（徳島文理大学人間生活学部）
科研費採択状況 (過去 2 年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去 2 年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			

教 育	
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名 「美術A」(保福1年3名、口腔1年7名。月曜日4講時) 「美術A」(理学1年51名。火曜日1講時) 「美術A」(看護1年53名。金曜日1講時) 「美術A」(生活1年9名、2年1名、3年8名、4年1名、食物1年22名。金曜日2講時) ②後期担当授業科目名 「美術A」(児童1年11名。月曜日3講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「保育内容(表現)C」(保育2年12名。月曜日3講時) 「図画工作1」(保育1年11名。火曜日3講時) 「児童文化1」(保育1年11名。木曜日1講時) ②後期担当授業科目名 「図画工作2」(保育1年11名。火曜日3講時) 「児童文化2」(保育1年11名。木曜日1講時) 「保育・教職実践演習(幼)」(保育2年10名。金曜日3講時) 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (7) コマ} \\ \text{後期 (4) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (11) コマ 〔その他の指導状況〕 〔大学院等の論文等の指導〕
学生指導	①副担任としての面接 保育科1年3名(5月)、3名(9月) ②教育・保育実習先での訪問指導 保育科1年3名(8月)、4名(2月) ③個人相談への特別指導
活 動	
学外活動	① 徳島文理小学校「預かり教室 夏休み特別教室」講師(8月25日) ② 徳島文理大学附属幼稚園「特設保育」講師(4月23日～3月11日 計30回) 〔全出講回数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (15) 回} \\ \text{後期 (15) 回} \end{array} \right\}$ 計 (30) 回
学内活動	学生指導・支援協議会委員 自衛消防隊員 短期大学部総合型選抜入試運営委員

氏 名	木 内 聖 (きうち あきら)			
所属・職の種類	短期大学部保育科 講師			
最終学歴	国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科博士課程単位取得後退学修士（体育科学）			
着任の年月	2024年 4 月			
直前の職歴 （学校・企業等）	国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科博士課程 サレジオ工業高等専門学校一般教育科体育非常勤講師（体育実技）担当			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 〔論文〕 ①歩行速度の違い による足部内側縦 アーチおよび足底 荷重の変化	共著	令和 6 年 3 月	国士舘大学体育研究 所報2024 第42号 掲 載頁：pp33-39	速度増加に伴う立脚期中の足底圧力 中心速度および足底荷重分布の変化 を明らかにすることを目的とした。 参加者は男子体育専攻学生 8 名とし た。試技は裸足での歩行とし、設定 速度0.8、1.2、1.7m/sの 3 条件で行 った。足底圧分析機を用いて立脚期 中の足底荷重と圧力中心座標を取得 した。足底荷重は、足部解剖学的計 測点に基づいて足底を 5 部位に分割 した。立脚期は、足底圧分析機のセ ンサー感知に基づいて 4 つのタイミ ングと 3 つのフェイズに分けた。歩 行速度増加に伴いFoot flat phaseで 圧力中心速度の増加、Forefoot push off phaseで前足部内側の足底荷重 が増加した。これは、後足部の離地 が速度増加に伴い早まることで、圧 力中心が後足部から前足部へ素早く 移動し、前足部内側の足底荷重を増 加させることで歩行速度を高めてい ると考えられる。 掲載頁：pp.33-39 本人担当部分：全般にわたり共著者 と共同した 共著者：木内聖、平野智也、古田な つみ、尹鉉喆、船渡和男
②女子大学空手選 手の床反力および 動作分析からみた 突き技の反応時間 に関する研究	共著	令和 6 年 3 月	国士舘大学 体育・ ス ポー ツ 科学 研 究 2024 第24号 掲載頁：pp19-25	本研究の目的は、空手組手における 運動学・運動力学に基づき、空手選 手の対人反応時間を明らかにするこ とである。また、国際選手、大学選 手、型選手の反応時間を比較し、国

—組手国際レベル選手に着目して—				際レベルの選手の特徴を検討した。本研究には、女子大学生空手選手13名（組手国際レベル：n=2、組手大学レベル：n=6、型：n=5）が参加した。14台のモーションキャプチャカメラと3台のフォースプレートを用いて、LED光刺激と相手の動きに対する刻み突きと逆突き動作を記録した。運動学・運動力学解析の結果、LED光刺激に対する反応時間には、レベル間で差は見られなかった。しかし、国際レベルの組手選手は、相手の動きに対する反応時間が短い傾向があった。結論として、これらの結果は、組手の国際レベルの選手は、相手の動きを予測し、推定する能力に優れていることを示唆している。 掲載頁：pp19-25 本人担当部分：データ分析、作図、考察およびまとめ 共著者：亀山歩、田中理沙、木内聖、王善賜、平野智也、古田なつみ、尹鉉喆、藤戸靖則、船渡和男
③バックスクワット運動の負荷の増加に伴い出現するスティッキング領域に関するバイオメカニクス研究	共著	令和6年3月	国士舘大学 体育・スポーツ科学研究 2024 第24号 掲載頁：pp27-36	本研究は、バックスクワット（BS）で発生するスティッキング領域（SR の原因を明らかにすることを目的とした。男子大学生ウェイトリフティング選手6名を対象とした。異なる負荷（0、30、50、70、90、100% 1RM）で1レップを実施し、反動動作なしのBS（0、30、50、70、90% 1RM）を1レップずつ行った。リフティングフェーズにおけるバーベル速度、関節角度、角速度、モーメント、パワーを算出した。SRの同定は、負荷が大きくなるほど顕著になった。BS中のSR期では、足関節底屈角速度とパワー、膝関節伸展角が減少した。一方、膝関節伸展パワーは中間期で減少した。これらの結果から、SRの出現は、BS運動中の膝関節のモーメントおよびパワーの減衰と関連している可能性が示唆された。 掲載頁：pp27-36 本人担当部分：データ分析、作図、考察およびまとめ 共著者：松田柊斗、平野智也、古田なつみ、尹鉉喆、木内聖、藤戸靖則、山本智貴、増本達哉、熊川大介、船渡和男

④ランニング中の足部アーチ変化および足底荷重分布パターンの定量化	共著	令和5年3月	デサントスポーツ科学 44巻 掲載頁：pp.184-191	ランニングにおける足部内側縦アーチの変化および足底荷重を定量化することを目的とした。足底圧分析機、モーションキャプチャシステム、フォースプレートを同期し、足底を解剖学的計測点に基づいて5つに分割した。参加者8名が2.78m/sの速度でランニングを行った。内側縦アーチ角度は第一中足骨遠位端、舟状骨、踵骨側面のなす角度、中足趾節関節角度は、母趾末節骨近位端、第一中足骨遠位端および近位端のなす角度として算出した。足底荷重は、接地とともに後足部および前足部外側の荷重がみられ、蹴り出し時には前足部に荷重がシフトし、内側縦アーチ角度が最大の変化量を示した。その後、中足趾節関節背屈に伴い前方向の地面反力が増加する傾向がみられた。内側縦アーチは、足部接地中、足底荷重を吸収するための柔軟な構造から、蹴り出し時に中足趾節関節を背屈させることで剛性を高め、前足部で蹴り出すことで前方への推進力を生み出していると推察される。 掲載頁：pp.184-191 本人担当部分：全般にわたり共著者と共同した 共著者：木内聖、平野智也、角田直也、船渡和男
⑤大学生女子バレーボール選手のスパイクジャンプとカウタームープメントジャンプにおける地面反力の比較	共著	令和5年3月	国士舘大学 体育研究所報2023 第41号 掲載頁：pp 9-14	本研究は、大学女子バレーボール選手のスパイクジャンプと鉛直跳びにおける地面反力を比較し、スパイクジャンプにおける地面反力の発揮様式を明らかにすることを目的とした。大学女子バレーボール選手7名を対象とし、スパイクジャンプとカウタームープメントジャンプ(CMJ)における身体重心(COM)パラメータと鉛直方向の地面反力を比較した。COMに関するパラメータでは、スパイクジャンプはCMJと比較して、離陸時の最大重心高およびCOM鉛直速度が有意に高い値を示した。また、スパイクジャンプはCMJと比較して、接地時間が有意に短く、鉛直方向の地面反力が有意に高かった。これらの結果から、スパイクジャンプはCMJよりも短い接触時間でより大きな鉛直接地反力を発揮することにより、より高い

⑥女子大学空手選手の逆突きおよび刻み突き動作における反応時間に関する研究 ―床反力及び動作分析からの検討―	共著	令和5年3月	国士舘大学 体育・スポーツ科学研究 2023 第23号 掲載頁：pp23-29	重心高を得たことが示唆された。 掲載頁：pp 9-14 本人担当部分：データ収集、データ分析および作図 共著者：飯田周平、木内聖、尹鉉喆、平野智也、船渡和男 空手の組手における動作分析から、相手選手に対する攻撃選手の反応時間を明らかにすることを目的とした。加えて、国際レベル、大学レベルおよび形選手の反応時間を比較し、国際レベルの選手の特徴を検討する。13名の女子大学手選手（組手国際レベル：n=2、組手大学レベル：n=6、形：n=5）が本研究に参加した。試技は、LED光刺激および相手選手の動作に対して、攻撃者が刻み突きおよび中段逆突きを行った。光学式3次元モーションキャプチャーシステムと地面反力計を用いて各試技の運動学および運動力学データを収集し、各種反応時間を算出した。LED光刺激に対する各種反応時間は3群間で差が示されなかった。一方、相手選手の動作に対する反応時間は組手国際レベルの選手が短い傾向にあった。以上の結果から、組手国際レベルの選手は相手選手の動作を予測・判断する能力に優れていることが示唆された。 掲載頁：pp23-29 本人担当部分：データ分析、作図、考察およびまとめ 共著者：亀山歩、田中理沙、王善賜、古田なつみ、木内聖、尹鉉喆、藤戸靖則、平野智也、船渡和男
〔発表〕 ①Foot medial longitudinal arch deformation and plantar load distribution pattern during running.	—	令和5年8月	29th Congress of International Society of Biomechanics (ISB) and 29th Congress of Japanese Society of Biomechanics (JSB) (Fukuoka)	本研究はランニングにおける足部内側縦アーチの変化および足底荷重を定量化することを目的とした。参加者は、健康な成人男性8名であった（年齢：20.8±3.4歳、身長：174.2±4.7cm、体重：69.9±5.6kg）。参加者は、走路を2.78m/sでランニングした。その結果、足部内側縦アーチは、足部接地中、足底荷重を吸収するための柔軟な構造から、蹴り出し時に中足趾節関節を背屈させることで剛性を高め、前足部で蹴り出すことで前方への推進力を生み出してい

②Changes in medial longitudinal arch and plantar load during walking at different speeds.	—	令和5年7月	28th Annual Congress of the European College of Sport Science (Paris, France)	ると推察される。 共同研究者：木内聖、平野智也、古田なつみ、尹鉉喆、船渡和男 本研究の目的は、異なる速度で歩行する立脚期における内側縦アーチ（MLA）と足底の荷重分布の変化を明らかにすることである。健康な男性8名を対象とした。試技は裸足での歩行とし、設定速度0.8(Slow)、1.2(Normal)、1.7(Fast) m/sの3条件で行った。足底圧分析機を用いて立脚期中の足底荷重と圧力中心座標を取得した。足底荷重は、足部解剖学的計測点に基づいて足底を5部位に分割した。その結果、前足部内側の足底荷重を増加させることと、MLAを硬くすることは、Fastにおけるプッシュオフフェーズで重要な役割を果たす可能性があることが示唆された。 共同研究者：木内聖、平野智也、古田なつみ、尹鉉喆、船渡和男
③歩行速度の違いによる足底圧分布の変化	—	令和4年11月	第28回日本バイオメカニクス学会大会	速度増加に伴う立脚期中の足底圧力中心速度および足底荷重分布の変化を明らかにすることを目的とした。参加者は男子体育専攻学生8名とした。試技は裸足での歩行とし、光電管を用いて設定速度0.8、1.2、1.7m/sの3条件で行った。足底圧分析機を用いて立脚期中の足底荷重および圧力中心の座標を取得した。足底荷重データはモーションキャプチャシステムを用いて100Hzで取得した。足部解剖学的計測点に基づいて足底を5部位に分割し、足底部位ごとの足底荷重量および力積を算出した。立脚期は4つのタイミングと3つのフェイズに分けた。速度増加に伴い、Foot flat phaseで圧力中心速度の増加、Forefoot push off phaseで前足部内側の足底荷重が増加する傾向がみられた。これは、後足部の離地が速度増加に伴い早まることで、圧力中心が後足部から前足部へ素早く移動し、前足部内側の力積を増加させることで歩行速度を高めていると推察した。 共同研究者：木内聖、平野智也、古田なつみ、尹鉉喆、船渡和男

④Relationship between dynamic and static measurements of medial longitudinal arch in elementary school girls	—	令和3年9月	The 2020 Yokohama Sport Conference, 2020, September (Online)	小学校女子児童を対象に、内側縦アーチ (MLA) の静止立位時の3次元形状データおよび歩行中の運動学データを取得した。その結果、静止立位時の舟状骨高が大きい群では、歩行時のMLAの変形が小さく、歩行時のMLA構造がより硬く機能していることが示唆された。 共同研究者：木内聖、平野智也、相馬満利、藤戸靖則、野澤巧、榎屋剛、尹鉉喆、柏木悠、船渡和男
科研費採択状況 (過去2年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去2年間)	令和8年度「特色ある教育・研究」採択 幼児および小学校低学年における多種目運動経験が運動意識に与える影響 —徳島マルチスポーツフェスタの試行と検証— 共同研究者：天羽 博昭 神経系の発達が著しい小学校低学年児童を対象に、複数の競技を1日で体験できる「マルチスポーツフェスタ」を開催する。本試行を通じて、子どもたちが自身の適性に合ったスポーツを選択できる機会を創出し、最終的には徳島県の子どもの運動習慣の定着および運動に対する意識の改善を図ることを目的とする。			
特許申請状況 (過去2年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔大学院関係〕 〔専攻科関係〕 〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「体育科教育法」(児童3A。13名。火曜日1講時) 「体育科教育法」(児童3B。9名。水曜日3講時) ②後期担当授業科目名等 「スポーツ科学理論」 (児童1年。36名。月曜日1講時) 「健康スポーツB」 (理学1A。33名。火曜日1講時) 「健康スポーツB」 (人間生活、人間福祉、口腔各1年。50名。火曜日2講時) 「保育内容(健康)B」(児童4年。31名。木曜日3講時) 「保育内容(健康)A」(児童2年。15名。金曜日1講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「保育内容(健康)A」(保育2年。11名。水曜日5講時) 「児童文化①」(保育1年。11名。木曜日1講時) 「幼児と健康」(保育1年。11名。金曜日4講時)			

授 業	②後期担当授業科目名 「スポーツ科学理論」(音楽、食物、保育、生活、商1年。33名。月曜日1講時) 「児童文化②」(保育1年。11名。木曜日1講時) 「総合科目B」(保育2年。12名。木曜日2講時) 「保育・教職実践演習(幼)」(保育2年。11名。金曜日3講時) 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (5) コマ} \\ \text{後期 (7.5) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (12.5) コマ
学生指導	保育科2年担任 ・定期的に、学生と大学生活の過ごし方や、悩みについて個人面談を行った。面接内容を学生カルテに記入した。 女子サッカー部監督としての指導 ・日頃の練習や遠征への帯同、学生と研究室やグラウンドで面談を行った。チーム運営に関する悩みや、進路の相談など、個別に面談を行った。 入学前ガイダンス運営 ・学生スタッフと打ち合わせを行い、当日のセリフ確認や、新入生への案内方法など指導した。 子育て支援イベント「ペンギンクラブ」 ・イベントの補佐として計8回の運営に携わり、学生への実務指導を担当。親子への接遇や製作物の準備工程において、学生が主体的に動けるよう現場での助言を行い、運営の円滑化と学生の実践力向上を支援した。 おとぎのくに ・ブラックシアターでは、作品の下書きや色塗り、台詞に合わせた実演を行った。その他、運営の補助を行った。
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 〔公的機関の活動〕 〔非常勤〕 〔各種講演〕 〔その他の活動〕 お子様の成長と未来への可能性を広げる「マルチスポーツ」にチャレンジ!! 「徳島文理大学キッズスポーツフェスタ2025 ～マルチスポーツ体験会～」 (12/20実施) (大学スポーツの力で地域の人々を元気にする「マルチスポーツ体験イベント」公募型支援プログラムsupported by 日本郵政) ・本学体育館にて、小学校1～3年生を対象に、サッカー(フットサル)、野球(Tボール)、バスケットボールの複数種目を一日で体験できるマルチスポーツイベントを実施した。未経験の児童も各種競技のトップアスリートの手ほどきを受け、楽しく、安心して各種スポーツを体験した。 「UNIVAS AWARDS 2025-26」において、「大学スポーツプロモート優秀取組賞」の優秀賞を受賞

学内活動	クラブ顧問（女子サッカー部） 2025年度の主な実績 2025年度 四国女子サッカーリーグ第5位 オープンキャンパスにおける学科体験授業 ・7/26のオープンキャンパスにて実施 入学前ガイダンス運営委員会 ・主にコミュニケーションゲームについて担当した
-------------	---

氏 名	堀 口 誠 信 （ ほりぐち まさのぶ ）			
所属・職の種類	短期大学部言語コミュニケーション学科 教授 （ 学科長 ）			
最終学歴	同志社大学大学院文学研究科英文学専攻博士前期課程修了（修士・文学）			
着任の年月	平成10年 4 月			
直前の職歴 （学校・企業等）	和歌山信愛女子短期大学英語学科（新設）専任講師（平成10年 3 月まで）			
研 究 （業績：過去 5 年間）				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 1 『英語でニッ ポン再発見』 ISBN 978- 4 -87571-173- 5	共	令和 4 年 3 月	開文社出版	英語で読む・聴く・話す・書くの四 技能とビジュアルから異文化を理解 する基礎総合英語の教科書。割り箸 や蚊取り線香を英語でどう紹介した ら良いか、などの日本文化の簡単な 説明などの指針となり、異文化理解 の根底にあるものを考えることにつ ながる。 （共同執筆者：Lance Kita）
〔論文〕 1 「Donald Trump 再選を読 み解くキーワード とアメリカ合衆国 の文化的・宗教的 側面」	共	令和 7 年 9 月	『徳島文理大学研究 紀要』、第110号.	第47代Donald Trumpアメリカ大統領 は、第45代の第1次政権時代や、 その前から問題発言が多く数多くの 件で訴訟にもかけられているが、そ のような人物を再び選んだ現在のア メリカがどのような国であるのかを 端的に表現できるキーワードを選 び、それを使いながら現代アメリカ の現状解説を行い、文化的側面と宗 教的側面を考察したもの。 （共同執筆者：Justin Dekker）
2 “ <i>Hillbilly Elegy and Tiger Mother</i> : US National Divide in Terms of Cul-ture”	共	令和 8 年 3 月	『徳島文理大学研究 紀要』、第111号.	アメリカ副大統領であるJames D. Vanceによる自伝的手記『ヒルビ リー・エレジー』と彼の大学院時代 の指導教授であるAmy Chuaが自身 の子育てを記した手記『タイガー・ マザー』を比較し、競争で負けてい るアメリカ主流層・多数派層（前 者）と、アメリカ社会に圧倒的な競 争力で食い込んでいる非主流層・少 数派移民層（後者）の対比からアメ リカの現状を考察したもの。 （共同執筆者：Justin Dekker、堀口 のぞみ）

3 「J. D. Vance 副大統領の理念を読み解くキーワードとアメリカ合衆国における格差と分断の構造」	単	令和8年3月	『徳島文理大学研究紀要』、第111号.	第2次Trump政権で副大統領を務めるJames D. Vanceの、主にキリスト教信仰に由来する複雑な理念を読み解くためのキーワードを整理し、プロテスタント、カトリック、リバタリアン思想、アメリカにおける格差と分断、高学歴でありながら職に就けず不満を抱える人が増加するエリート過剰生産、人工知能の登場によるAI氷河期の到来などの現象を説明したもの。
〔発表〕 1 「より良い英文タイトルのつけかたを考える」	単	令和3年6月	日本ビジネス実務学会第40回全国大会 於：北九州市立大学・Zoom方式	論文や研究発表は日本語であるが、そのタイトルだけは英文にしないといけない場合、誤訳や意味不明の英文が生成される場合が多い。その原因の一つは、コンパクトにまとめるにはいけないタイトル作成において、日本語の枠内では省略表現や複合語表現により充分意味が通っても、英語をはじめ外国語に翻訳する際に「元の日本語タイトルに隠れている暗黙の前提」をわざわざ引っ張り出して訳出しなくては意味が通らなくなる状況が生じるからである。
2 「英文タイトルの落とし穴：『提案』と『影響』には気をつけろ」	単	令和4年6月	日本ビジネス実務学会第41回全国大会 於：愛知東邦大学・Zoom方式	英語では、主語を定めなければ、そもそも文は作成できず、主語＋述語という構造になっている。一方、日本語で主語とされているもののほとんどは「主題」であり、述語とされているものは「説明」という、主題卓越文という構造になっており、主語を抜きにして、細部にわたる説明が可能で、詳細な説明を得意としている。ここに「提案」あるいは「影響」という言葉が含まれる場合、誰が何をする提案か、誰が何に及ぼす影響か、という方向性を、あらかじめ日本語の段階で考えていないと、奇妙な英文が生成される。これをもとに、論文や研究発表の英文タイトルを改善できる例を示した。
3 「関係代名詞の和訳ナニナニする「トコロの」ダレソレはヘンテコに非ず：「トコロ+の」のとらえ方	単	令和6年2月	同志社ことばの会・2023年度年次大会 於：同志社大学今出川キャンパス・寒梅館6F大会議室（対面・遠隔ハイブリッ	日本語では「彼が忠告を与えたのを弟は無視した」のような文構造が可能だが、英語では「彼」を無視したのか、「忠告」を無視したのか、という具合に、関係詞を使って節内部の主要部を先行詞として取り出し、

と教授法的応用」			ド方式)・Zoom方式による発表参加	「～する彼」や「～のような忠告」と、説明を後回しにする形が好まれる。逆に、関係代名詞を含む英文を日本語に翻訳する際、漢文訓読法を応用して関係代名詞部分を「～するところの～」と訳す古風な表現が存在するが、この表現の由来や本質と、使用する場合の意外な利点を解説したもの。
4 「ビジネス環境のグローバル化によって表面化した、アメリカ合衆国内での文化的諸問題」	共	令和7年8月	日本ビジネス実務学会第42回中国・四国ブロック研究会 於：吉備国際大学	アメリカ合衆国で現実に行っている国家的分断という現象を文化的な側面から考察したもの。事例として取り扱うのはJames D. Vance副大統領による自伝的手記『ヒルブリー・エレジー』と、彼の大学院時代の指導教授であるAmy Chuaが自身の子育てを記した手記『タイガー・マザー』である。それら2つの文化圏の相違点・共通点を考えると、多様性・寛容性を否定する傾向にある現在のアメリカは衰退していることがわかる。 (共同発表者：堀口のぞみ)
その他の研究活動	令和6～7年度(過去2年)について述べる 一般雑誌記事・解説記事・招待講演など			
1 『日本ビジネス実務学会会報 No. 81』	共	令和6年9月	日本ビジネス実務学会, pp. 1-16.	日本ビジネス実務学会・広報委員として「会長あいさつ」、「口頭発表概要」部分を担当。
2 『日本ビジネス実務学会会報 No. 82』	共	令和7年3月	日本ビジネス実務学会, pp. 1-7.	日本ビジネス実務学会・広報委員として「ブロック研究会活動報告」部分を担当。
3 『日本ビジネス実務学会会報中国四国ブロック会報 No. 38』	共	令和7年3月	日本ビジネス実務学会, pp. 1-13.	日本ビジネス実務学会・中国四国委員として「総会概要」、「口頭発表概要」部分を構成・編集。
4 『日本ビジネス実務学会会報 No. 83』	共	令和7年9月	日本ビジネス実務学会, pp. 1-16.	日本ビジネス実務学会・広報委員として「口頭発表概要」部分を担当。
5 『日本ビジネス実務学会会報 No. 84』	共	令和8年3月	日本ビジネス実務学会, pp. 1-7.	日本ビジネス実務学会・広報委員として「ブロック研究会活動報告」部分を担当。

6 『日本ビジネス実務学会会報中国四国ブロック会報 No. 39』	共	令和8年3月	日本ビジネス実務学会, pp. 1-13.	日本ビジネス実務学会・中国四国委員として「口頭発表概要」部分を構成・編集。
7 『研究論叢2025』 ISBN 978-4-86645-458-0 (銀河書籍)	共	令和8年3月	日本ビジネス実務学会, pp. 3-4.	研究発表・論文「ビジネス環境のグローバル化によって表面化した、アメリカ合衆国内での文化的諸問題(堀口誠信・堀口のぞみ)の部分」を執筆。

教 育

授 業	〔短大関係〕 令和7年度			
	①前期担当授業科目名 「英語学概論」：言語コミュニケーション2年3人、童学科2年1人。 火曜日3講時。 「英米文化論」：言語コミュニケーション1年4人、児童学科2年1人。 月曜日1講時。 「英語A①」：保育科2年。11人。 木曜日4講時。 「総合英語」：言語コミュニケーション1年3人。 木曜日1講時。 「文理学」：言語コミュニケーション1年5人。 木曜日5限目 「観光論A」：言語コミュニケーション1年5人。 水曜日3、4限目（3限目のみ担当）			
	②後期担当授業科目名 「異文化間コミュニケーション」：言語コミュニケーション2年3人。 火曜日1講時。 「プレゼンテーション演習Ⅱ」：言語コミュニケーション1年5人。 火曜日3講時。 「観光論B」：言語コミュニケーション1年5人。中国人留学生2人。 水曜日3、4限目（3限目のみ担当） 「英語A①」：保育科2年11人。 木曜日1講時。 「総合ゼミナール」：言語コミュニケーション1年5人、中国人留学生2人。 水曜日5限目			
	〔学部関係〕 令和7年度			
	①前期担当授業科目名 「英語A①」：総合政策1年後半。28人。 月曜日3講時。 「英語A①」：総合政策1年前半。24人。 月曜日4講時。 「英語A①」：看護1年前半。33人。 火曜日2講時。 「英語A①」：看護1年後半。36人。 水曜日2講時。			

授 業	「英語A①」：保健福祉1年＋音楽1年＋口腔保健。41人。 水曜日4講時。 「語学センター・英語ステップアップ講座」・1回 3人。 ②後期担当授業科目名 「英語A①」：総合政策1年後半。28人。 月曜日1講時。 「英語A①」：看護1年後半。36人。 月曜日2講時。 「英語A①」：看護1年前半。32人。 水曜日2講時。 「英語A①」：保健福祉1年＋音楽1年＋口腔保健。41人。 水曜日4講時。 「英語A①」：総合政策1年前半。24人。 木曜日2講時。 「語学センター・英語ステップアップ講座」・1回 1人。
授業以外での指導状況	就職面接の指導、面接で英語が必要になる際の、短いやり取りの発音チェック。本学大学院入学試験（英語）のための個人指導（在学生や卒業生）。
論文等指導	心理学科学生の英語関連に関するテーマでのレポート作成で個人指導。
学生指導	単位不足の学生のための特別指導：英語関連科目に関して。 また、英語に限らず、ひろく文章表現に関しての指導。 英語検定試験（面接試験）・TOEICなどの直前特別指導。 オープンキャンパスでの学生による本学短期大学部言語コミュニケーション学科紹介の企画：スライド作成・発表の指導・模擬授業実演・学生指導 特に、言語コミュニケーション学科学生が行うプレゼンにおいて、スライドの内容検討と学生のトレーニングを行う。 1年生に関し、就職ガイダンスでの指導や講演に対する協力。
活 動	
学外活動	〔学会活動〕 日本ビジネス実務学会・理事（令和5年6月から。） 毎年6月の全国大会での理事会（全国大会開催地・今回は目白大学）、 12月の理事会（主に東京・大妻女子大学を会場とするが今回はZoom遠隔）、 次年度3月の理事会（主に東京・大妻女子大学を会場とするが今回はZoom遠隔） に出席。 日本ビジネス実務学会・広報委員（令和5年6月から。） 日本ビジネス実務学会・中国四国ブロック運営委員（令和5年6月から。） 日本ビジネス実務学会・第42回中国四国ブロック研究会 （令和7年8月28日[木]・29[金]・於：岡山市・吉備国際大学・対面式）において、 総会・会計報告とりまとめ・司会を担当する。 また、それに関する事前Zoom会議招集・参加。 併設する第20回学生プレゼンテーションコンテストの手配。

学外活動	日本ビジネス実務学会・第44回全国大会 (令和7年5月31日〔土〕・6月1日〔日〕・於・東京新宿区・目白大学・対面式) において連絡係、会場設営、司会進行などを務める。前日に理事会出席。 〔審査委員関連〕 審査委員候補者 独立行政法人・日本学術振興会・審査委員候補者(令和7年3月に継続更新) 日本ビジネス実務学会の編集委員会からの要請で、論集『ビジネス実務論集』の 英語タイトルの校正。今年は6件。 今回、本学外国人英語教諭・Justin Dekker氏に共同作業を依頼する。 日本比較文化学会の編集委員会からの要請で、論集『比較文化研究』の論文審査。 論文採用・不採用の審査を副査者と共同する。 今年は2件。 〔外部団体からの要請〕 商業英語スピーチコンテストの審査員ならびに演説(於:徳島県教育会館) 本年度は第42回目・令和7年7月6日〔日〕。 TOEIC(TOEIC協会による)学内開催における監督・準備 令和7年8月6日〔水〕 令和8年2月12日〔木〕 徳島県生涯学習情報システム 指導員(指導者番号1919) (徳島県立総合教育センター・生涯学習課) フィンランドの教育・ジョン万次郎の英語など (平成22年より継続) 〔高等学校への出張講義〕 令和8年1月15日〔木〕に城南高等学校に出向(高大連携・教育研究シーズ)。 授業時間は2コマ。タイトルは「英語の絵本を読んでみよう」。 その他、高校生の大学見学体験授業。今年は池田高校辻高校など。
学内活動	〔学内委員会・短大〕 短期大学部言語コミュニケーション学科・学科長 短大認証評価ワーキンググループ 退学者防止対策委員会 〔学内委員会・全学に関わるもの〕 入試出題者。四年制大学ならびに短期大学部。 語学センター雑務 〔行事企画・広報〕 面接:指定校推薦・総合選抜入試など。 オープンキャンパスでの学科紹介・模擬授業 短大キャンパスライフ体験会(入学が決定している高校生に授業) 短大フェスタ(令和7年10月25日〔土〕)学科の企画と参加。 語学研修が困難な学生に対する、SDGsオンライン海外研修の紹介。

学内活動	合理的配慮が必要な学生に対するケアならびに各担当教員への連絡と学生・保護者への連絡。令和7年度は学科内で1年生1名。 留学生のための入学時の科目登録のケアや修了式の協力。 今年是中国留学生後期2名。
-------------	---

氏 名	早 雲 洋 一 (はやくも よういち)			
所属・職の種類	短期大学部 言語コミュニケーション学科 教授			
最終学歴	鳴門教育大学大学院学校教育研究科学校教育専攻修士課程修了 (教育学修士)			
着任の年月	平成21年 4 月 1 日			
直前の職歴 (学校・企業等)	徳島県立城東高等学校長			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 〔論文〕 〔発表〕				
科研費採択状況 (過去 2 年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去 2 年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔短大関係〕 「英語 A①」(短大 1 年。23名。 短大 2 年 1 名 水曜日 1 講時) 「英語 A②」(短大 1 年。22名。 短大 2 年 1 名 水曜日 1 講時) 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (1) コマ} \\ \text{後期 (1) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (2) コマ			
学生指導	基礎的な英語学力不足の学生への特別指導			
活 動				
学外活動	〔公的機関の活動〕 ・ 徳島県租税教育推進協議会 幹事 (租税教育の推進及び充実のための環境整備等を行う)			

学外活動	・徳島県安全で安心なまちづくり推進協議会 委員 (徳島県安全で安心なまちづくり条例」に基づき関係団体等が連携協力) ・徳島県交通安全対策協議会 委員 (本県交通安全対策推進に理解・協力を得るための行動計画の策定) ・徳島県自転車安全利用促進協議会 委員 (県内における自転車ヘルメット着用促進運動の展開) ・徳島県公私立高等学校連絡協議会 幹事 (徳島県内高校教育の充実及び振興に関する協議) ・徳島県私立中学高等学校連合会 事務局長 (年間活動計画作成、国会議員への要請活動、私学振興全国大会等への参加等) ・徳島県私立中学高等学校保護者会 事務局長 (保護者会の振興を図ると共に四国、全国の保護者会開催、参加) ・徳島の未来を拓くグローバルリーダー育成協議会 理事 (徳島の未来を拓くグローバルリーダー育成のための海外派遣に関する協議会への参加)
学内活動	・広報活動・高校訪問 (広報担当者会議、徳島県・香川県進学説明会、ブロック別進学説明会参加) ・全学入試委員会 委員 (本学の入試全般について協議) ・SD委員会 委員 (教育研究活動等の適切かつ効果的な運営・実施) ・定例部局長会、合同教授会、短大教授会 ・保護者会・後援会 ・理事会・評議員会 ・教員選考委員会委員 ・130周年特待生選考委員会 委員 ・アカンサス会 監査 (同窓会の監査業務) ・アカンサス会奨学金審査委員会 委員 (アカンサス会による奨学金授与の審査) ・「ミライのわたし」選考委員会 委員

氏 名	小 川 陽 子 (おがわ ようこ)			
所属・職の種類	短期大学部言語コミュニケーション学科 准教授			
最終学歴	高知女子大学文学部国文学科 (文学士)			
着任の年月	令和 6 年 4 月			
直前の職歴 (学校・企業等)	徳島市川内中学校 校長			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕				
〔論文〕				
〔発表〕				
科研費採択状況 (過去 2 年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去 2 年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 なし ②後期担当授業科目名等 「文学 A」(言コミ 1 名、総合政策 6 名、人間生活10名、食物栄養 9 名、児童10名、 理学療法 1 名、計37名、木曜日 5 講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「プレゼンテーション演習Ⅱ」(言コミ 4 名、月曜日 2 講時) 「日本語表現法Ⅰ」 (言コミ 5 名、商科 9 名、総合政策 1 名、 月曜日 3 講時) 「プレゼンテーション概論」 (言コミ 5 名、商科 5 名、生活科学 1 名、 人間生活 1 名、月曜日 3 講時) 「中国文学(漢詩文)」 (言コミ 3 名、総合政策 1 名木曜日 2 講時) 「ことばと表現」 (食物専攻 3 名、言コミ 5 名、生活科学 8 名、 商科17名、短大音楽 2 名、金曜日 1 講時) 「日本語の語法」 (言コミ 4 名、総合政策 1 名、留学生 1 名、 金曜日 2 講時)			

授 業	②後期担当授業科目名 「書道及び書道史」(言コミ4名、生活科学1名、心理2名、総合政策1名、月曜日2講時) 「日本文学A」(言コミ6名(留学生2)、商科1名、メディアデザイン3名、月曜日3講時) 「国語科教育法」(受講なし火曜日1講時) 「情報機器プレゼンテーション演習」(言コミ4名、火曜日2講時) 「言語学概論」(言コミ5名(留学生2)、木曜日2講時) 「言語とコミュニケーション」(言コミ7名(留学生2)、人間生活1名、総合政策3名、金曜日2講時) 「日本文学史」(言コミ6名(留学生2)、人間生活1名、商科1名、総合政策2名金曜日3講時) 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (6) コマ} \\ \text{後期 (7) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (13) コマ 〔その他の指導状況〕 ①観光論補助 ・4/14 開講 ・7/2 ホテル勤務の先輩講話 ・5/21 ツーリズム徳島・ランス・キタ氏による講話 ・1/14 エアトラベル、空港勤務の先輩講話 他 ②「総合ゼミナール」(水曜日 5講時)の授業補助 ・外部講師(長尾公美子先生)による手話講座(12/10、12/17、1/7) ③全学共通センター関係 ・「教員・幼保養成対策講座」(論作文講座・個別指導 計27回) (4/16 1回、4/22 1回、4/23 4回、5/1 1回、5/7 2回、5/14 2回、5/21 1回、5/28 2回、5/29 1回、6/11 1回、6/18 1回、6/25 2回、6/26 2回、7/3 1回、7/9 2回、7/10 2回、7/16 1回) ・「学力充実対策講座」(5/23、5/28、6/11、6/25、7/9、7/23 計6回) ・「教員・幼保採用試験レベルアップ講座」(論作文講座) 2/13 ④徳島県主催 大阪・関西万博「Vision Mashup Stage」 若者によるプレゼンテーション大会応募 ・授業「プレゼンテーション演習Ⅱ」において、テーマ「私たちが描く命耀く未来社会・2050年への設計図」のスライドを作成。1名が最終選考まで参加。 ・本番発表はできなかったが、万博会場で入賞者のプレゼン発表とナビゲーター小山薫堂氏の講評を共有した。
学生指導	〔生活指導・学修支援〕 ・学生面談 困り感や生活環境への配慮、履修登録等のサポート、面談以外のコミュニケーションを心掛け、学生生活全般に支援。 ・留学生対応 授業の配慮、面談、生活相談。 ・合理的配慮 関係者との連携を密に共通理解を図る。 本人や保護者とのコミュニケーションを丁寧に行う。 関係者による合理的配慮に関する会議に参加。 ・その他 授業に不適応となる学生、その他、気になる学生への連絡、サポート等。 〔教職・教育実習支援〕 ・教務課との連携、教育実習に関する説明打合せ、教育実習校への事前連絡、実習中

学生指導	の訪問・授業参観、事後連絡等を行った。 〔就職活動・編入支援〕 ・就職活動の相談、エントリーシートや履歴書の添削、面接練習等。 ・編入を希望する学生に対する小論文、面接指導。
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 日本近代文学学会会員 日本国語教育学会会員 〔公的機関の活動〕 ①社会福祉法人矯風会第三者委員（2024～） （県内児童養護施設に入所している子どもが、施設や施設の職員の言動・方針に疑問を持ったり、不適切だと感じたりしたときに、客観的・第三者的な立場で相談を受ける。） ②社会福祉法人矯風会 評議員（2025～）
学内活動	〔学内委員会〕 ・ハラスメント防止委員会 ・教職課程委員会 ・教員・保育士養成対策委員会 〔短大委員会〕 ・短大就職委員会 ・短大オープンキャンパス運営委員会 ・短大入学前ガイダンス運営委員会 〔その他〕 ・「オープンキャンパス」体験授業（4/27 8/24）、学科説明（3/20 7/13 9/14）、学生指導、学科説明資料、説明リーフレット等作成 ・「春期進学説明会」参加・対応（5/8） ・「阿南・小松島ブロック進学説明会」参加・対応（6/19） ・「徳島ブロック進学説明会」参加・対応（6/24） ・「総合型選抜入試・ミライのわたし」面接 ・「短大フェスタ」学科内容の企画準備・学生指導 ・「短大ウェルカム・デイ」準備、学生指導 ・「新入生ガイダンス」スライド・シナリオ作成等準備・学生指導 ・「大学案内」、「Bunri Style Book」校正

氏 名	金 澤 朋 紀（ かなざわ とものり ）			
所属・職の種類	短期大学部言語コミュニケーション学科 講師			
最終学歴	同志社大学大学院文学研究科英文学・英語学専攻博士課程（前期課程）修了（ 修士（英文学） ）			
着任の年月	令和 4 年 4 月			
直前の職歴 （学校・企業等）	なし			
研 究（業績：過去 5 年間）				
著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 〔論文〕 〔発表〕 1. S. T. コ ウ ル リッジの『クリスタ ベル』における 境界		令和 3 年10月	同志社大学英文学会 2021年度年次大会	本発表はSamuel Taylor Coleridge (1772-1834) の『クリスタベル』について、“threshold”という語を起点として、作品における境界という概念に注目し、詩的表現と心理学的洞察の観点からその意義を論じた。同時代の文学作品における城が、人間の精神のアレゴリーとして機能する伝統を踏まえつつ、城門の敷居を越えた先にある城の内部が、人間の深層心理を描出していることを明らかにした。さらに作品中に現れるフクロウの鳴き声に注目し、その詩的表現のうちに、形而上学的意味を読み込むことができる可能性を指摘し、作品の重層的な構造とその新たな解釈を提示した。
2. 老水夫に架かる虹 ―コウル リッジの「老水夫 行」における海蛇		令和 4 年10月	日本英文学会中国四 国支部 第74回大会	Samuel Taylor Coleridgeのバラッド「老水夫行」（“The Rime of the Ancyent Marinere”）において、アホウドリ殺しによって呪われた老水夫は、海蛇を祝福することにより、その呪いから解放される。救済の契機となった海蛇は、本作品における中心的なシンボルである。この海蛇について、コウルリッジが渉猟した文献との関連がこれまでに研究されてきた。本発表は、旧約聖書の創世記における虹に着目し、「老水夫行」

				の海蛇の新たな解釈を指摘すること で、作品における虹の聖書的表象を 検討することにある。
科研費採択状況 (過去2年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去2年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去2年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「英語A①」(心理1年Aクラス 26名 月曜日2講時) 「英語A①」(心理1年Bクラス 29名 月曜日1講時) 「英語A①」(理学療法1年Aクラス 36名 木曜日3講時) 「英語A①」(理学療法1年Bクラス 36名 月曜日4講時) 「英語A①」(人間生活1年、メディア1年他 31名 水曜日1講時) ②後期担当授業科目名等 「英語A②」(心理1年Aクラス 25名 木曜日1講時) 「英語A②」(心理1年Bクラス 30名 月曜日4講時) 「英語A②」(理学療法1年Aクラス 33名 水曜日1講時) 「英語A②」(理学療法1年Bクラス 32名 火曜日1講時) 「英語A②」(人間生活1年、メディア1年他 30名 月曜日1講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名等 「実践英語Ⅰ」(言語1年他 4名 木曜日1講時) 「観光論A」(言語1年他 6名 水曜日3・4講時) 「文理学」(言語1年 6名 木曜日4・5講時) ②後期担当授業科目名等 「英米文学」(言語2年 3名 火曜日3講時) 「観光論B」(言語1年他 8名 水曜日3・4講時) 「総合ゼミナール」(言語1年 6名 水曜日5講時) 「ホテル・エアライン英会話」(言語1年 5名 木曜日3講時) 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (8) コマ} \\ \text{後期 (9) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (17) コマ 〔その他の指導状況〕 語学センター 英語ステップアップ講座「TOEIC英単語道場」(6月、11月)			

授 業	語学センター TOEIC個別相談 等 〔大学院等の論文等の指導〕 該当なし
学生指導	言語コミュニケーション学科1年担任として、他の学科教員と協力し、学生指導にあたった。指導の主な内容は、次のとおりである。 ①授業履修について ②大学生活について ③就職活動について ④英語学習について ⑤各種講座、研修会への参加について 等
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 ・日本ピューリタニズム学会監事 ・日本英文学会会員 ・イギリス・ロマン派学会会員 ・関西コールリッジ研究会会員 ・同志社大学英文学会会員 〔公開講座、講演会、研修会の講師〕 ・徳島文理大学短期大学部主催「コミュニティ・カレッジ講座」 令和7年度秋季講座①「マザー・グースのせかい」講師（10月）
学内活動	・全学共通教育研究部会部会長 ・2026年度入試問題作成委員・答案採点委員 ・短期大学部ホームページ委員 ・短期大学部インターンシップ委員 ・短期大学部総合型選抜入試運営委員 ・短期大学部オープンキャンパス運営委員 ・インターンシップ推進委員会委員 ・R7実施新入生セミナー運営委員会委員 ・令和7年度全学共通センター 学習支援アドバイザー ・学科紹介パンフレット作成 ・進学説明会参加・対応（6月） ・オープンキャンパス企画運営、学科説明、体験授業担当 ・短大フェスタ学科内容の企画準備 ・短大ウェルカム・デイ委員 ・短期大学部入学前ガイダンス 動画作成、ゲーム実施担当 ・TOEIC IP テスト試験監督（8月、2月） ・徳島文理大学第68回定期演奏会賛助出演（2月） ・徳島文理大学空手道部顧問 ・徳島文理大学手話部 Friends 顧問 等

氏 名	リチャード ジャスティン デッカー			
所属・職の種類	短期大学部 言語コミュニケーション学科 講師			
最終学歴	文学士 言語学			
着任の年月	2022年 9 月			
直前の職歴 (学校・企業等)	徳島県立小松島高等学校			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
Donald Trump再 選を読み解くキー ワードとアメリカ 合衆国の文化的・ 宗教的側面	共著	2025	徳島文理大学研究紀 要第 110 号	共著者：堀口誠信
Hillbilly Elegy and Tiger Mother. US National Divide in Terms of Culture	共著	2026	徳島文理大学研究紀 要第 111	共著者：Masanobu Horiguchi, Nozomi Horiguchi
第79回徳島県高等 学校英語弁論大会 審査員コメント	単著	2026	English Education Research vol.62	
科研費採択状況 (過去 2 年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去 2 年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	前期 「英語 B①」 (建築 2 年。30名。火曜日 1 講時) 「英語 A①」 (食物 1 年。19名。水曜日 1 講時) 「英語 A①」 (食物 1 年。17名。水曜日 2 講時) 「英語 B①」 (児童 2 年。20名。木曜日 1 講時) 「英語 B①」 (メディア 2 年。16名。金曜日 2 講時) 「英会話 (OC) I」 (言語 1 年 人間生活 2 年。5 名。金曜日 4 講時)			

授 業	後期 「英会話（OC）Ⅱ」（言語１年。４名。火曜日１講時） 「英語Ａ②」（食物１年。18名。木曜日３講時） 「英語Ａ②」（食物１年。16名。水曜日３講時） 「英語Ｂ②」（建築２年。29名。水曜日４講時） 「英語Ｂ②」（人メディア２年。17名。木曜日２講時） 「英語Ｂ②」（児童２年。19名。金曜日４講時）
学生指導	随時指導
活 動	
学外活動	徳島文理大学附属幼稚園 （前期・月曜日１講時。週１回） （後期・月曜日１講時。週１回） 第79回徳島県高等学校英語弁論大会（令和７年10月12日）
学内活動	オープンキャンパス模擬授業担当

氏 名	原 井 俊 典 （ はらい としのり ）			
所属・職の種類	音楽学部副学部長・短期大学部音楽科長・教授（音楽制作・キーボード）			
最終学歴	兵庫教育大学大学院 （ 教育学修士 ）			
着任の年月	平成 7 年 6 月			
直前の職歴 （学校・企業等）	徳島文理大学音楽学部非常勤講師			
研 究 （業績：過去 5 年間）				
その他の研究活動	形態	発表の年月	発 表 会 場	概 要
〔音楽制作・演奏〕 徳島文理大学イル ミネーション点灯 式《オープニング イベント》	単	2025年12月 5 日	徳島文理大学 5 号館 前野外ステージ	・ 第九（歓喜の歌）の編曲、および パソコンプログラミングによる キーボードの演奏。 ・ J-POP楽曲の編曲、およびパソコ ンプログラミングによるキーボー ドの演奏。
ミュージックプラ スコンサート 編曲、プログラミ ング、キーボード 演奏	単	2025年 5 月17日	徳島文理大学アカ サスホール	J-POP楽曲の編曲、およびパソコ ンプログラミングによるキーボード の演奏。
ミュージックプラ スコンサート 編曲、プログラミ ング、キーボード 演奏	単	2024年 5 月18日	徳島文理大学アカ サスホール	歌謡曲の編曲、およびパソコン プログラミングによるキーボードの 演奏。
「クリスマスPops コンサート」編曲 およびプログラミ ング	単	2023年12月18日	徳島文理大学 2 号館 1 階アクティブラ ウンジ	ポップス曲の編曲、およびパソコ ンのプログラミングによる演奏。
「クリスマスPops コンサート」編曲 およびプログラミ ング	単	2022年12月12日	徳島文理大学 2 号館 1 階アクティブラ ウンジ	ポップス曲の編曲、およびパソコ ンのプログラミングによる演奏。
コンサート「Power of Music 2022」 編曲およびプロ グラミング	単	2022年 2 月 9 日	徳島文理大学ボス トンホール	ポップス曲の編曲、およびパソコ ンのプログラミングを行い、学生が 演奏。

教 育	
授 業	〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「音楽理論Ⅰ」 (短大音楽科1年2名、短大音楽科2年1名、合計3名。木曜日2講時。) 「合奏」 (短大音楽科1年～2年。1名。木曜日4講時・金曜日4講時。) ②後期担当授業科目名 「ポピュラー音楽理論」 (短大音楽科1年2名、合計2名。金曜日3講時。) 〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「音楽通論」 (音楽学部1年12名。木曜日2講時。) 「コンピュータ音楽概論A」 (音楽学部1年4名、音楽学部4年1名。合計5名。7月集中講義。) 「実技A レッスン」 (音楽学部1年4名、2年1名、3年1名、4年3名。合計9名。月曜日3、4講時、水曜日2～5講時、木曜日3、5講時。) 「実技B レッスン」 (音楽学部4年1名。火曜日5講時。) 「合奏」 (音楽学部1年～4年。合計11名。木曜日4講時・金曜日4講時。) ②後期担当授業科目名等 「ポピュラー音楽理論」 (音楽学部1年12名。合計12名。金曜日3講時。) 「コンピュータ音楽概論B」 (音楽学部1年4名。合計4名。2月集中講義。) 「合奏」 (音楽学部1年～4年。11名。木曜日4講時・金曜日4講時。) 「実技A レッスン」 (音楽学部2年1名、3年1名、4年2名。合計4名。水曜日2・3講時、木曜日5講時。) 「実技B レッスン」 (音楽学部3年1名。合計1名。水曜日2講時。) 〔専攻科・研究生関係〕 なし。 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (11) コマ} \\ \text{後期 (5.5) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (16.5) コマ 〔その他の指導状況〕 *特別レッスン コンクールに出場する学生に対し、本番前の2ヶ月間、週2～3コマの割合で授業以外の特別レッスンを実施。 *卒業研究指導 令和7年度卒業生について、以下3名の卒業研究指導を行った。

授 業	〔音楽学部音楽学科〕 ・タイトル「desert montage」(作曲、音楽制作の指導) ・タイトル「うたかた」(作曲、音楽制作の指導) 〔短期大学部音楽科〕 ・タイトル「大切なモノ」(作詞、作曲、音楽制作の指導)
学生指導	*チューターとしての指導 ・「就職に関する指導」 就職活動の心構えや取り組み方について個別指導を実施。またエントリーシートや履歴書の校正、面接指導も実施した。 ・長期休暇の過ごし方に関する注意点等について、コースのホームルームを実施。 ・「個人相談」 悩みを抱えている学生について、個別に面談実施した。
活 動	
学外活動	*全国芸術系大学コンソーシアム運営会議委員 *全国芸術系大学コンソーシアム芸術系教科等研修運営ワーキンググループ委員 *文化庁主催「令和7年度芸術系教科等担当教員等全国研修会」講師 令和7年9月29日(月) *出張講義 愛媛県新田高等学校 令和7年10月1日(水)
学内活動	*広報活動 ・学部リーフレット、その他学部広報用印刷物の作成 ・香川県、徳島県の高等学校訪問および進学説明 ・徳島県、香川県、高知県の進学説明会出席 ・香川県立高松東高等学校音楽コース演奏会出席 *客員教授による特別講座の運営 ・千住明客員教授特別講座「言葉から音楽へ」 ・上野耕平客員教授・オープンキャンパスにおけるセミナー *第17回徳島音楽コンクール／実行委員会事務局長 *第17回徳島音楽コンクール／電子楽器部門審査委員長 *第17回徳島音楽コンクール「徳島音楽フェスティバル」審査員 *学力充実対策講座(全学共通教育センター)「グレード対策講座」担当 *全学研究委員会委員 *カワイピアノグレード(演奏・指導)学内認定担当 ・令和7年度1名認定 *徳島文理大学附設音楽教室講師(電子オルガン) - 小学4年生2名指導。

氏 名	熊 谷 公 博 （ くまたに きみひろ ）			
所属・職の種類	短期大学部音楽科 教授（音楽学部声楽主任）			
最終学歴	イタリア国立ブレーシャ音楽大学 オペラ科（学位）			
着任の年月	平成 4 年 4 月			
直前の職歴 （学校・企業等）	徳島文理大学 音楽学部 非常勤講師			
研 究 （業績：過去 5 年間）				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
		令和 3 年12月	志度、テアトロン野 外ホール	さぬき市役所Uターン政策課と、 ニューマーク社（さぬき市）による、 さぬき市UターンPRMV「帰って おいでよさぬき市へ！」を演奏 YouTubeに登録
		令和 4 年12月	香川・聖母幼稚園	クリスマスコンサート出演
		令和 5 年 2 月	むらさきホール	声楽コースによるオペラ「フィガロ の結婚」抜粋の指導、出演
		同年 3 月	ボストンホール	生涯学習講座ミニコンサート指導、 出演
		同年 3 月	愛媛県	楠野麻衣ソプラノコンサートにおい て、ピアノ伴奏で出演
		令和 6 年 2 月	むらさきホール	徳島文理大学定期演奏会において、 女声合唱によるトスティの歌曲の指 導、指揮
		同年 3 月	むらさきホール	生涯学習講座（コーラス・キーボー ド）修了演奏会指導、出演
		同年 5 月、 8 月	ミュージックプラス コンサート	バリトン独唱及び音楽（オペラ 2 重 唱）指導
		同年11月、12月	むらさきホール	第67回徳島文理大学定期演奏会に て、女声合唱でイタリア古典歌曲の 指導、指揮
		令和 7 年 3 月	むらさきホール	生涯学習講座修了コンサート（コー ラス・キーボード）修了演奏会指 導、出演

教 育	
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「合唱」（全学年を対象。金曜日 2 講時） 「イタリア語」（学 1 を対象。月曜日 5 講時） 個人レッスンで、声楽専攻実技 及び 声楽副専攻実技 香川校にて、「音楽 A」（木曜日 2 講時） ②後期担当授業科目名等 「合唱」（全学年を対象。金曜日 2 講時） 「イタリア語」（学 1 を対象。月曜日 3 講時） 香川校にて、「音楽 B」（木曜日 2 講時） 個人レッスンで、声楽専攻実技 及び 声楽副専攻実技 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 個人レッスンで、声楽専攻実技 及び 声楽副専攻実技 ②後期担当授業科目名 個人レッスンで、声楽専攻実技 及び 声楽副専攻実技 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (9.4) コマ} \\ \text{後期 (9.4) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (18.8) コマ 〔その他の指導状況〕 ①全学部全学年を対象に、全学共通教育として音楽教室とイタリア語を担当（水曜日 5 講時） ②一般社会人を対象に、合唱講座を担当（水曜日 2・3・4 講時） ③香川キャンパスにて一般社会人を対象に、合唱講座（ハッピーコーラス）を担当（2・4 週 木曜日 3 講時） ④徳島音楽コンクール声楽部門審査員
論文等指導	短大 2 年・学部 4 年・専攻科の声楽卒業試験（卒業演奏）にむけての指導
学生指導	4 年生、チューターとしての面接 単位不足や個人相談への特別指導、就職に対する助言・指導や個別面接の訓練
活 動	
学外活動	香川音楽コンクール審査員 香川ジュニア音楽コンクール審査員 高松国際ピアノコンクール音楽委員 KAWA I コンクール声楽部門審査員
学内活動	広報委員として、沖縄・福岡・香川・徳島の学校訪問を担当 沖縄・香川・徳島の保護者会に参加 *2020～2023年度、沖縄関係は無し 音楽学部カリキュラム委員 徳島音楽コンクール審査員（声楽部門）

氏 名	井 村 幸 子 (いむら さちこ)
所属・職の種類	短期大学部 音楽科 准教授
最終学歴	アメリカ シェナンドー大学音楽院 音楽療法修士課程 (Master of Music Therapy) 修了
着任の年月	2004 (平成16) 年 4 月 1 日
直前の職歴 (学校・企業等)	
研 究 (業績：過去5年間)	
その他の研究活動	・第71回四国老人福祉施設関係者研究大会情報交換会オープニング歌唱「ふるさとの色」(令和6年8月22日) ・みんなの創造フェスター2026とくしま障がい者芸術・文化祭—みんなのはっぴょうかいディレクターおよび演奏「Interude」、「オ・レ！愛と情熱の舞」(令和8年2月14日)
教 育	
授 業	〔学部〕 ①前期担当授業科目名 「音楽療法論臨床Ⅱ」集中講義 音楽学部5名 「音楽療法論臨床Ⅲ」火曜日2講時 音楽学部3年生2名 「音楽療法実習ⅡA」月曜日4、5講時 音楽学部3年生2名 「音楽療法実習Ⅲ」月曜日4、5講時 音楽学部4年生3名 「音楽療法実習指導」月曜日2講時、音楽学部3年生2名、4年生3名 「音楽療法総合演習ⅡA」水曜日2講時 音楽学部4年生3名 「文理学」木曜日4講時 音楽学部1年生13名 ②後期担当授業科目名 「音楽療法論臨床Ⅳ」火曜日2講時 音楽学部3年生2名 「音楽療法実習ⅡB」月曜日4、5講時 音楽学部3年生2名 「音楽療法実習Ⅲ」月曜日1、2講時 音楽学部4年生3名 「音楽療法実習指導」月曜日2講時 音楽学部3年生3名、4年生3名 「音楽療法総合演習ⅡB」水曜日3講時 音楽学部4年生3名 「文理学」水曜日4講時 音楽学部1年生12名 〔短期大学部〕 ①前期担当授業科目名 「音楽療法論臨床Ⅱ」集中講義 音楽科1年生1名 「文理学」木曜日4講時 音楽科1年生2名 ②後期担当授業科目名 「(療法)実技AⅡギター」火曜日5講時 音楽科1年生1名 「文理学」水曜日5講時 音楽科1年生2名 〔専攻科〕 ①前期担当授業科目名 「音楽療法インターンシップ」月曜日4、5講時、水曜日4講時、金曜日2講時 1名

授 業	②後期担当授業科目名 「音楽療法インターンシップ」月曜日4、5講時、水曜日4講時 1名 「修了プレゼンテーション」金曜日2講時 1名 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (10) コマ} \\ \text{後期 (9) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (19) コマ 〔卒業研究等指導〕 音楽専攻科「修了プレゼンテーション」(於アカンサスホール)の指導1名「音楽中心音楽療法を実践する：みんなのはっぴょうかいにむけて」 音楽学部「卒業研究」としての卒業プレゼンテーション指導3名
学生指導	・学生2名の就職活動および他学部編入学1名について、合格までを支援。 ・学部および短大、専攻科音楽療法コース7名をチューターとして支援。 ・短期大学部音楽科2年生の担任。 ・音楽療法コース学生コミュニティ TBUMTC Call & Responseを支援。
活 動	
学外活動	講演会（療法的音楽活動） ・上板町STOPフレイルwith徳島文理大学「STARTミュージック！STOPフレイル！in上板」（9月16日） ・第19回徳島高次脳機能障がいリハビリテーション講習会「音楽療法による支援：高次脳機能障害を含むヘルスケア」講師（11月1日） ・徳島県老人福祉施設協議会主催「FUKUフェス！2025」メインステージ：音楽療法—みんなで奏でる音楽の魔法—（11月16日） ・「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣奨励活動表彰（12月9日） ・徳島県精神科病院協会西部地区レクリエーション大会「療法的音楽活動：音楽療法のエッセンスを感じて」（2月26日）
学内活動	入試・広報 ・オープンキャンパス（4月27日除く）および高校生来学（6月6日、10月23日）時に体験授業を実施 ・徳島県進学説明会出席（6月24日） ・音楽学部オープンキャンパスチラシ担当および卒業演奏会チラシ作成 ・短大ウェルカムデイ音楽科を担当し、卒業生とプレゼンテーション（2月7日） ・短大スタイルブック、ウェルカムデイチラシ音楽科担当、進学スライド資料2本作成 ・入試広報部沖縄パンフレット撮影 ・音楽療法コースSNS（Instagramとfacebookによる広報）投稿、管理 ・新入生オリエンテーションにおける履修説明（4月3日） 卒業（修了）研究発表開催 ・音楽専攻科器楽専攻音楽療法コース修了プレゼンテーション開催（ポスター作成含む）。（1月22日） ・音楽学部および短期大学部音楽科音楽療法コース卒業プレゼンテーション開催（チラシ作成含む）。（2月9日） 音楽療法士就職フォーラム ・卒業生の川西穂香氏（株式会社クラ・ゼミ）を招き、音楽学部・音楽科学生を対象とした音楽療法と児童福祉法についてのフォーラムを開催（チラシ作成含む）。（12月20日）

学内活動	ローバッカー博士による集中講義 ・在学生対象、卒業生も参加可「音楽療法論臨床Ⅱ」集中講義を実施、通訳（8月4～5日） 全国音楽療法士養成協議会および申請 ・令和7年度全国音楽療法士養成協議会総会出席（7月1日） ・全国音楽療法士養成協議会への資格申請点検。学生が資格申請をおこなうための書類の「個人実習表」作成を指導し、施設を訪問、押印を要請（2月） 各種委員会委員など ・短期大学部自己点検・自己評価委員会（9月18日） ・全学教務委員会（8月5日、11月18日、3月18日） ・倫理教育委員会（3月4日） ・人権教育推進委員・インターンシップ推進委員（6月11日） ・徳島音楽コンクール実行委員会事務局 ・各種演奏会および講習会等の準備、受付、撤収等 その他 ・保護者の希望によるオンライン面談（9月11日） ・卒業生について就職先の管理者との面談および管理者をととしての本学広報活動への協力依頼（4月21日、8月21日、1月21～22日）
-------------	---

氏 名	米 延 賢 治 (よねのぶ けんじ)			
所属・職の種類	短期大学部音楽科 准教授 入試広報副部長			
最終学歴	大阪大学大学院理学研究科 (理学修士)			
着任の年月	令和 7 年 4 月 1 日			
直前の職歴 (学校・企業等)	徳島市立高等学校 校長			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 〔論文〕 〔発表〕		な し	な し	な し
科研費採択状況 (過去 2 年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去 2 年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名 「学校安全」(人間生活 3 年26名、4 年 2 名、計28名。水曜日 3 講時) 「生涯学習概論Ⅰ」(児童 4 年 1 名、心理 4 年26名、計27名。金曜日 3 講時) ②後期担当授業科目名 「物理A」(建築 1 年22名。火曜日 1 講時) 「生涯学習概論Ⅱ」(心理 4 年22名。水曜日 2 講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「社会生活とマナー」(商科 1 年14名、2 年 1 名、計15名。月曜日 4 講時) ②後期担当授業科目名 なし 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (3) コマ} \\ \text{後期 (2) コマ} \end{array} \right\} \text{計 (5) コマ}$ (学部後期の「物理A」(看護 1 年)は受講希望者なしのため開講せず)			

授 業	〔その他の指導状況〕 学力充実対策講座「物理」（３年生２名 後期 月曜日４講時）
学生指導	・年間７回のオープンキャンパスにおいて学生スタッフを支援 ・教員採用試験の直前面接指導（６月） ・文理幼稚園・小学校を招いた音楽演奏会において学生を支援
活 動	
学外活動	①広報担当者として高校巡回広報活動 ・徳島市立高等学校と池田高等学校全日制・定時制を担当 ・年間６回学校を訪問して本学について広報 ②徳島市立高等学校サッカー部後援会 会長 ・応援事業の統括 ③グレイス・プラス・アンサンブル 副団長・首席トロンボーン奏者 ・副団長として団長を補佐し、同団体を運営 ・トロンボーンパートの楽譜等備品を管理、演奏を指導 ・渭東地区公民館での依頼演奏を支援 ・定期演奏会（１２月）を支援 ④富田中学校OB吹奏楽団 トロンボーン奏者 ・現役生との合同演奏会（３月）に出演 ・現役生を指導
学内活動	①入試広報業務 【イベント】 オープンキャンパスの運営 【インターネット関係広報】 大学HPの各種サイトの管理・運営、進学サイト等への登録 【冊子等の作成】 大学案内等受験生向け発行物の作成、入試ガイドの作成、大学通信「アカンサス」の作成 【学生募集活動】 高校巡回広報活動、進学説明会、ブロック別進学説明会、進学個別相談会、受験希望者等の問合せ窓口対応、訪問者対応 【外部への情報発信】 受験情報誌等に学部学科紹介を掲載、動画やSNSによる情報配信 ②合同教授会（毎月１回） ③学生指導・支援協議会（９月） ④第１７回徳島音楽コンクール 金管楽器部門 大学・一般の部に出場、銀賞受賞 ⑤文理幼稚園・小学校を招いた音楽演奏会（２月）に出演 ⑥文理OBオーケストラ第２５回定期演奏会（３月）に出演

氏 名	則 包 光 徳 (のりかね みつのり)			
所属・職の種類	短期大学部 商科 教 授 (学科長)			
最終学歴	中央大学法学部法律学科 (法学士)			
着任の年月	平成24年 4 月			
直前の職歴 (学校・企業等)	株式会社百十四銀行より 財団法人香川経済研究所へ出向			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕				
〔論文〕				
〔発表〕				
科研費採択状況 (過去 2 年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去 2 年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔大学院関係〕 ①前期担当授業科目名等 ②後期担当授業科目名等 〔専攻科関係〕 ①前期担当授業科目名等 ②後期担当授業科目名等 〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 ②後期担当授業科目名等 「情報処理」 (音楽学部 1 年 12 名 火曜日 3 講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「金融資産運用」 (商科 1 年 5 名、商科 2 年 1 名 月曜日 1 講時) 「マーケティング」 (商科 2 年 12 名 月曜日 3 講時)			

授 業	「情報リテラシー」 (保育 2 年 12 名 木曜日 1 講時) 「商品学」 (商科 2 年 8 名 木曜日 3 講時) 「情報リテラシー」 (生活科学食物 1 年 19 名、商科 1 年 19 名、2 年 2 名、言語コミュニケーション 1 年 5 名 金曜日 2 講時) ②後期担当授業科目名 「経営学Ⅱ」 (商科 2 年 5 名、月曜日 1 講時) 「経営学Ⅰ」 (商科 1 年 18 名、2 年 1 名 月曜日 4 講時) 「情報機器演習」 (言語コミュニケーション学科 1 年 4 名、商科 2 年 15 名 火曜日 2 講時) 「情報リテラシー」 (音楽学科 1 年 2 名 火曜日 3 講) 「中小企業経営論」 (商科 1 年 8 名、2 年 2 名 水曜日 2 講時) 「総合ゼミナール」 (商科 1 年 16 名 水曜日 5 講時) 「情報リテラシー」 (生活科学学科生活科学専攻 1 年 8 名、言語コミュニケーション学科 2 年 1 名、保育科 2 年 1 名 金曜日 2 講時) 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (5) コマ} \\ \text{後期 (7) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (12) コマ 〔その他の指導状況〕 〔大学院等の論文等の指導〕
学生指導	オフィスアワーの曜日・時間をできるだけ制約せず、学生に対応した。 ・商科 2 年生のチューターとして、就職希望者前任を一手に引き受けて就職活動の指導を行った。7 月末までに全員の就職内定を達成。 ・1 月より、商科 1 年生の就職希望者の半数につき、就職活動の指導を担当。個別面談からスタートし、順次必要な指導を展開している。
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 日本ビジネス実務学会会員 〔公的機関の活動〕 徳島市入札監視委員会委員 〔その他の活動〕 ブロック進学説明会の対応 学科の説明、卒業生や在校生の説明など 6/24 徳島ブロック 6/25 美馬ブロック 大学見学の対応 7/9 阿波西高校 体験授業を実施 職業別説明会 6/20 小松島西校（勝浦）簿記、経理の説明会において説明を実施
学内活動	①全学入試委員会委員 全学的な入試の在り方について検討する。例えば、入試日程、入試科目、時間、試験場、出題者、ミスの防止策等について委員間で検討を行った。

学内活動	②SD推進委員会委員 大学執行部、教育職員、事務職員、技術職員、すべての職員の能力および資質向上のため、研修などの取り組みをしており、委員会において検討を行った。 ③学部の教務委員会委員 ④商科での活動を統括 オープンキャンパスや広報活動について、負担が特定教員に偏らないように、常に全体に目を配って対応した。
-------------	--

氏 名	森 本 卓 治 （ もりもと たくじ ）			
所属・職の種類	短期大学部商科 教 授			
最終学歴	岡山大学法学部 （ 法学士 ）			
着任の年月	令和 4 年 4 月			
直前の職歴 （学校・企業等）	株式会社百十四銀行より百十四ビジネスサービス株式会社へ出向			
研 究 （業績：過去 5 年間）				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕				
〔論文〕				
〔発表〕				
科研費採択状況 （過去 2 年間）	該当なし			
研究助成金の交付等 （過去 2 年間）	該当なし			
特許申請状況 （過去 2 年間）	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「金融資産運用」 （総合科目 D 「F P 技能士養成講座」 （商科 1 年 6 名、商科 2 年 1 名、月曜日 1 講時） 「くらしと法（日本国憲法を含む）」 （生活科学科食物専攻 1 年 6 名、保育科 2 年 11 名、月曜日 4 講時） 「ビジネス実務総論」 （生活科学科生活科学専攻 1 名、商科 2 年 12 名、火曜日 3 講 時） 「社会人基礎力総論」 （生活科学科生活科学専攻 1 名、商科 1 年 9 名、商科 2 年 2 名、水曜日 4 講時） 「現代社会と法」 （商科 2 年 14 名、木曜日 1 講時） 「文理学」 （商科 1 年 19 名、木曜日 4 講時） ②後期担当授業科目名 「経済学Ⅰ」 （商科 1 年 18 名、月曜日 2 講時） 「くらしと法（日本国憲法を含む）」 「生活関連法」 （生活科学専攻 1 年 2 名、言語コミュニケーション学科 1 年 5			

授 業	名、商科1年18名、音楽学科1年2名、人間生活学部4年8名、木曜日3講時) 「経済学Ⅱ」 (商科2年15名、木曜日3講時) 「総合ゼミナール」 (商科1年15名、木曜日5講時) 「金融論」 (商科1年8名、金曜日1講時) 「財政学」 (商科2年5名、金曜日4講時) 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (6) コマ} \\ \text{後期 (6) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (12) コマ
学生指導	〔学生指導の方針〕 ・日頃から学生との距離を近く保ち、学生とコミュニケーションを積極的に行うことを目指している。それによって学生の性格や嗜好、価値観等を知り、それを踏まえた上で、学生個々にあった指導を行うことを心掛けている。 ・オフィスアワーについては、できるだけ時間を限定せず、常に入りやすい研究室であることを心掛ける。 〔個人面談の実施〕 ・2024年入学の商科2年生担任として学習指導・就職活動指導・生活指導等を実施。 ・担任の学生については前後期複数回の個人面談を実施するとともに、個別に面談の希望申出のあった学生、及び都度指導が必要であると感じた学生に対しては随時面談を実施。 ・担任以外の学生についても、面談の希望がある学生については随時面談を実施。内容は担当科目についての指導、日常生活の悩みの相談、就職活動についてのアドバイスなど様々な内容。 〔保護者との連携〕 ・出席率低下・成績不振など、特に必要と考えられる学生については、保護者に対しても連絡を取り、連携して指導を行う。 ・保護者との連携は、問題が発生した初期の段階で行うよう心掛ける。 ・保護者会で面談した保護者に対しては、普段の学生生活について忌憚のない話を行い、また保護者の質問等にもきめ細かく対応することにより、指導方針などの理解を得るよう心掛ける。 〔就職指導〕 ・自己分析、業界分析、履歴書の書き方や面接練習等を実施。 学生が面接を受ける際に、出来るだけ自分の言葉で話せるように心掛けて指導を行う。 ・出来る限り、企業面談時に学生個々が長所を発揮しやすいように指導する方針。
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 日本ビジネス実務学会会員
学内活動	〔学内の委員会、研究部会の委員〕 ①短期大学部総合選抜入試運営委員会 全学的な入試の在り方について検討する。 ②短期大学部インターンシップ委員会 大学全体のインターンシップ参加を推進 ③短期大学部就職支援員会 全学的な就職状況の確認及び情報交換

学内活動	④令和８年度実施新入生セミナー運営委員会 令和８年度実施予定の新入生セミナーの準備活動 〔その他〕 ①10月25日、キャリアプランニング講座 「お金と投資について～将来の為に、今知っておきたい「お金」と「投資」」 徳島文理大学徳島キャンパス25号館４階スタジオ型講義室 ②オープンキャンパス 商科において学科紹介・体験授業等を実施 ③短大紹介冊子 冊子での商科のページを作成 ④チラシ作成 短大商科紹介用チラシ、進学説明会用チラシ、コミュニティカレッジ講座用チラシ作成 ⑤PC検定開催 学内で実施したPC検定（６回分）について開催手続を実施 ⑥資格取得奨励制度 短期大学部の資格取得奨励制度の内容を見直し
------	--

氏 名	山 村 晃 (やまむら あきら)			
所属・職の種類	短期大学部 商科 教授 入試広報部長			
最終学歴	徳島大学教育学部中学校教員養成課程理科 (教育学士)			
着任の年月	平成30年 4 月 1 日			
直前の職歴 (学校・企業等)	徳島県立新野高等学校 校長			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 〔論文〕 〔発表〕		なし	なし	なし
科研費採択状況 (過去 2 年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去 2 年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「化学A」(食物栄養 1 年、17 名。月曜日 3 講時) 「化学A」(人間生活、メディアデザイン、人間福祉、理学療法 1 年 計10名。金曜日 2 講時) ②後期担当授業科目名等 「化学A」(児童 2 年、7 名。木曜日 2 講時) 「化学A」(看護 1 年、口腔保健 1 年、総合政策 1 年、音楽 2 年 計12名。金曜日 3 講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「情報サービス演習」(受講生 2 名 金曜日 4 講時) ②後期担当授業科目名 「情報サービス演習」(受講生 2 名 月曜日 4 講時)			

授 業	〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (3) コマ} \\ \text{後期 (3) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (6) コマ 〔その他の指導状況〕 学力充実対策講座「化学」（４年生１名、２年生１名 前・後期とも月曜日５講時） 公務員試験対策講座「化学」
学生指導	・年間７回のオープンキャンパスで、オープンキャンパス学生スタッフに対する事前指導 ・教員採用試験の直前面接指導（６月）
活 動	
学外活動	広報担当者とし高校巡回広報活動 ・小松島高等学校、富岡西高等学校の２校を担当している。 - 年間６回程度不定期に訪問して本学の広報を行う。 ・徳島県・香川県の通信制高校を訪問し、本学のオープンキャンパスの案内や学校単位の大学見学を活用してほしいことを説明。 ・本学の学科教員（児童・心理）と連携して徳島県内の高校で広報活動を行った。
学内活動	①入試広報部業務 【イベント】オープンキャンパスやWebによるオープンキャンパスの企画、運営、学科説明会、施設見学会の企画運営 【インターネット関係広報】大学ホームページの各種サイトの管理・運営、進学サイト等への登録 【冊子等の作成】大学案内等受験生向け発行物の作成、入試ガイドブックの作成、入試問題集（赤本）の編集、大学通信アカサスの作成 【学生募集活動】高等学校巡回広報活動、進学説明会、ブロック別進学説明会、進学個別相談会、留学生募集、受験生問い合わせ窓口対応、受験生等訪問者対応、 【外部への情報発信】受験情報誌等に学部学科紹介を掲載、動画やSNSによる情報配信、報道機関への資料提供、外部からの各種アンケートへの回答 ②大学運営 定例部局長会、(11回)、定例合同教授会（11回）、徳島キャンパス部局長懇談会（８回、学長の指示により各種検討会の作業部会を立ち上げて立案する。）香川キャンパス部局長等懇談会（11回、香川キャンパスの各事務部より行事の連絡調整） ③委員会活動 全学入試委員会委員・広報担当者会、自己点検・評価委員会委員、人権教育推進委員会委員、就職支援委員会委員、国際交流委員会委員、教員・保育士養成対策委員会委員、公務員試験対策講座実行委員会委員、沖縄支部保護者会事務局、本学ブランディング事業内部評価委員

氏 名	川 道 映 里 （ かわみち えり ）			
所属・職の種類	短期大学部 商科 准教授			
最終学歴	和歌山大学 経済学部（学士（経済学））			
着任の年月	平成30年 4 月			
直前の職歴 （学校・企業等）	（株）阿波銀行退職後、全国でマナー講師・マナーコンサルタントとして活動			
研 究 （業績：過去 5 年間）				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 「感じがいいと思 われる敬語の話し 方」	単	令和 4 年 2 月	ナツメ社	様々なビジネスシーンにおいて、ス マートに無理なく対応できるよう、 実際の場面を想定したさまざまな敬 語表現やフレーズを紹介している。 同じ内容を伝える場合でも、相手と の関係性や状況に応じて表現を変 え、伝わりやすく、感じがいいと思 われる言葉遣いを選ぶ工夫について 解説している。これらを通して、適 切な敬語とコミュニケーション力 を身につけることを目的とした一冊 である。具体的な場面を想定した実 践的な内容となっており、日常のビ ジネスコミュニケーションに役立つ 構成となっている。
「10歳までに身に つけたい一生困ら ない子どものマ ナー」	共	令和 4 年 4 月	青春出版社（中国に て出版）	小学生が自分で読めるよう、わかり やすい言葉遣いで語りかけるよう に書かれた、10歳までに身につけ たいマナーを紹介する一冊である。 動物のイラストを用いながら、家 の中でのマナー、テーブルマナー、 公共のマナーなどを楽しく学べる 内容となっている。 また、各項目には保護者へのメッ セージも掲載しており、子どもの思 いやりの心を育むヒントとなる構 成である。家庭や学校など、日常 生活のさまざまな場面で役立つマ ナーを身につけることを目的とし ている。 ＜共著者＞西出ひろ子
「大学生のための 簿記教科書」	共	令和 8 年 3 月	グラント印刷	初めて簿記を学習する大学生を対 象とした、日商簿記検定 3 級合格 レベルの教科書である。簿記の基 本的な仕組みと考え方の理解を 目的とし、

〔論文〕 短期大学部商科における簿記指導のあり方について—一検定指導から会計学の学びへの考察— 企業課題を学生の視点で解決する地域貢献への取り組み —徳島県事業「ミラトク」参加による成果と課題— 〔発表〕	共 単	令和４年９月 令和６年９月	徳島文理大学研究紀要第104号 徳島文理大学研究紀要第108号	将来、簿記を活かした職種に就いた際に、顧客や職場の状況を的確に判断し、よりよい意思決定につなげるための基礎力の習得を目指した内容としている。また、簿記の練習問題も掲載しており、單元ごとに理解度を確認することができる。 ＜共著者＞田尾公生 日商簿記検定取得に向けた講義を行う中で、簿記の基礎をいかに教えるか、会計理論学習は必要なのか、会計リテラシーはどのように習得するのか等の課題がある。今後の学習方針を検討するため、企業と卒業生へアンケートを実施し考察した。その結果、簿記検定の資格取得だけでなく、理論の学習も必要であると分析された。今後は、コンピュータ会計を導入しそれぞれの財務諸表による理論を学習することにより、企業の財務分析や経営戦略の考察などを取り入れていく。 ＜共同研究者＞田尾公生（徳島文理大学）、長濱太造（徳島文理大学） 2023年度徳島県事業「ミラトク」の実践報告を行い、企業の課題解決に向けたフューチャーセッションの内容、動画制作、アンケート結果、成果と課題を整理した。「ミラトク」は企業と学生の双方にとって有益な事業であるが、短大２年間でいかに学生が行動変容できるのかが課題であり、地域経済の活性化に繋がるのかが求められている。
科研費採択状況 （過去２年間）	該当なし			
研究助成金の交付等 （過去２年間）	該当なし			
特許申請状況 （過去２年間）	該当なし			
その他の研究活動	〔監修〕 東芝テック株式会社広報誌「てっくぷらざ」季刊発行			

その他の研究活動	連載：「敬語の使い方」各約10,000部 https://www.toshibatec.co.jp/tecplaza/pdf/index_voll25.pdf 令和6年7月 https://www.toshibatec.co.jp/tecplaza/pdf/index-voll26.pdf 令和6年10月 https://www.toshibatec.co.jp/tecplaza/pdf/index-voll27.pdf 令和7年1月 https://www.toshibatec.co.jp/tecplaza/pdf/index-voll28.pdf 令和7年4月 https://www.toshibatec.co.jp/tecplaza/pdf/index-voll29.pdf 令和7年7月 https://www.toshibatec.co.jp/tecplaza/pdf/index-voll30.pdf 令和7年10月 https://www.toshibatec.co.jp/tecplaza/pdf/index-voll31.pdf 令和8年1月 〔解説記事〕 毎日新聞掲載「金額の相場に渡し方一年明け前に知っておきたいお年玉のマナー」 https://mainichi.jp/articles/20241228/k00/00m/040/263000c 令和6年12月 〔その他〕
教 育	
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名 「簿記論Ⅰ・Ⅱ」（人間生活1名、月曜日2講時、火曜日3講時） 「総合政策特別演習Ⅱ」（総合政策37名、水曜日3講時） 「キャリアプランニングⅠ」（総合政策1名、金曜日3講時） ②後期担当授業科目名等 「コミュニケーション論」（保健福祉1年68名、水曜日2講時） 「ホスピタリティ入門」（総合政策4年1名、メディアデザイン3年2名） 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「金融資産運用」（商科1年5名・2年1名、月曜日1講時） 「簿記論Ⅰ」（商科1年19名、月曜日2講時、火曜日3講時） 「簿記論Ⅱ」（商科1年19名、月曜日2講時、火曜日3講時） 「ビジネスマナー上級」（商科2年13名、金曜日1講時） 「キャリアプランニングⅠ」 （商科1年17名、言語コミュニケーション学科1年4名、生活科学科生活科学専攻1年4名、音楽学科2年1名・1年2名、金曜日3講時） ②後期担当授業科目名 「簿記演習Ⅰ」（商科1年18名、月曜日3講時、火曜日3講時） 「簿記演習Ⅱ」（商科1年18名、月曜日3講時、火曜日3講時） 「総合ゼミナール」（商科1年15名、水曜日5講時） 「ホスピタリティ入門」（生活科学科生活科学専攻1年1名、商科2年13名、木曜日4講時） 「ビジネスマナー初級」（商科1年18名、言語コミュニケーション学科1年2名、生活科学科生活科学専攻2年1名・1年1名、金曜日3、4講時） 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (6) コマ} \\ \text{後期 (7) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (13) コマ 〔その他の指導状況〕
学生指導	・商科1年生担任として、学習・生活・就職活動の指導を行い、複数回の個人面談も実施した。

学生指導	・就職活動の相談、内定先へ提出する課題の添削など多岐にわたる。 ・出席率低下の学生については、初期の段階で保護者と連携しサポートを行った。 ・日商簿記検定や秘書技能検定では、理解度に合わせた個別の補講や、検定前対策講座を行いサポートした。 日商簿記検定試験前の補講：12時間 ・各イベントの準備や役割分担決定、学生指導など多岐にわたる。 〔学外実習〕 病院見学、先輩職員との座談会（田岡病院）
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 ・日本ビジネス実務学会会員 ・日本商業教育学会会員 〔公的機関の活動〕 ・農林漁家民宿向け動画作成及びスキルアップ研修会実施委員長 ・とくしま農山漁村応援し隊事業協働活動調整・活性化業務委託業者選定委員 ・徳島市男女共同参画推進ネットワーク会議委員 ・徳島市男女共同参画プラン推進評価委員 〔各種講演〕 ・7月30日 「再就職のためのビジネスマナー」 自衛隊徳島地方協力本部 ・2月9日 「再就職のためのビジネスマナー」 自衛隊徳島地方協力本部 ・2月13日 「福祉サービスの信頼づくり～接遇で学ぶ苦情対応～」 福祉サービス事業苦情受付担当者・苦情解決責任者・第三者委員講演 ・3月4日 「新規採用者職員研修」 JA徳島中央会 ・3月5日 「新規採用者職員研修」 JA徳島中央会 ・3月24日 「新入職員のためのビジネスマナー」 健祥会グループ ・3月26日 「内定者のためのビジネスマナー」 徳島新聞社グループ 〔出張講座〕 ・11月11日 「職場体験前のマナー講座」 美馬市立岩倉中学校2年生19名 ・1月23日 「相手に伝わるとは？～社会でも役立つ7つの原則～」 徳島県立池田高校辻校1年生38名 （進学説明） ・5月22日 徳島商業高校訪問 ・6月19日 阿南・那賀ブロック進学説明会 ・6月24日 徳島ブロック進学説明会 ・6月26日 吉野川ブロック進学説明会 （その他） 卒業生の転職に伴う、就職指導（履歴書の添削など）
学内活動	〔短期大学部の委員〕 ・入学前ガイダンス運営委員会委員 ・短大ホームページ広報委員（オープンキャンパス、Webページ） ・短大インターンシップ委員 ・短大オープンキャンパス運営委員 ・短大認証評価ワーキンググループ委員 ・「短大スタイルブック」担当 ・「大学案内」担当

学内活動	〔その他〕 ・ 8 月 1 日 地域と考えるSDGs講座「ロールモデルカフェ」徳島市連携事業 ・ 8 月 2 日 高校生のための公開セミナー 「面接成功へ導くための自己分析とマナー」 ・ 1 月14日 コミュニティ・カレッジ講座 「就活シーズン到来！ 90分で印象アップの就職マナー」 ・ 「ビジネスマナー初級」学内研究授業実施 ・ 徳島県立池田高校辻校の大学見学における体験授業実施 「事務職の仕事を体験しよう」 ・ 「オープンキャンパス」入試・学科説明、体験授業を担当 ・ 「短大フェスタ」企画、準備、学生指導 ・ 「入学前ガイダンス」全体会司会、スライド制作、学生指導 ・ 「総合型選抜入試・ミライのわたし」面接担当 ・ 「秘書技能検定」監督 ・ 「大学入学共通テスト」監督 ・ ホームページ、ブログ、インスタグラムの更新担当
------	--

氏 名	佐尾山 秀 樹 (さおやま ひでき)									
所属・職の種類	短期大学部商科 准教授、徳島キャンパス就職支援部 副部長									
最終学歴	鳴門教育大学大学院学校教育研究科 高度学校教育実践専攻修了教職修士（教職修第6号）									
着任の年月	2024年4月1日									
直前の職歴 (学校・企業等)	徳島県立みなと高等学園 校長									
研 究 (業績：過去5年間)										
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要						
〔著書〕										
〔論文〕										
〔発表〕										
科研費採択状況 (過去2年間)	該当なし									
研究助成金の交付等 (過去2年間)	該当なし									
特許申請状況 (過去2年間)	該当なし									
その他の研究活動	該当なし									
教 育										
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「教育の方法及び技術」（食栄4年、心理2年、メディア2・3年。23名。火曜日3講時） 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名 「教育の方法及び技術」（短音1年。2名。火曜日3講時） 第1クォーター「会計学」（商科2年。10名。月曜日2講時、金曜日2講時） 第2クォーター「会計学演習」（商科2年。10名。月曜日2講時、金曜日2講時） ②後期担当授業科目名 「食品流通論」（短食物2年。6名木曜日3講時） 第1クォーター「原価計算」（商科2年。10名。火曜日3講時、金曜日2講時） 第2クォーター「原価計算演習」（商科2年。10名。火曜日3講時、金曜日2講時） 〔全コマ数〕 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="border: none;">{</td> <td style="border: none;">前期 (3) コマ</td> <td style="border: none;">}</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">{</td> <td style="border: none;">後期 (3) コマ</td> <td style="border: none;">}</td> </tr> </table> 計 (6) コマ				{	前期 (3) コマ	}	{	後期 (3) コマ	}
{	前期 (3) コマ	}								
{	後期 (3) コマ	}								

授 業	〔その他の指導状況〕 令和7年度前期・後期教員養成対策講座 面接を担当
学生指導	①別進路相談…担当学科（食物栄養学科、児童学科、心理学科、音楽学部、及び短大商科、言コミ、食物専攻、保育、音楽）の学生に対して就職に関する進路指導を実施した。 ②学科別就職説明会…年間に担当各学科3回にわたり、就職活動の流れや時期に応じた留意事項について説明した。 ③インターンシップ…公的機関（法務省・県庁・市役所など）のインターンシップの実施の取りまとめを行った。
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 ①日本商業教育学会会員 〔公的機関の活動〕 ①阿波西高校 学校運営協議会会長 ・令和7年8月4日 第1回学校運営協議会 ・令和7年11月1日 第2回学校運営協議会 ・令和8年3月16日 第3回学校運営協議会 〔その他の活動〕 ①2025年度四国地区大学人権教育研究協議会 監査委員 ・徳島県大学人権教育研究大会（8月27日）
学内活動	①広報活動・高校訪問 ・県内高校巡回 徳島商業高校、阿波西高校 年間各校6回訪問 ・進学説明会（5月8日） ・ブロック別進学説明会（徳島ブロック6月24日、吉野川ブロック6月26日） ・教育懇談会（北九州支部）支部担当者として参加（8月30日） ②合同教授会・短大教授会（毎月1回） ③就職セミナーの運営 年間を通して行う就職支援部主催のセミナーの運営 ④令和7年度保護者向け就職セミナー 保護者を対象とした就職セミナーの計画と運営（令和8年3月7日）

氏 名	岡 本 武 由 (おかもと たけよし)			
所属・職の種類	短期大学部商科 准教授			
最終学歴	近畿大学 商経学部 経済学科 (経済学士)			
着任の年月	令和 6 年 4 月 1 日			
直前の職歴 (学校・企業等)	徳島県赤十字血液センター 事業部長 徳島赤十字ひのみね総合療育センター シニアスタッフ			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
[著書]				該当なし
[論文]				該当なし
[発表]				該当なし
科研費採択状況 (過去 2 年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去 2 年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	[短大関係] ①前期担当授業科目名 商科 1 年 「医療事務概論」 (13名、第 1 Q 水曜日 2 講時、木曜日 1 講時) 「医療事務各論Ⅰ」 (13名、第 2 Q 水曜日 2 講時、木曜日 1 講時) 商科 2 年 「医事コンピューター実務」 (11名、第 1 Q 水曜日 4 講時、木曜日 2 講時) 「医学一般」 (11名、第 2 Q 水曜日 4 講時、木曜日 2 講時) ②後期担当授業科目名 商科 1 年 「医療事務各論Ⅱ」 (11名、第 3 Q 水曜日 3 講時、木曜日 1 講時) 「医療秘書概論」 (10名、第 4 Q 水曜日 3 講時、木曜日 1 講時) 商科 2 年 「電子カルテ実務」 (10名、第 3 Q 水曜日 2 講時、木曜日 2 講時) 「介護保険事務概論」 (10名、第 4 Q 水曜日 2 講時、木曜日 2 講時)			

授 業	〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (4) コマ} \\ \text{後期 (4) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (8) コマ 〔その他の指導状況〕 ①前期集中講義（8月～9月 計3コマ） 「医療事務総論」（44名、1コマ） 「医療事務各論」（42名、1コマ） 「医療秘書概論」（41名、1コマ）
学生指導	商科1年 ・各授業を医療事務コースの基礎講座として位置付けた。 ・特に第1Q～第3Qに実施した「医療事務概論」「医療事務各論Ⅰ・Ⅱ」の各授業については、学生の絶え間ない学習意欲を引き出すよう一連の授業として積み重ね方式で進めた。 ・小テストや添削指導などにより学生の理解度を把握し個別指導につなげた。 ・「医療秘書概論」の授業においては、学外見学実習を徳島赤十字病院で実施し実務担当者による説明や病院内の事務部門の見学等により見識が深まるよう努めた。 商科2年 ・病院内で行われている医療事務業務の実際を理解するため1年次の基礎講座を基に医事コンピューター、電子カルテシステムの入力操作が習得できるよう指導した。 ・各種検定の受検を積極的に奨励し、受検者に対しては、検定対策の指導・助言を行った。 ・学外見学実習を「医学一般」および「介護保険事務概論」の各授業で実施し、徳島県赤十字血液センターと健祥会プレゼンテーションをそれぞれ訪問し、各種の体験等を通じて見識が深まるよう努めた。
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 ・日本医療秘書学会会員
学内活動	・オープンキャンパス 体験授業担当（6/15、7/26） ・「電子カルテ技能検定」監督（11/15） ・「医事コンピュータ技能検定」監督（11/15）

氏 名	青 山 佳 裕 (あおやま よしひろ)									
所属・職の種類	短期大学部一般総合科目 准教授 企画部 副部長									
最終学歴	広島大学教育学部教科教育学科数学教育学専修卒業 (教育学士)									
着任の年月	令和 3 年 4 月 1 日									
直前の職歴 (学校・企業等)	徳島県立城東高等学校 校長									
研 究 (業績：過去 5 年間)										
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要						
〔著書〕				該当なし						
〔論文〕				該当なし						
〔発表〕				該当なし						
科研費採択状況 (過去 2 年間)	該当なし									
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	該当なし									
特許申請状況 (過去 2 年間)	該当なし									
その他の研究活動	該当なし									
教 育										
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「数学 A」(心理 1 年、18 名。月曜日 4 講時・水曜日 4 講時) ②後期担当授業科目名等 「数学 A」(人間生活 1 年、4 名。金曜日 2 講時) 「生徒指導 (進路指導を含む)」(心理 2 年、18 名。水曜日 2 講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名等 「人権教育」 (言語コミュニケーション 2 年他 10 名。金曜日 3 講時) ②後期担当授業科目名等 「生徒指導 (進路指導を含む)」 (言語コミュニケーション 2 年、音楽 2 年他 29 名。月曜日 5 講時) 〔全コマ数〕 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="border: none;">{</td> <td style="border: none;">前期 (3) コマ</td> <td style="border: none;">}</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">{</td> <td style="border: none;">後期 (3) コマ</td> <td style="border: none;">}</td> </tr> </table> 計 (6) コマ				{	前期 (3) コマ	}	{	後期 (3) コマ	}
{	前期 (3) コマ	}								
{	後期 (3) コマ	}								

論文等指導	なし
学生指導	全学共通教育センター学習支援アドバイザー 教員採用審査直前講座面接指導 2 回（各回75分） 令和 7 年 6 月19日・25日
活 動	
学外活動	〔その他の活動〕 広報活動・高校訪問 ・高校訪問 城西高校、城西高校神山校 年間各校 5 回程度訪問 ・進学説明会・ブロック別進学説明会 令和 7 年 5 月 8 日、6 月24日
学内活動	①企画部業務 ・研究科・大学・短期大学人事関係業務、学部学科収容定員の管理等 ・中期目標・中期計画の進捗管理（令和 2 ～ 7 年度担当部署別行動計画の進捗管理、令和 8 年度事業計画書・令和 7 年度事業報告書取りまとめ など） ・令和 6 年度学園の事業報告書作成 ・申請業務（大学等における修学の支援に関する申請書作成、医療系学科の実習施設変更承認、各学科のカリキュラム変更手続き、学則変更の届出 など） ②委員会活動等 合同教授会（11回）、短期大学部教授会（11回） 人権教育推進委員会（1 回） 自己点検・評価実施委員会（大学）（2 回） 自己点検・評価実施委員会（短期大学部）（1 回）

氏 名	永 本 智 富 （ な が も と ち ぶ ）			
所属・職の種類	短期大学部一般総合科目 助教			
最終学歴	徳島大学大学院 創成科学研究科 地域創成専攻 博士前期課程 修了 修士			
着任の年月	令和 4 年 4 月			
直前の職歴 (学校・企業等)	徳島文理大学国際部国際交流課事務主任（併任） 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部非常勤講師			
研 究 （業績：過去 5 年間）				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔論文〕 「ICTを活用した 外国語教育の実践 課題と展望 ―日 本と台湾の大学生 を対象とした言語 協働学習を事例と して―」	単著	2025年 2 月	徳島大学修士学位論文	本研究は日本と台湾の大学生が参加したICTを活用した言語協働学習の実践研究。ZoomやGoogleスライド等を用い、発音・作文・発表を循環型モデルで展開。学習意欲や異文化理解、心理的安全性の向上が認められ、言語教育におけるICTの有効性を実証した。
〔論文〕 「ICTを活用した 日台大学生による 言語協働学習の効果」	単著	2026年 1 月	徳島大学地域科学研究紀要論文	本研究は、日本と台湾の大学生を対象に、ZoomやGoogleスライド等のICTを活用した15回の協働型言語学習を実施し、その教育的効果を検証したものである。母語話者同士が教え合う活動を通じて、語彙・発音・会話力の向上に加え、学習意欲や異文化理解の深化、心理的安全性の向上が確認された。ICTを介した協働学習が、主体的で継続的な国際交流を促す有効な教育モデルであることが示唆された
科研費採択状況 (過去 2 年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去 2 年間)	該当なし			
その他の研究活動	博士論文研究として、「郷土料理のランドスケープに関する文化人類学的研究 ―食を通じた都市 ―農村関係の再構築―」に取り組んでいる。徳島県内の神社祭礼と郷土料理を対象に、長期参与型フィールドワークを実施し、食を媒介とした都市 ―農村関係の再構築プロセスを文化人類学的に分析している。			

教 育	
授 業	〔学部関係〕 ①前期担当授業科目名等 「外国語総合科目C①中国語」 (食物栄養1年・4年、心理1年・2年・3年、保健福祉1年、メディアデザイン1年、建築デザイン1年・4年。計42名。火曜日3講時) (総合政策1年・3年・4年、人間生活1年、メディアデザイン4年。計24名。木曜日1講時) ②後期担当授業科目名等 「外国語総合科目C②中国語」 (食物栄養1年、心理1年・2年・3年、メディアデザイン1年、建築デザイン1年・4年、総合政策1年・4年、人間生活1年・2年 計51名。火曜日3講時) (総合政策1年、食物栄養1年、児童1年、保健福祉1年 計7名。木曜日1講時) 〔短大関係〕 ①前期担当授業科目名等 「外国語総合科目C①中国語」 (言語コミュニケーション1年。計1名。火曜日3講時) ②前期担当授業科目名等 「外国語総合科目C②中国語」 (言語コミュニケーション1年・2年。計4名。木曜日1講時) 〔全コマ数〕 $\left\{ \begin{array}{l} \text{前期 (2) コマ} \\ \text{後期 (2) コマ} \end{array} \right\}$ 計 (4) コマ 〔その他の指導状況〕 中国語チャートタイムの指導 前期：2025年5月～6月 計8回 毎週木曜日12:00～13:00 後期：2025年10月～12月 計9回 毎週木曜日12:00～13:00
学生指導	・外国人留学生の学習及び生活などの指導 ・短期留学参加希望者への相談及び指導 ・HSK1級・2級中国語検定試験受験生指導
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 ・中国語教育学会会員 ・日本中国語学会会員 ・日本語教育学会会員 ・日本計画行政学会会員 〔公的機関の活動〕 ・民生委員・児童委員美波町担当 ・徳島県日本語教育事業運営委員会委員 〔その他の活動〕 ・台湾高大連携校新民高級中学への訪問、本学への進学説明会を実施 2025. 9 ・台湾高大連携校樹徳家事商業職業学校への訪問、本学への進学説明会の実施 2025. 9 ・台湾協定校中山医学大学への訪問、本学の学生との交流、本学への進学説明会を実施 2025. 9

学外活動	・台湾協定校中山医学大学看護学科・理学療法学科学、病院見学、本学の学生との交流を実施 2025. 9 ・台湾協定校義守大学への訪問、本学への進学説明会を実施 2025. 9 ・台湾高大連携校南湖高級中学への訪問、本学への進学説明会を実施 2026. 3 ・台湾高大連携校新民高級中学への訪問、本学への進学説明会を実施 2026. 3 ・台湾高大連携校樹徳家事商業職業学校への訪問、本学の学生との交流、本学への進学説明会の実施 2026. 3 ・台湾協定校中山医学大学への訪問、本学への進学説明会を実施 2026. 3 ・台湾協定校義守大学への訪問、本学への進学説明会を実施 2026. 3
学内活動	〔国際交流課〕 ・台湾・中国協定校・高大提携校との調整業務 ・外国人留学生の募集・入学後学習支援及び生活支援 ・協定校から本学へ派遣する交換留学生の受入れ業務 ・海外学生（短期留学）の受入業務 - 夏期日本語・日本文化研修（大学生コース・高校生コース） - プログラムの企画・実施・全体の運営 ・学生海外留学への派遣業務 - オンライン台湾留学の企画・実施・全体の運営 - 秋期台湾中山医学大学短期留学プログラムの企画・実施・全体の運営 - 秋期中国広東省外語芸術職業学院短期留学プログラムの企画・実施・全体の運営 - 台湾中山医学大学看護学科・理学療法学科交流プログラムの企画・実施・全体の運営 - 春期台湾義守大学短期留学プログラムの企画・実施・全体の運営 - 春期台湾淡江大学短期留学プログラムの企画・実施・全体の運営 ・外国人留学生対象新入学生オリエンテーションの企画・実施・全体の運営 ・外国人留学生対象日本語能力試験対策講座の企画・実施・全体の運営 ・外国人留学生対象史跡研修の企画・実施・全体の運営 ・本学で実施する中国語HSK検定試験 試験監督 2025. 11（1級）2026. 2（2級） 〔大学運営〕 ・オープンキャンパス - 国際交流課において留学プログラムの説明及び相談 ・短期大学部教授会 毎月1回 ・インターンシップ推進委員会 2025. 6. 11 ・試験監督（一般入試Ⅰ期B）2026. 2. 3 ・国際交流委員会 2025. 9. 3、2026. 3. 10

氏 名	金 俔 希 (きむ ぎょんひ)			
所属・職の種類	短期大学部一般総合科目 助教			
最終学歴	仁済大学校 (INJE UNIVERSITY) 人文社会科学学部日語日文学科卒業 (文学学士)			
着任の年月	令和 4 年 4 月			
直前の職歴 (学校・企業等)	徳島文理大学国際部国際交流課チーフアドバイザー (併任) 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部非常勤講師			
研 究 (業績：過去 5 年間)				
著書・学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発 行 又 は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
〔著書〕 〔論文〕 〔発表〕				
科研費採択状況 (過去 2 年間)	該当なし			
研究助成金の交付等 (過去 2 年間)	該当なし			
特許申請状況 (過去 2 年間)	該当なし			
その他の研究活動	該当なし			
教 育				
授 業	〔大学院関係〕 該当なし 〔専攻科関係〕 該当なし 〔学部関係〕 該当なし 〔短大関係〕 該当なし 〔その他の指導状況〕 語学センター企画講座 「韓国語チャットタイム」における語学指導 (後期：令和 7 年10月15日～12月24日までの毎週水曜日16：30～17：00) 〔大学院等の論文等の指導〕 該当なし			

学生指導	・長期、短期留学参加に関する個別相談 ・検定試験（TOPIK韓国語能力試験）対策指導 ・その他語学学習全般に関する個別相談 ・韓国夏期短期留学参加学生に対する事前オリエンテーション ・協定校への交換留学派遣学生に対する出発前準備及びオリエンテーション ・協定校への交換留学生の現地視察
活 動	
学外活動	〔学会活動関係〕 〔公的機関の活動〕 徳島地域留学生交流推進協議会会報「かずらばし」編集委員会委員 徳島県立総合大学校「まなびーあ徳島」講師登録 国際ロータリー第2670地区 徳島第Ⅰ・第Ⅱ分区 米山協議会指定校関係者会合 （令和7年9月13日） 〔その他の活動〕 2025年徳島県主催「県内大学生による韓国旅行商品企画・プロモーション事業」の 引率、参加学生（2名）指導、ワークショップ引率（令和7年12月～令和8年3月）
学内活動	①徳島文理大学ハラスメント防止委員 令和7年度研修会は、国外出張のため欠席 ②国際交流委員会事務局 第一回委員会：令和7年9月3日（水）国外出張のため欠席 第二回委員会：令和8年3月10日（火）に、事務局員として出席 ③国際部国際交流課業務 ・外国人留学生の受け入れ及び学習・生活支援 ・夏期韓国短期留学派遣プログラム企画運営及び引率 ・春期韓国短期留学派遣プログラム企画運営及び引率 ・長期交換留学生派遣プログラム企画運営及び帰国した学生の単位置換認定支援業務、広報 ・夏期日本語・日本文化研修受入れ（韓国・台湾の協定校からの短期プログラム受入れ） （大学生コース：令和7年7月1日～7月10日、 高校生コース：令和7年7月14日～7月21日） ・海外学術交流協定大学（韓国）との連絡業務 ・学術交流協定校等からの来賓対応 ・学園幹部教職員の国外出張時の通訳同行 ・海外の指定校、業務提携エージェント企業との留学生募集に関する連絡業務 ・外国人留学生募集・入試業務支援

参 考 資 料

- 全 学 授 業 ア ン ケ ー ト
- 在学生対象・学修状況アンケート
- 卒業予定者対象・大学生活満足度アンケート

授業アンケート集計結果					徳島文理大学		
実施年度	2025年度 前期		対象	短期大学部（全体）			
対象数	7,938	回答数	6,292	回答率(%)	79.3	有効回答数	6,217
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				2,420	0.39	3.11	
部分的に読んだ(3点)				2,521	0.41		
ほとんど読まなかった(2点)				839	0.13		
まったく読まなかった(1点)				437	0.07		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				2,719	0.44	3.31	
どちらかというに興味があった(3点)				2,822	0.45		
どちらかというに興味がなかった(2点)				570	0.09		
まったく興味がなかった(1点)				106	0.02		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				3,846	0.62	3.54	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				1,986	0.32		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				308	0.05		
わかりにくい内容であった(1点)				77	0.01		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				5,572	89.63		
自立性				2,005	32.25		
協同性				1,673	26.91		
考え抜く力				2,106	33.87		
交渉力				1,086	17.47		
発信力				1,172	18.85		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				4,637	74.59		
授業の進め方				3,550	57.10		
教科書・パワーポイントなどの資料				2,667	42.90		
課題や宿題の内容（量も含む）				1,696	27.28		
教室の設備				1,999	32.15		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				2,003	0.32	3.06	
良(3点)				2,673	0.43		
可(2点)				1,437	0.23		
不可(1点)				104	0.02		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				3,600	0.58	3.54	
どちらかという満足(3点)				2,405	0.39		
どちらかという不満足(2点)				156	0.03		
不満足(1点)				56	0.01		

授業アンケート集計結果					徳島文理大学		
実施年度	2025年度 後期		対象	短期大学部（全体）			
対象数	3,932	回答数	3,075	回答率(%)	78.2	有効回答数	3,060
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				1,041	0.34	3.09	
部分的に読んだ(3点)				1,398	0.46		
ほとんど読まなかった(2点)				480	0.16		
まったく読まなかった(1点)				141	0.05		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				1,152	0.38	3.28	
どちらかというに興味があった(3点)				1,656	0.54		
どちらかというに興味がなかった(2点)				222	0.07		
まったく興味がなかった(1点)				30	0.01		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				1,737	0.57	3.51	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				1,152	0.38		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				159	0.05		
わかりにくい内容であった(1点)				12	0.00		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				2,745	89.71		
自立性				1,068	34.90		
協同性				786	25.69		
考え抜く力				1,080	35.29		
交渉力				462	15.10		
発信力				438	14.31		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				2,310	75.49		
授業の進め方				1,830	59.80		
教科書・パワーポイントなどの資料				1,452	47.45		
課題や宿題の内容（量も含む）				864	28.24		
教室の設備				909	29.71		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				813	0.27	3.05	
良(3点)				1,587	0.52		
可(2点)				651	0.21		
不可(1点)				9	0.00		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				1,719	0.56	3.54	
どちらかという満足(3点)				1,275	0.42		
どちらかという不満足(2点)				66	0.02		
不満足(1点)				0	0.00		

授業アンケート集計結果					徳島文理大学		
実施年度	2025年度 前期		対象	大学全体			
対象数	33,409	回答数	22,294	回答率(%)	66.7	有効回答数	22,172
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				8,012	0.36	3.12	
部分的に読んだ(3点)				10,108	0.46		
ほとんど読まなかった(2点)				2,818	0.13		
まったく読まなかった(1点)				1,234	0.06		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				8,194	0.37	3.22	
どちらかというに興味があった(3点)				11,048	0.50		
どちらかというに興味がなかった(2点)				2,455	0.11		
まったく興味がなかった(1点)				475	0.02		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				12,115	0.55	3.46	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				8,389	0.38		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				1,370	0.06		
わかりにくい内容であった(1点)				298	0.01		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				19,591	88.36		
自立性				8,661	39.06		
協同性				6,478	29.22		
考え抜く力				9,482	42.77		
交渉力				4,214	19.01		
発信力				3,559	16.05		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				16,433	74.12		
授業の進め方				13,913	62.75		
教科書・パワーポイントなどの資料				10,974	49.49		
課題や宿題の内容（量も含む）				8,249	37.20		
教室の設備				7,774	35.06		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				8,572	0.39	3.18	
良(3点)				9,290	0.42		
可(2点)				4,114	0.19		
不可(1点)				196	0.01		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				12,594	0.57	3.52	
どちらかという満足(3点)				8,623	0.39		
どちらかという不満足(2点)				802	0.04		
不満足(1点)				153	0.01		

授業アンケート集計結果					徳島文理大学		
実施年度	2025年度 後期		対象	大学全体			
対象数	33,214	回答数	20,523	回答率(%)	61.8	有効回答数	20,337
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				7,642	0.38	3.15	
部分的に読んだ(3点)				9,094	0.45		
ほとんど読まなかった(2点)				2,545	0.13		
まったく読まなかった(1点)				1,056	0.05		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				7,735	0.38	3.26	
どちらかというに興味があった(3点)				10,495	0.52		
どちらかというに興味がなかった(2点)				1,799	0.09		
まったく興味がなかった(1点)				308	0.02		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				11,215	0.55	3.48	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				7,904	0.39		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				1,037	0.05		
わかりにくい内容であった(1点)				181	0.01		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				18,147	89.23		
自立性				7,962	39.15		
協同性				5,919	29.10		
考え抜く力				8,150	40.07		
交渉力				3,886	19.11		
発信力				3,202	15.74		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				15,389	75.67		
授業の進め方				12,551	61.72		
教科書・パワーポイントなどの資料				9,686	47.63		
課題や宿題の内容（量も含む）				7,182	35.31		
教室の設備				6,768	33.28		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				8,253	0.41	3.23	
良(3点)				8,549	0.42		
可(2点)				3,412	0.17		
不可(1点)				123	0.01		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				11,726	0.58	3.54	
どちらかという満足(3点)				7,919	0.39		
どちらかという不満(2点)				579	0.03		
不満(1点)				113	0.01		

在学生対象・学修状況アンケート集計結果					徳島文理大学
実施年度	2025年度後期	対象	短期大学部（全体）		
対象者数	105	回答数	87	回答率(%)	82.9
2) いま、あなたが大学でやりたいことをすべて選択してください〔複数選択可〕					
設問		回答数	選択率		
専門的な勉強		76	0.87		
基礎的な勉強（語学やプレゼンスキルなど）		40	0.46		
最先端の研究		7	0.08		
資格や免許の取得		64	0.74		
社会貢献（ボランティアなど）		14	0.16		
自由な時間を楽しむ（旅行や読書、芸術活動など）		45	0.52		
学友との交流（サークル活動を含む）		27	0.31		
起業などのビジネス		3	0.03		
スポーツやトレーニング		15	0.17		
その他		0	0.00		
3) この一年間、授業時間を除いた一日あたりの平均的な学修時間を選択してください〔必須〕					
設問		回答数	比率	加重平均	
30分未満(0点)		33	0.38	0.97	
30分～1時間(1点)		35	0.40		
1時間～2時間(2点)		12	0.14		
2時間～3時間(3点)		3	0.03		
3時間以上(4点)		4	0.05		
4) 先ほどの平均的な学修時間は昨年と比較してどうですか〔必須〕					
設問		回答数	比率	加重平均	
増加した(1点)		15	0.17	0.08	
変わらない(0点)		64	0.74		
減少した(-1点)		8	0.09		
5) いま、あなたの卒業後の具体的な目標（夢）が言えますか〔必須〕					
設問		回答数	比率	加重平均	
言える(1点)		52	0.60	0.60	
言えない(0点)		35	0.40		
6) この一年間、学修に対するモチベーション（学修意欲）はありましたか〔必須〕					
設問		回答数	比率	加重平均	
あった(3点)		30	0.34	2.22	
どちらかといえばあった(2点)		47	0.54		
どちらかといえばあったいえない(1点)		9	0.10		
なかった(0点)		1	0.01		
7) 学内に気軽に相談できる友人や教職員がいますか〔必須〕					
設問		回答数	比率	加重平均	
いる(1点)		84	0.97	0.97	
いない(0点)		3	0.03		

8) この一年間、大学で授業を受けたくないと思ったことがありますか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
あった(1点)	41	0.47	0.47
なかった(0点)	46	0.53	

9) この一年間、将来のあなたに役立ちそうな何か新しい挑戦をしましたか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
新しい挑戦をした(1点)	66	0.76	0.76
新しい挑戦をしていない(0点)	21	0.24	

10) あなたはストレスに強いですか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	8	0.09	2.85
ややそう思う(4点)	24	0.28	
どちらでもない(3点)	18	0.21	
あまりそう思わない(2点)	21	0.24	
そう思わない(1点)	16	0.18	

11) あなたは自分をコントロールするよりも、信頼できる誰かにコントロールされる方がいい [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	10	0.11	2.93
ややそう思う(4点)	19	0.22	
どちらでもない(3点)	28	0.32	
あまりそう思わない(2点)	15	0.17	
そう思わない(1点)	15	0.17	

《授業・教育課程について》			
12) この一年間に受講した授業科目数は多いと感じましたか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	19	0.22	3.43
ややそう思う(4点)	25	0.29	
どちらでもない(3点)	21	0.24	
あまりそう思わない(2点)	18	0.21	
そう思わない(1点)	4	0.05	

13) この一年間に受講した授業内容はむずかしいと感じましたか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	18	0.21	3.66
ややそう思う(4点)	39	0.45	
どちらでもない(3点)	15	0.17	
あまりそう思わない(2点)	12	0.14	
そう思わない(1点)	3	0.03	

14) この一年間に受講した授業は興味深い（有益と感じられた）ものでしたか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	42	0.48	4.31
ややそう思う(4点)	33	0.38	
どちらでもない(3点)	10	0.11	
あまりそう思わない(2点)	1	0.01	
そう思わない(1点)	1	0.01	
15) あなたは授業でわからないことや宿題などをひとりで学習することができますか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	30	0.34	4.00
ややそう思う(4点)	36	0.41	
どちらでもない(3点)	12	0.14	
あまりそう思わない(2点)	9	0.10	
そう思わない(1点)	0	0.00	
16) あなたは集団で学修するより、ひとりで学修する方が好きですか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	24	0.28	3.64
ややそう思う(4点)	26	0.30	
どちらでもない(3点)	21	0.24	
あまりそう思わない(2点)	14	0.16	
そう思わない(1点)	2	0.02	
17) この一年間、教員または職員と個人的な面談をしたことがありますか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
したことがある(1点)	72	0.83	0.83
したことがない(0点)	15	0.17	
18) この一年間、大学生活や授業の中で、不快に感じるような言動を受けたことがありますか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
受けたことがある(1点)	11	0.13	0.13
受けたことがない(0点)	76	0.87	
19) この一年間、授業以外の学修活動（講演会、補習など）に自主的に参加しましたか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
参加した(1点)	40	0.46	0.46
参加していない(0点)	47	0.54	
20) この一年間、（授業の）課題のために図書館を利用したことがありますか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
利用したことがある(1点)	40	0.46	0.46
利用したことがない(0点)	47	0.54	
21) この一年間、定期的に学内のサークル活動に参加しましたか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
参加した(1点)	18	0.21	0.21
参加していない(0点)	69	0.79	

《総合評価》			
22) この一年間に本学で体験したこと（学修や課外活動など）に満足しましたか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	39	0.45	4.28
ややそう思う(4点)	37	0.43	
どちらでもない(3点)	9	0.10	
あまりそう思わない(2点)	0	0.00	
そう思わない(1点)	2	0.02	

23) この一年間であなたは自分自身の成長を感じていますか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	31	0.36	4.10
ややそう思う(4点)	40	0.46	
どちらでもない(3点)	11	0.13	
あまりそう思わない(2点)	4	0.05	
そう思わない(1点)	1	0.01	

【備考】
(1) 2025年12月時点で学務システムに登録されているデータを利用して算出しています。

在学生対象・学修状況アンケート集計結果	徳島文理大学
---------------------	--------

実施年度	2025年度後期	対象	大学全体
------	----------	----	------

対象者数	3765	回答数	1813	回答率(%)	48.2
------	------	-----	------	--------	------

2) いま、あなたが大学でやりたいことをすべて選択してください [複数選択可]

設問	回答数	選択率
専門的な勉強	1600	0.88
基礎的な勉強（語学やプレゼンスキルなど）	932	0.51
最先端の研究	274	0.15
資格や免許の取得	1098	0.61
社会貢献（ボランティアなど）	250	0.14
自由な時間を楽しむ（旅行や読書、芸術活動など）	901	0.50
学友との交流（サークル活動を含む）	648	0.36
起業などのビジネス	57	0.03
スポーツやトレーニング	246	0.14
その他	9	0.00

3) この一年間、授業時間を除いた一日あたりの平均的な学修時間を選択してください [必須]

設問	回答数	比率	加重平均
30分未満(0点)	360	0.20	1.51
30分～1時間(1点)	622	0.34	
1時間～2時間(2点)	515	0.28	
2時間～3時間(3点)	172	0.09	
3時間以上(4点)	144	0.08	

4) 先ほどの平均的な学修時間は昨年と比較してどうですか [必須]

設問	回答数	比率	加重平均
増加した(1点)	727	0.40	0.27
変わらない(0点)	847	0.47	
減少した(-1点)	239	0.13	

5) いま、あなたの卒業後の具体的な目標（夢）が言えますか [必須]

設問	回答数	比率	加重平均
言える(1点)	1160	0.64	0.64
言えない(0点)	653	0.36	

6) この一年間、学修に対するモチベーション（学修意欲）はありましたか [必須]

設問	回答数	比率	加重平均
あった(3点)	584	0.32	2.12
どちらかといえばあった(2点)	920	0.51	
どちらかといえばあったいかなかった(1点)	244	0.13	
なかった(0点)	65	0.04	

7) 学内に気軽に相談できる友人や教職員がいますか [必須]

設問	回答数	比率	加重平均
いる(1点)	1651	0.91	0.91
いない(0点)	162	0.09	

8) この一年間、大学で授業を受けたくないと思ったことがありますか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
あった(1点)	925	0.51	0.51
なかった(0点)	888	0.49	

9) この一年間、将来のあなたに役立ちそうな何か新しい挑戦をしましたか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
新しい挑戦をした(1点)	1214	0.67	0.67
新しい挑戦をしていない(0点)	599	0.33	

10) あなたはストレスに強いですか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	234	0.13	2.88
ややそう思う(4点)	409	0.23	
どちらでもない(3点)	380	0.21	
あまりそう思わない(2点)	489	0.27	
そう思わない(1点)	301	0.17	

11) あなたは自分をコントロールするよりも、信頼できる誰かにコントロールされる方がいい [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	228	0.13	2.94
ややそう思う(4点)	422	0.23	
どちらでもない(3点)	465	0.26	
あまりそう思わない(2点)	411	0.23	
そう思わない(1点)	287	0.16	

《授業・教育課程について》			
12) この一年間に受講した授業科目数は多いと感じましたか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	382	0.21	3.33
ややそう思う(4点)	477	0.26	
どちらでもない(3点)	460	0.25	
あまりそう思わない(2点)	353	0.19	
そう思わない(1点)	141	0.08	

13) この一年間に受講した授業内容はむずかしいと感じましたか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	517	0.29	3.79
ややそう思う(4点)	706	0.39	
どちらでもない(3点)	342	0.19	
あまりそう思わない(2点)	191	0.11	
そう思わない(1点)	57	0.03	

14) この一年間に受講した授業は興味深い（有益と感じられた）ものでしたか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	733	0.40	4.21
ややそう思う(4点)	830	0.46	
どちらでもない(3点)	182	0.10	
あまりそう思わない(2点)	42	0.02	
そう思わない(1点)	26	0.01	
15) あなたは授業でわからないことや宿題などをひとりで学習することができますか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	600	0.33	3.94
ややそう思う(4点)	759	0.42	
どちらでもない(3点)	236	0.13	
あまりそう思わない(2点)	182	0.10	
そう思わない(1点)	36	0.02	
16) あなたは集団で学修するより、ひとりで学修する方が好きですか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	500	0.28	3.64
ややそう思う(4点)	547	0.30	
どちらでもない(3点)	448	0.25	
あまりそう思わない(2点)	248	0.14	
そう思わない(1点)	70	0.04	
17) この一年間、教員または職員と個人的な面談をしたことがありますか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
したことがある(1点)	1320	0.73	0.73
したことがない(0点)	493	0.27	
18) この一年間、大学生活や授業の中で、不快に感じるような言動を受けたことがありますか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
受けたことがある(1点)	351	0.19	0.19
受けたことがない(0点)	1462	0.81	
19) この一年間、授業以外の学修活動（講演会、補習など）に自主的に参加しましたか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
参加した(1点)	749	0.41	0.41
参加していない(0点)	1064	0.59	
20) この一年間、（授業の）課題のために図書館を利用したことがありますか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
利用したことがある(1点)	1409	0.78	0.78
利用したことがない(0点)	404	0.22	
21) この一年間、定期的に学内のサークル活動に参加しましたか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
参加した(1点)	573	0.32	0.32
参加していない(0点)	1240	0.68	

《総合評価》			
22) この一年間に本学で体験したこと（学修や課外活動など）に満足しましたか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	592	0.33	4.08
ややそう思う(4点)	891	0.49	
どちらでもない(3点)	237	0.13	
あまりそう思わない(2点)	67	0.04	
そう思わない(1点)	26	0.01	

23) この一年間であなたは自分自身の成長を感じていますか [必須]			
設問	回答数	比率	加重平均
そう思う(5点)	644	0.36	4.05
ややそう思う(4点)	796	0.44	
どちらでもない(3点)	233	0.13	
あまりそう思わない(2点)	97	0.05	
そう思わない(1点)	43	0.02	

【備考】
(1) 2025年12月時点で学務システムに登録されているデータを利用して算出しています。

2025年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果										短期大学部（全体）	
性別	男性	女性	在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	43	
	4	31		36	0	0	0	0		回答数	
	就職	進学		あなたの成績について 一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	83.7
卒業後の進路	22	11	3				13	15	8		

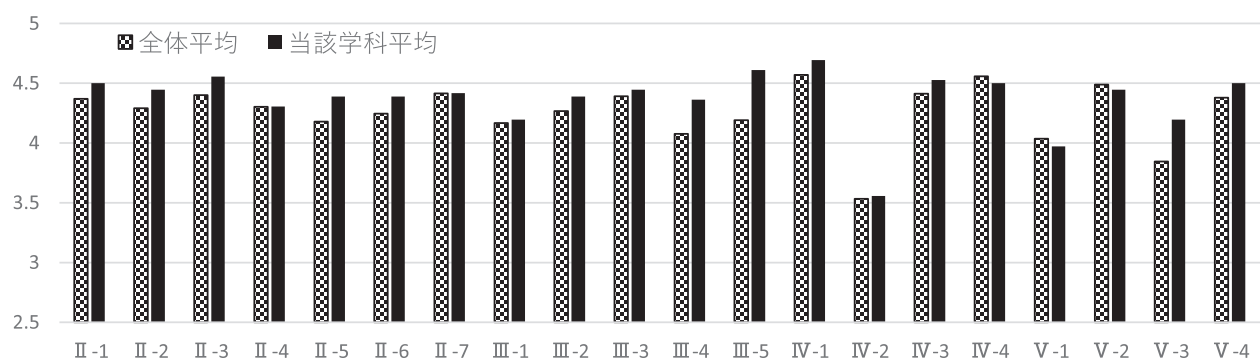
Ⅱ. 授業・教育課程について（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	22	11	2	1	0	4.50
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	20	12	4	0	0	4.44
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	25	8	2	0	1	4.56
4	教育に対する熱意は感じられましたか	18	13	4	0	1	4.31
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	23	7	4	1	1	4.39
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	19	12	5	0	0	4.39
7	授業や教育課程を通じて、自分の成長を実感できましたか	21	11	3	0	1	4.42

Ⅲ. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	17	11	7	0	1	4.19
2	各キャンパスの図書館は利用しやすかったですか	21	8	7	0	0	4.39
3	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	21	10	5	0	0	4.44
4	各キャンパスの食堂やコンビニに満足していましたか	22	7	5	2	0	4.36
5	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	25	8	3	0	0	4.61

Ⅳ. キャンパスライフについてお尋ねします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	28	5	3	0	0	4.69
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	13	2	15	4	2	3.56
3	頼りになる教員に出会えましたか	25	7	3	0	1	4.53
4	よき友と出会えましたか	24	8	3	0	1	4.50

Ⅴ. 総合評価をお願いします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	12	14	8	1	1	3.97
2	本学での学びは、自分の将来に役立つと感じていますか	22	10	3	0	1	4.44
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	14	17	4	0	1	4.19
4	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	23	10	2	0	1	4.50

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2025年度 卒業予定者対象大学生生活満足度アンケート集計結果

大学全体

性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	887
	304	382			50	594	55	4	0	回答数	703
卒業後の進路	就職	進学	未定		あなたの成績について一番多かったのは		優	良	可	回答率(%)	79.3
	304	382	17				264	343	96		

II. 授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	343	290	58	10	2	4.37
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	304	318	65	13	3	4.29
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	377	256	50	14	6	4.40
4	教育に対する熱意は感じられましたか	326	288	68	17	4	4.30
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	313	254	95	30	11	4.18
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	310	284	84	21	4	4.24
7	授業や教育課程を通じて、自分の成長を実感できましたか	375	261	55	7	5	4.41

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	337	221	93	29	23	4.17
2	各キャンパスの図書館は利用しやすかったですか	374	196	94	24	15	4.27
3	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	392	224	64	16	7	4.39
4	各キャンパスの食堂やコンビニに満足していましたか	313	228	88	50	24	4.08
5	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	312	256	101	25	9	4.19

IV. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	467	185	40	6	5	4.57
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	197	132	266	64	44	3.53
3	頼りになる教員に出会えましたか	415	201	58	19	10	4.41
4	よき友と出会えましたか	487	160	30	13	13	4.56

V. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	279	252	116	30	26	4.04
2	本学での学びは、自分の将来に役立つと感じていますか	421	229	38	6	9	4.49
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	232	237	160	41	33	3.84
4	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	376	246	57	18	6	4.38

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)

